

常用漢字練習 Part II

Prof. Dr. TIO SUN-BUN 編
tiosunbun@gmail.com

2010-0801

あ

0001 亜 ^{おか} ^{うえ} ^{はくあ} ^{ようかん} ^{あまいろ} ^{かみ} ^{しょうじょ} ^す
□丘の上に白亜の洋館があり、亜麻色の髪の少女が住んでいる。

□^{おきなわ} ^{あねったいきこう} ^{ねったい} ^{しょくぶつ}
沖縄は亜熱帯気候なので、ハイビスカスなどの熱帯の植物もたくさん咲きいています。

□^{ありゅう} ^お
まねばかりしていると、亜流で終わってしまうよ。

0002 哀 ^{あき} ^{あいちょう} ^{うた} ^に ^あ
□秋は哀調をおびた歌がよく似合う。

□^{あいかん} ^{とも} ^{しんゆう} ^な ^{あいとう} ^い ^{しめ}
哀歓を共にしてきた親友を亡くし、哀悼の意を示す。

□^{しょうじょ} ^{あいしゅう} ^{うみ} ^み
少女は哀愁をたたえたまなざしで海を見つめている。

□^{せんそう} ^{おや} ^{うしな} ^{しょうねん} ^{ひあい} ^か
戦争で親を失った少年の悲哀を描く。

□^{はは} ^{こども} ^{いのち} ^{たす} ^{おう} ^{あいがん}
母は子供の命だけは助けてくれるように、王に哀願した。

□^{おきな} ^{おや} ^{わか} ^こ ^{あわ}
幼くて、親に別れた子は哀れた。

0003 握 ^{しゅしょう} ^{だいてりょう} ^{かた} ^{あくしゅ} ^か
□首相と大統領は堅く握手を交わした。

□^{あくりよく} ^{つよ} ^{とう} ^{にぎ} ^{めし} ^{かた}
握力が強いお父さんが握り飯はかちかちに固まっていた。

0004 扱 ^{とう} ^{みせ} ^{てんいん} ^{きやくあつか} ^い
□レストランでお父さんが、「この店の店員は客扱いがいいいな」と言いました。

□^{あた} ^{せいひん} ^{こうにゅう} ^{とき} ^{せつめいしょ} ^よ ^と ^{あつか} ^{じゅうぶんき}
新しい製品を購入した時には説明書をよく読んで、取り扱いには十分気をつけましょ
う。

0005 案 ^{みち} ^し ^{あん} ^{あん} ^{じょうみち} ^{まよ}
□道をよく知らなかったので案じていたら、案の定道に迷いました。

□問題^{もんだい}は案外^{あんがい}やさしく、答案^{とうあん}は簡単^{かんたん}に書^かけました。

い

0006 威 □校長先生^{こうちょうせんせい}は威厳^{いげん}のある顔つき^{かお}をしています。

□威勢^{いせい}のよい掛け声^かとともに、祭り^{まつ}のみこしが通り^{とお}を練り歩^ねいている。

0007 為 □表彰状^{ひょうしょうじょう}はりっぱな行為^{こうい}をほめたたえるための賞状^{しょうじょう}です。

□「為政者^{いせいしや}は無為無策^{むいむさく}を棚^{だな}にあげて、税金^{ぜいきん}の無駄遣^{むだづか}いばかりしている」と、父^{ちち}はよく、ぼやいている。

0008 尉 □尉官^{いかん}の位^{くらい}は昔^{むかし}は大尉^{たいい}、中尉^{ちゅうい}、少尉^{しょうい}と分けられていましたが、いまの日本^{にほん}の自衛隊^{じえいたい}では一尉^{いちい}、二尉^{にい}、三尉^{さんい}に分けられています。陸上自衛隊^{りくじょうじえいたい}は陸尉^{りくい}、海上自衛隊^{かいじょうじえいたい}は海尉^{かいい}、航空自衛隊^{こうくうじえいたい}は空尉^{くうい}と呼ばれています。

0009 異 □急^{きゅう}に起きる変わった出来事^おを異変^{できごと}といいます。

□体^{からだ}の異状^{いじょう}で病院^{びょういん}へ行^いったが、検査^{けんさ}の結果^{けっか}、異常^{いじょう}なしでした。

0010 維 □織物^{おりもの}や紙材料^{かみざいりょう}にする繊維^{せんい}には蚕^{かいこ}の繭^{まゆ}などの天然繊維^{てんねんせんい}とナイロンなどの化学繊維^{かがくせんい}がある。また生物^{せいぶつ}の体^{からだ}を作^{つく}っている細長い筋^{ほそなが}も繊維^{せんい}と呼ばれる。

□健康^{けんこう}を維持^いするために、繊維質^{せんいしつ}の多い野菜^{おお}をたっぷり食^{やさい}べましょう。

□明治維新^{めいじいしん}によって、新^{あた}しい日本^{にほん}が誕生^{たんじょう}しました。

0011 慰 □父^{ちち}の勤め^{つと}ている会社^{かいしゃ}では一年一度^{いちねんいちど}、慰安旅行^{いあんりょこう}があります。

□先日^{せんじつ}、ぼくたち演劇部^{えんげきぶ}は老人ホーム^{ろうじんほ}を慰問^むして、劇^{いもん}を披露^{げき}しました。

0012 遺 □遠足^{えんそく}で縄文時代^{じょうもんじだい}の遺跡^{いせき}を訪ね^{たず}ました。住居^{じゅうきょ}の遺構^{いこう}や石器^{せっき}を見学^{けんがく}しました。

□お父さん^{とう}がおじいさん^{いこつ}の遺骨^{おば}を、叔母さん^{いえい}が遺影^だを抱^だいています。

□本番で実力を遺憾なく発揮するには準備に遺漏があってははいけない。

0013 緯 □緯線は地球上の位置を現すために、赤道と平行に仮に引いたと考えた線です。南北の位置を現すために緯線で刻んだ目盛りを、緯度といいます。

□警察がテレビで、事件の経緯を説明しました。

0014 老 □日本銀行が発行する一万円札には「老万円」と大きく書いてある。

□長崎県の玄界のなだに浮かぶ老岐島は昔「老岐の国」と呼ばれていた。

0015 逸 □みんなで意見を出し合っているうちに、話が最初の議題から逸脱してしまった。

□おばあさんから、お父さんの子供時代の逸話を聞きました。

□今年の野球部の新入部員は逸材ぞろいだ。

0016 芋 □ジャガイモの種芋を、施肥して、土をかぶせました。

□不正のな融資事件で、関係した容疑者が芋づる式に逮捕された。

0017 姻 □憲法二十四条には「婚姻は両性の合意のみに基づいて成立し、夫婦が同等の権利を…」とある。

□お父さんの実家とお母さんの実家は結婚によってできた姻戚だ。

0018 陰 □陰気に見える人が、陰険とは限りません。

□歴史には陰惨な出来事や陰謀が渦巻いている。

0019 隠 □友達が隠し芸を披露した。

□ぼくの祖父は最近、店を父に任せて隠居した。

0020 韻 □よい詩は韻律が快く、読んだ後に深い余韻を味わわせてくれます。

□電話と電波は同じ音韻たとされます。

0021 詠 □小倉百人一首は奈良時代から鎌倉時代までの詠歌の中から、藤原定家が百首を選んで作ったという。

□劇場の観客たちはオペラ歌手の詠唱に詠嘆の声を漏らした。

□父は短歌を詠唱することが上手だ。

0022 影 □白黒のフィルで撮影すると、陰影に富んだ迫力のある写真になる。

□小さいころ、よく兄と影絵をして遊んだ。

0023 衛 □衛生に気をつけて、生活しましょう。

□太陽の周りを回っている天体が惑星で、惑星の周りを回っている天体を衛星といいます。

0024 疫 □ネズミやノミによってうつるペストは疫病の一つで、昔のヨーロッパで大流行しました。

□種痘は天然痘への免疫をつくるために行う予防接種です。

0025 益 □公益のためばかりか、実益の点からも、利益ばかりを追い求めないことが、有益です。

□ミツバチは益虫で、花の蜜を集めて、はちみつを作ってくれます。

□益鳥として知られるツバメは渡り鳥です。

0026 悦 □お年玉いっぱいもらった妹はご満悦のようすだった。

□カレーライスに入れる具を上手に料理できたと、弟は悦に入っていた。

0027 謁 □江戸時代、幕府の直接の家来でも将軍に謁見できる人を旗本といい、謁見できない人を御家人といった。

□宮殿に参上した騎士は国王に拝謁した。

0028 関 □図書館で読みたい本を閲覧カードに書いて、係の人に渡しました。

□壇上から王様が兵士を閲兵しています。

0029 沿 □日本は島国なので、沿海に栄えた町が数多くあります。

□私たちの小学校が、創立百周年を迎えました。お祝いの式で、校長先生が話してく
れた学校の沿革は興味深いものでした。

□祖母は私鉄の沿線に住んでいる。そこは川沿いの家なので、風通しがいい。

0030 炎 □浜辺で肌を焼いていたら、炎症を起こした。

□姉は陸上の県大会で優勝して、次は国体だと気炎をあげている。

0031 宴 □お父さんは宴会で、必ず手品の隠し芸をするそうです。

□祝宴は「かんぱい」の音頭で始まりました。

0032 援 □懸命に走る駅伝の選手に、沿道の人々が声援を送っている。

□困っている人にはできる限り援護の手を差し伸べるようにしよう。

0033 猿 □あの二人は犬猿の仲だそうです。

□動物園の類人猿や、猿山の猿は子供たちの人気者です。

0034 鉛 □ぼくは毎晩寝る前に、筆箱の中の鉛筆を全部削るのが習慣になります。

□水平面におもりを付けた糸をたらしたとき、その糸のたれる方向を鉛直または垂直と
いいます。この糸は重力の方向を示し、水平面に対して直角になります。

□亜鉛は青白色のもろい金属で、薬品やトタン板の原料に使われる。

0035 縁 □日当たりのよい縁側で、ネコが昼寝をしています。

えんにち てら けいだい
□縁日には寺の境内がにぎわいます。

お

0036 凹 □自動車^{じどうしゃ}の通行^{つうこう}が激^{はげ}しく、路面^{ろめん}にいくつもの凹凸^{おうとつ}ができています。

□グラビア印刷^{いんさつ}など、細^こかく美^{うつく}しい印刷物^{いんさつぶつ}を刷^するには凹版^{おうばん}を用^{もち}いています。

□反射望遠鏡^{はんしゃぼうえんきょう}に使^{つか}われる凹面鏡^{おうめんきょう}はとてもよく磨^{みが}き込^こまれています。

0037 応 □電話^{でんわ}が相手先^{あいてさき}につながったのに、話^{はな}しかけても応答^{おうとう}がない。

□父^{ちち}に会^あうために会社^{かいしや}を訪^{たず}ねたら、受付^{うけつ}の人^{ひと}が丁寧^{ていねい}に応対^{おうたい}してくれます。

0038 往 □往時^{おうじ}は開墾^{かいこん}で大活躍^{だいかつやく}をした老人^{ろうじん}が、田舎^{いな}の家^{なか}で大往生^{だいおうじょう}をとげた。

□人^{じん}の往来^{おうらい}が激^{はげ}しい繁華街^{はんかがい}で、ぼくたちは右往左往^{うおうさおう}した。

0039 殴 □友達^{ともだち}が殴^{なぐ}り書き^がのメモで、昨日^{めも}の殴り込み事件^{きのう}の経緯^こを知らせてくれた。

□反抗^{はんこう}的に口答^{くちごた}えばかりする弟^{おとうと}に我慢^{がまん}できず、思^{おも}わず殴^{なぐ}りつけてしまった。

0040 桜 □桜^{さくら}は日本^{にほん}の国花^{こっか}で、春^{はる}にうす紅^{べに}色の花^{はな}が咲^さく、バラ科^かの落葉高木^{らくようこうぼく}です。

□花見^{はなみ}の季節^{きせつ}になると、公園^{こうえん}は夜桜見物^{よざくらけんぶつ}に来^{きた}る会社員^{かいしやいん}たちで、夕方^{ゆうがた}からにぎやかです。

0041 憶 □憶測^{おくそく}で判断^{はんだん}してはいけない。

□ぼくは入学^{にゅうがく}した日^ひのことを、はっきりと記憶^{きおく}している。

0042 乙 □お父^{きそ}さんとお母^{つく}さんが競^{りょうり}って作^{おつ}った料理^{あじ}はどちらも乙^{こうおつ}な味わいで、甲^{こうおつ}乙^{こうおつ}つけがたい。

□昔^{むかし}は田植^{たう}えする乙女^{おとめ}のことを「早乙女^{さおとめ}」と呼^よんでいたそうです。「さ」は神^{かみ}のイネとい
う意味^{いみ}の接頭語^{せつとうご}です。

0043 卸 □洋服^{ようふく}の卸問屋^{おろしどんや}が立^たち並^{なら}んだ通^{とお}りは午前中^{ごぜんちゅう}、たいへんにぎわいます。

□商店を開いている我が家では月に一回、棚卸をします。

0044 恩 □地球の生物が、みな太陽の恩恵を受けている。

□川でおぼれたときに助けてくれた恩人にはいつも恩義を感じている。

0045 穩 □父の意見のおかげで、兄弟げんかは穩便に解決した。

□わたしたちの先生は穩健な考え方の持ち主だ。

か

0046 仮 □家を建て直すことになり、仮住まいに引っ越した。

□実験をして、始めに立てた仮説が正しかったかどうかを調べた。

0047 佳 □海辺に眺望絶佳の佳景を写生した絵が、佳作に選ばれた。

□結婚披露宴が佳境に入って、歌を歌います。

0048 価 □その人の真価を発揮して価値ある人生を送れば、評価や声価は自然に生み出されるものだ。

□定価では価格が高すぎて、特価でないと買えない。

□安価のものでも、高価なよりも、役に立つものがたくさんあります。

0049 架 □近くの川に新しい橋が架けられることになり、いま、架橋工事が進められている。

□図書館の書架で、架空の都市を舞台にした物語を見付けました。

0050 華 □クリスマスを前に、繁華街は豪華な飾りで装います。

□姉は華麗な着物を着て華道教室に出掛けました。

0051 渦 □渦潮は渦を巻いて流れる海水のことで、日本では徳島県の鳴門海峡の渦潮が有名です。

□身近にある渦巻きの形をしたものというと、蚊取線香が思い浮かびます。

□兄^{あに}と弟^{おとうと}がけんかをしていたので、止め^やに入^{はい}ったら、ぼくまでもがけんかの渦^{かちゅう}中に捲^まき込まれてしまった。

0052 嫁 □先生^{せんせい}は美^{うつく}しい花嫁^{はなよめ}姿^{すがた}の教え子^{おし}に、目^めを細^{ほそ}めた。

□自分^{じぶん}の落^{おちど}度を認め^{みと}ずに、人^{ひと}に責任^{せきにん}を転嫁^{てんか}するな。

0053 暇 □雨降^{あめふ}りの日曜^{にちようび}日に暇^{ひま}で退屈^{たいくつ}していたら、兄^{あに}に、「余暇^{よ か たの}は楽^{りよう}しく利用^{りよう}しなければもったいないよ」と言^いわれた。

□今年^{ことし}ぼくは寸暇^{すんか}を惜^おしんで読書^{どくしょ}に励^{はげ}んだ。

0054 禍 □わちゃしたちはできる範^{はん}圍^いで社会^{しゃかい}の禍根^{かこん}を絶^たつよう努力^{どりよく}しなければなりません。

□戦禍^{せんか}を被^{かぶ}った人々^{ひとびと}に、ようやく安定^{あんてい}した生活^{せいかつ}が戻^{もど}ってきた。

0055 寡 □今年^{ことし}はお年玉^{としだま}が少^{すく}ないと文句^{もんく}を言^いったら、お金^{かね}の多寡^{た か}ばかりを気^きにはいけな^{いは}いと、母^{はは}に諭^{さと}されてしまいました。

□あの人^かは寡黙^{かもく}で、寡欲^{かよく}という評判^{ひやうばん}です。

□寡婦^{かふ}という言葉^{ことば}があることを、わたしは寡聞^{かぶん}にして知^しりませんでした。

0056 箇 □五箇条^{ごかじょう}御誓文^{ごせいもん}は五^{いつ}つの箇条書^{かじょうが}きとなっています。

□この文章^{ぶんしょう}をよく読^よむと、段落^{だんらく}に分^わけられる箇所^{かしよ}が三^{さん}か所見^{しょみ}つかるはずで

0057 稼 □ぼく^{あに}の兄^{がくひ}は学費^{かせ}を稼^{しんぶんはい}ぐために、新聞配達^{しんぶんはい}をしています。

□新聞社^{しんぶんしゃ}は日夜^{にちや}、輪転機^{りんてんき}を稼動^{かどう}させて、フルスピードで新聞^{しんぶん}を印刷^{いんさつ}しています。

0058 蚊 □父^{ちち}にしかられたので、蚊^かの鳴^なくような声^{こえ}で返事^{へんじ}をした。

□蚊取線香^{かとりせんこう}も、蚊帳^{かや}も昔^{むかし}の夏^{なつ}に欠^かかせないものだった。

□林^{はやし}の中^{なか}に蚊柱^{かばしら}が立^たっています。

0059 我 □「^{じぶん}自分の^た田に^{みず}だけ水^ひを引く」という意味から、^い自分に^{じぶん}都合^{つごう}のよいようにいたり、^{こうどう}行動したりすることを、^{がでんいんすい}我田引水といます。

□人間は^{にんげん}成長^{せいちょう}するにつれ、^じ自我^がに^め目覚め^ざていく。

□我が^{ものがお}物顔^ふに^ま振る舞うなんて、^{まわ}周りの^{ひと}人に^{しつれい}失礼だ。少しは^{すこ}人の^{ひと}ことも^{かんが}考^{がまん}えて我慢しなければ。

0060 芽 □^{はる}春になると、^{やまやま}山々の^{くさき}草木が、^{つぎつぎ}次々と^{しんめ}新芽^だを出し、^{わかくさいろ}若草色^そに染まります。

□^り理科^かの^{じゅぎょう}授業^はで、^{はつ}イネ^がの^{じき}発芽時期^{がくしゅう}について学^{がく}習^{しゅう}した。

□^{こうえん}公園^{あそ}で遊んでると、^こ子ネコ^{ちか}が近づいてきて、^{はな}そばを^{さいしょ}離れ^ななくなった。最初^{さいしょ}はうとましかったけれど、あまりにもなついてくるので、^{あいじょう}愛情^めが^ば芽生え、^{いえ}家に^つ連れて帰った。

0061 賀 □^{まいとしいちがつふつか}毎年一月二日に、^{しんせき}親戚^{うち}の家へ、^{ねんが}お年賀^いに行きます。

□^{すいえいぶ}水泳部^{ぜんこくたいかい}が^{ゆうしょう}全国大会^{しゅくがかい}で優^{ひら}勝し、祝賀会^{しゅくがかい}が開かれました。

0062 雅 □^{おんが}温雅^{てんが}で、^{ろうじん}典雅な老人^{うえ}にはその上^{おお}に、^{がりょう}大きな雅量^{がりょう}があります。

□^{すいぼくが}水墨画^{ふうが}に、^{がしゅ}風雅^{かん}な雅趣^{かん}を感じるといいます。

□^{ゆうが}優雅^{ががく}な雅楽^{おと}の音^きが聞こえてきます。

0063 餓 □^{せかい}いまでは世界^{ちいき}のある地域^{ひとびと}では人々^きが飢^がきんで餓死^{がし}している。

□^き飢餓^がに^{くる}苦しむ^{ひとびと}人々^{すく}を救うための^{ききん}基金^{としだま}に、お年玉^{いちぶ}の一部^{ぼきん}を募金しました。

□^{ちち}ぼくの父^{こども}は子供^{がきたいしょう}のころ、餓鬼大将^{がきたいしょう}だったそうだ。

0064 戒 □^{きょうだい}わたしたち兄弟^{りょうしん}はいつも両親^{いまし}からいたずらを戒められている。

□^{じしん}地震^おが起^{きしょうちょう}き、気象庁^{うみ}から、海^{ちか}に近い地域^{ちいき}の住^{じゅうみん}民^つは津波^{けいかい}に警^{けい}戒^{かい}するよう^{はっぴょう}にとの発^{はっ}表^{びょう}がありました。

□仏教で、死んだ人に付ける名前を、戒名といいます。また、戒名を付けられた人の生きていたときの名前を、俗名といいます。

0065 怪 □自然を背景に怪談が生れた。

□父は子供のころ怪力で知られる怪童でした。

0066 拐 □近くの町で子供が誘拐される事件が起こり、用心のために集団で登下校をすることになった。

□会社の金を拐帯して行方をくらましていた男が、捕まった。

□拐子に連れ去られた子供が、家から遠くの場所で保護された。

0067 悔 □テストの成績が悪くて、悔しかった。でも、「後悔先に立たず」です。

□告別式に来た人たちは口々にお悔やみの言葉を述べていました。

0068 塊 □ジャガイモやサトイモは塊茎だが、サツマイモやダイコンは塊根だ。

□地図を頼りに、山奥で金塊を掘り出そうとしたのに、出てくるのは土塊ばかりだった。

□浅間山のふもとにはまだ塊状の溶岩がむき出しになっている。

0069 壊 □環境の破壊を食い止めることが大切です。

□大型台風のために、川の堤防が決壊した。全壊した家も、いくつかあった。

0070 懷 □とてもよく懷いていたイヌが、親戚の家へもらわれていきました。そのイヌの写真を見ると、懐かしい思いで胸がいっぱいになります。

□懷に入れて持つことから、財布や手持ちの金のことを懷中と呼びます。

0071 劾 □不正や罪をあばきだして、責任をとらせることを弾劾といいます。

□不正を行ったり、職務の品位を傷付けたりした裁判官を裁くために国会では弾劾裁判所

もう
を設けています。

0072 涯 □生涯しょうがいを通じて天涯孤独てんがいこどくの人ひともいます。

□不幸ふこうな境涯きょうがいなので、力強ちからづよく生いきている友達ともだちを、ぼくは尊敬そんけいする。

0073 街 □住宅街じゅうたくがいの街路樹がいろじゅのイチョウの葉はが、街灯がいうに照てらされて美うつくしい。

□繁華街はんかがいで街頭演説がいうえんぜつを始はじめた人ひとがいた。

0074 慨 □友達ともだちはわたしにひどく憤慨ふんがいしているようですが、理由りゆうは話はなしてくれません。

□お父さんはぼくをしげしげ見みて、「おおきくなったな」と感慨深げかんがいぶかに言いいました。

0075 該 □今回の展覧会こんかいに出展てんらんかいせれた作品しゅつてんの中には特選さくひんに該当なかする作品とくせんはなかつた。

□法案ほうあんが成立する第一段階せいいつとして、当該官庁だいいちだんかいでの十分とうがいかんちょうな審議じゅうぶんを行しんぎう必要がある。おこなひつよう

0076 概 □転校生てんこうせいに、学校がっこうの概略がいりやくを説明せつめいしました。

□きみが計算けいさんに打ち込む気概う こ きがいはすごいけど、概算がいさんでは答えこたが一けた違いちっています。ちが

0077 垣 □生け垣い がきの間あいだから、愛犬あいけんと遊あそんでいる友人ゆうじんを垣間見かい まみました。

□お母さんが垣根越かきねごしに、隣となりの家いえのお婆さんはなと話はなしています。

□石垣いしがきの前に人垣まえができていたので見ひとに行みったら、段ボール箱いの中だんで子イヌなかが眠こっていた。ねむ

0078 拡 □問題もんだいを拡大かくだいさせると、考かんがえが拡散かくさんして、まとまりがつかなくなります。

□軽自動車けいじどうしゃの拡声器かくせいきから、廃品回収はいひんかいしゅうの呼びかけよが聞きこえる。

0079 核 □きみは核かくしん心しつもんをついた質問しつもんをするね。

□わたしたちは核実験かくじっけんに反対はんたいする人々ひとびとの集しゅうかい会さんかいに参会こうしんし、でも行進こうしんをしました。

□昔むかしはおじいちゃんとおばあちゃんどうきよと同居かていする家庭かていがたくさんあつたが、いまは夫婦ふうふだけ

か、^{りょうしん}両親と^{こども}子供だけの^{かくかぞく}核家族の^{かてい}家庭が^{おお}多い。

0080 殻 □わたしわ、^{うみ}海に^{およ}泳ぎに行ったときに、^{すなはま}砂浜でとてもきれいな^{かいがら}貝殻を見つけた。

□わたしたちは理科の^{りか}授業で、^{じゆぎょう}地震は^{じしん}地殻変動によって起こることを^お学習しました。

□ぼくは夏休みに、^{なつやす}卵殻に^{らんかく}彩色して、^{さいしき}細かく^{こま}砕き、^{くだ}紙に^{かみ}張り付けて、^は絵画作品を作^つってみました。

0081 郭 □絵をかくときには^{さいしよ}最初に^{えんぴつ}鉛筆で^{りんかく}輪郭を^{いろ}かいてから、^め色を塗っていく。

□姫路城は^{ひめじじょう}堅固に^{けんこ}積まれた^つ城郭に^{じょうかく}囲まれ、^{かこ}高い^{たか}天守閣が^{てんしゅかく}そびえている。

□叔母は^{おば}文部省の^{もんぶしょう}外郭団体で、^{がいかくだんたい}幼児教育にか^{ようじきょういく}かわる^{しごと}仕事をしている。

0082 較 □^{さばく}砂漠では一日の^{ついたち}気温の^{きおん}較差が^{かくさ}大きい。

□^{きょねん}去年と^{ことし}今年の^{おんど}温度を^{ひかく}比較すると、^{ことし}今年の^{なつ}夏が^{ひかくてきす}比較的^お過ごしやすいことがよくわかる。

0083 隔 □^{えんかくち}遠隔地に^{たんしんふにん}単身赴任した^{ちち}父は^{かくげつ}隔月でしか^{かえ}帰ってきませんが、^{でんわ}電話は^{かくじつ}隔日にきます。

□^{とかい}都会から^{かくげつ}隔絶した^{むら}村に住む^す祖父が^{そふ}久しぶりに^{ひさ}ぼくを見て、^み隔世の^{かくせい}感に^{かん}打た^うされる。

□^{ほうていでんせんびょう}法定伝染病の^{せきり}赤痢にか^{ひと}かった^{びょういん}人が、^{かくり}病院に^{かくり}隔離された。

0084 閣 □^{てんしゅかく}天守閣は^{しろ}城の^{ちゅうしん}中心ろなる^{ところ}所に^{たか}高く^{つく}作られた^{ものみ}物見やぐらです。

□^{ないかく}内閣の^{そうりだいじん}総理大臣と^{こくむだいじん}国務大臣によって^{ひら}開かれる^{かいぎ}会議を、^{かくぎ}閣議といいます。

0085 獲 □「^{いちとう}一頭も^{えもの}獲物が^と捕れない^ひ日もある」とハンターは^い言った。

□^{たいこう}クラス対抗リレーで、^おぼくたちの^{しやうり}クラスは^{かくとく}みごと、勝利を^{かくとく}獲得しました。

0086 穫 □^{えひめけん}愛媛県は^{さいばい}ミカン栽培に^{てき}適した^{どじょう}土壌で、^{おお}多くの^{しゅうかく}ミカンが^{しゅうかく}収穫できます。

□^{こんかい}今回の^{かぞくりよう}家族旅行は^{こども}子供たちにとって、^{しゅうかく}収穫の^{おお}多い^{たび}旅でした。

0087 岳 □^{ちち}父は^{にほんいち}日本一の^{ふがく}富岳や^に二位の^{きただけ}北岳を^{はじ}始めとした^{かずかず}数々の^{さんがく}山岳を^{とうは}踏破した^{たけひと}岳人です。

□お父さんの岳父^{がくふ}はお母さんのお父さんで、わたしにとってはおじいちゃんです。

0088 潟 □海岸^{かいがんふきん}付近^{さ す}で、砂州^{さきゅう}や砂丘^{さきゅう}などでへだてられてできた湖^{みずうみ}や沼^{ぬま}のような地形^{ちけい}や、湖^{みずうみ}の満ち干^みによって、海の底^ひが隠^{うみ}れたり現^{そこ}れたりするする所^{かく}を潟^{あらわ}といいます。

□夏休^{なつやす}みに、千葉^{ちば}の叔父^{おじ}さんの家^{うち}に遊び^{あそ}に行き、引き潮^いの干潟^ひに出^{しお}て、潮干狩^{ひがた}りをしまし

た。

□新潟^{にいがたけん}県はロシアとの交^{こう}流^{りゅう}が深^{ふか}く、留^{りゅう}学^{がく}生^{せい}の受^うけ入^いれなどもしている。

0089 括 □この辞書^{じしょ}では原則^{げんそく}として、言葉^{ことば}の意味^{い み}を括弧^{かっこ}の中^{なか}で説明^{せつめい}しています。

□先生^{せんせい}が、生徒^{せいと}たちの作文^{さくぶん}を一括^{いっかつ}して文集^{ぶんしゅう}を作^{つく}りました。

0090 喝 □いたずら^{いっかつ}っこを一喝^{ろうじん}した老人^{しゅうい}が、周囲^{ひと}の人の喝^{かつ}さいを博^{はく}しました。

□人^{ひと}を脅^{おど}してお金^{かね}や品物^{しなもの}を取る行為^とは恐喝^{こうい}という罪^{きょうかつ}になります。

0091 渴 □都会^{とかい}は渴水^{かつすい}なのに、森^{もり}にわき出^でた清水^{しみず}で渴^{かつ}をいやせるなんて、何^{なん}て幸^{しあわ}せなことだろう。

□世界^{せかい}中のだれもか、平和^{へいわ}を渴望^{かつぼう}している。

0092 滑 □クラスの話^{はなし}合^あいは円滑^{えんかつ}に進^{すす}んだ。

□冬^{ふゆ}、雪^{ゆき}の多^{おお}い土地^{とち}で暮^くらすわたしたちはそりで雪^{ゆき}の上^{うへ}を滑走^{かつそう}して遊^{あそ}びます。

0093 轄 □私^{わたし}たちが受^うけている学校^{がっこう}教育^{きょういく}は文部^{もんぶ}省^{しょう}が統轄^{とうかつ}しています。

□銀座^{ぎんざ}に本店^{ほんてん}がある店^{みせ}の直轄^{ちょっかつ}店^{みせ}が、今度^{こんど}駅前^{えきまえ}に開店^{かいてん}します。

0094 株 □ぼくたちは山歩^{やまある}きの途^{とち}中で、林^{はやし}の中^{なか}にあった木^きの切^きり株^{かぶ}に腰^{こし}を下^おろし、休^{きゅう}憩^{けい}した。

□ぼくの父^{ちち}は会社^{かいしゃ}の株主^{かぶぬし}です。

0095 刈 □芝刈^{しばか}り機^きを使^{つか}って、わたしは毎日^{まいにち}曜^{よう}日^びに庭^{にわ}の芝^{しば}を刈^かり込^こみます。

□米^{こめ}はコンバインで刈^かり取^とるので、刈^かり入^いれ時^{とき}にかま^かで刈^する姿^{すがた}はほとんど見^みられませ

□家庭菜園に生えた雑草の草刈りは暑い夏の日だと特に大変です。

0096 肝 □肝臓は内臓の一つで、腹の右上にあり、消化を助ける胆汁を出したり、養分を蓄えたりする働きをしている。

□何事も上達するまでには時間がかかる。肝心なのは努力を続けることだ。

0097 冠 □漢字の部首の一つに冠があり、草冠、竹冠、雨冠がよく使われる。

□冠婚葬祭のしきたりを知っていると便利だ。

0098 看 □看護婦さんは入院患者の小さな変化も看過しない。

□看守は囚人たちの脱走計画を看破した。

□近くの店の看板が新しくなった。

0099 陥 □城の一部を陥れそこを足がかりに攻め込み、城を陥落することに成功しました。

□本を読んでいて、思わず挿し絵に見とれてしまった。

0100 勘 □テストの直前に山勘で復習をした。でも、勘はずれた。

□ほんとうに心を入れ替えるというのなら、勘弁してあげよう。

0101 貫 □生徒会の席で、兄は最初から最後まで、制服の自由化に賛成する態度を貫き通したそうです。

□北海道と本州を結び付ける青函トンネルが貫通したときは全国の人々が喜びました。

□駅前ビルの建設は突貫工事を行い、先週、完成しました。

0102 喚 □野球場は大きな喚声に包まれて、大混雑だ。そのため、妹にはぐれないよう、注意を喚起した。

□裁判所から父あてに喚問状が送られ、父は召喚されるそうだ。

□一帯は阿鼻叫喚のちまたと化している。

0103 堪 □春になると、冬の寒さに耐えた植物が一斉に芽を吹き始めて、辺りは生き生きとした緑に包まれる。

□何度も約束を破られ、堪忍袋の緒が切れた。

0104 敢 □野球大会の日は小雨が降って寒かったが、試合は敢行された。

□人々は彼の勇敢な行動をほめたたえた。

0105 棺 □穏やかな表情で納棺されていた祖母の出棺のときになって、母たちは号泣した。

□古墳時代、日本でも石棺が用いられました。

0106 款 □会社の定款には大切なことが書かれています。

□日本とメキシコが長期の借款契約を結びました。

0107 閑 □閑静な住宅街を散歩して児童公園を見つけたが、閑散としていた。

□父は冬の農閑期になると都会に出稼ぎに行く。

0108 勸 □入学式の日、勧誘されて、テニス部に入部したが、欠席が多すぎると大部勧告を受けてしまった。

0109 寛 □ぼくは弟とキャッチボールをしていて、隣の窓ガラスを割ってしまったが、その家の人の寛大な処置で、母にしかられずにすんだ。

□寺の境内でけんかをしている子供たちに、住職は寛容の精神について、説明してやりました。

□兄は寛厚な人柄の女性と結婚した。

0110 幹 □近くに幹線道路が通ることになり、父は便利になると喜びました。

□父は今度、高校のクラス会の幹事を務めるそうだ。

0111 飲 □中国の人気俳優が来日し、ファンの歓声がわき起った。パーティー会場に到着した彼は人々の歓待を受け、食事をしながら、歓談した。

0112 監 □物語の主人公が悪者に監禁されてしまった。監視されているので、なかなか逃げられない。ぼくははらはらしながら本を読んでいた。

0113 緩 □通学、通勤の電車の混雑を緩和してほしい。

□わたしはよく、動作が緩慢だといわれる。

0114 憾 □計画が失敗し、非常に遺憾に思っている。

□ぼくたちの野球チームは地区大会で実力を遺憾なく発揮した。

0115 還 □ヨットレース中に遭難したが、奇跡の生還を果し、最寄りの港から日本に送還してもらった。

□祖母の還暦の贈り物を、孫たちがお金を出し合って買った。

0116 環 □環状道路ができると便利にはなるが、自然環境は悪くなってしまう。

□環礁の海は熱帯魚の宝庫だ。

0117 艦 □潜水艦の乗組員たちは艦長の命令に従った。

□港に、艦艇が集結した。

0118 鑑 □モーツァルトの作品を鑑賞した。

□家にある掛け軸を、鑑定してもらった。

0119 眼 □目が痛いので眼科に行ったら、眼球に傷がついていると言われた。

□佐藤さんはとても読解力がある。まさに眼光紙背に徹すだ。

□兄は社長の眼鏡にかなって重要な仕事を任されたそうです。

0120 頑 □頑固一徹の父は頑固な水虫に悩まされている。

□兄は頑健な体つきだ。

き

0121 企 □学年で親ぼく会を開く企画が実現することになりました。

□不景気が続くと、多くの企業で、節約や合理化が行われるようになる。

0122 岐 □山歩きするときは道の分岐点に注意しよう。

□兄は大学卒業後、家業を継ぐか、大学院に進んで、研究を続けるか、人生の岐路に立ち、悩んでいます。

0123 忌 □祖父が死んだので、学校を一日だけ、忌引きした。

□どんなことも忌避しないで、忌たんのない意見を述べてください。

0124 汽 □汽船は大きな汽笛を鳴らしながら、出港していった。

□近くにある公園の住みに、昔大活躍した汽車の実物が展示されています。

□大きなビルでは汽缶を取扱うために、ボイラー技師が働きます。

0125 奇 □ダブルスチールという奇策によって、奇跡の逆転勝利を勝ち取った。

□奇談には奇人が出てきます。

0126 紀 □中国には紀元前の遺跡が数多くあります。

□十九世紀の世紀末には風紀が乱れたそうです。

0127 軌 □地球や太陽、月などの天体が宇宙空間を動いていく決まった道筋を、軌道と呼びます。

□円はある一点から同じ距離を保つの軌跡です。

0128 既 □既定の方針にしたがって、既成の事実として積み上げた既得権は守り抜こう。

□自然観察会は既報で既述したとおり、雨天でも決行する。

□健康診断で既往症について聞かれた。

0129 飢 □世界のどこかでは今も飢餓に苦しみ、飢え死にする人が多くいる。

□テレビの映像で、飢渴にあえぐ難民たちが、飢えと寒さに耐えている姿が描かれていた。

□江戸時代、東北地方では飢きんもつが取れず食べ物が足りなくて苦しみが繰り返した。

0130 鬼 □奇才が鬼気迫る形相で、鬼神を描いています。

□祖父が鬼籍に入った日、家の外に鬼火が出たと、母は話しました。

□妹はまるで鬼の首を取ったように、お母さんの失敗を喜んでいました。

0131 基 □これは基礎的問題だからきちんと解けるようにしよう。

□被災民を救うための基金に、できるだけ援助しましょう。

□生活の基本を身につけ、それを基盤に勉学にいそしみましょう。

0132 揮 □友人は合唱団の指揮で、音楽の実力を発揮している。

□アルコールは揮発しやすい。

0133 貴 □貴賓席に、高貴そうな雰囲気醸した貴婦人が着席した。

□イギリスの貴族出身の貴公子が、お父さんの勤めている会社に、今度入社するそうです。

□クラス会でいじめ問題について話合ったら、貴重な意見が続出した。

0134 棄 □産業廃棄物が不法に投棄されている。

□選挙で投票を棄権することは国民の権利を放棄することだ。

0135 旗 □国旗を掲げた旗手を先頭に、選手団が入場してきました。

□ぼくが旗頭になって子供会の新チームを旗揚げした。

0136 輝 □兄の通っている学校は輝かしい伝統と光輝あふれる栄光に包まれた素晴らしい学校です。

□陸上競技史上に残るような、輝かしい記録が、次々に生れた。

0137 騎 □白馬に騎乗する騎士の美しい姿は中世ヨーロッパへのあこがれを呼ぶ。

□運動会の騎馬戦で、ぼくらのチームは三人の鉢巻きを奪った。

0138 宜 □叔父さんは仕事の便宜上、自動車を買った。

□時宜にかなった処置を、適宜行っていけば、作物は育ちます。

0139 偽 □無罪を主張する被告人はうそ偽りのない事実が認められる日を待ち望んでいる。

□犯人は偽装工作をして、逃走した。

0140 欺 □欺まんに満ちた答弁で、人を欺こうとしている。

□世の中には詐欺まがいの商法が、横行しているので、甘い話には注意しよう。

0141 義 □国民の義務として子供に受けさせなければならない教育が義務教育です。

□母はきょう、歯科医院で義歯を入れてもらったそうです。

0142 儀 □ふだんはおてんばな姉も、人と会うときは行儀がよい。

□地球儀で、五大州と日本との位置関係を調べました。

0143 戯 □幼稚園時代、わたしは遊戯が好きでしたが、今は球戯に夢中です。

□クラスで劇を上演することになり、たくさんの戯曲の中から面白そうな作品を選んだ。

0144 擬 □ 塾 の模 擬 テストで、擬 声 語 と 擬 態 語 の問題が いっぱい 出た。

0145 犠 □ 友 達 は自 分 の時 間 を犠 牲 にして、ぼくに 勉 強 を教 えて くれ ました。

□ 先 日、土 砂 崩 れ が起 き、十 名 の犠 牲 者 が出 た。

0146 菊 □ おばあちゃん は毎 年、秋 になると、菊 人 形 を見 に出 掛 け ます。

□ ぼく はすき 焼 き が大 好 き だす。でも、春 菊 だけ は苦 手 だす。

0147 吉 □ 八 幡 宮 に行 っ ておみく じ を引 いたら、友 達 は大 吉 だ っ た のに、わ た し は小 吉 だ っ た。

□ 易 者 に吉 凶 を 占 っ て もら っ た母 は吉 兆 が出 た と、喜 ん で いた。

□ 大 安 吉 日 に、婚 礼 の吉 事 を執 り 行 う とい う吉 報 が届 いた。

0148 却 □ 訴 え でても、裁 判 所 に却 下 さ れ る か、棄 却 さ れ る か、ど ち ら か でし ょ う。

□ 用 事 を 閑 却 し て いた ら、そ の ま ま 忘 却 し て し ま っ た。

□ 友 達 か ら 借 り た本 を 返 却 し な い で、焼 却 し て し ま い ま し た。

0149 脚 □ マラソン 大 会 で、脚 力 に物 を言 わ せ た健 脚 で、脚 光 を浴 び た。

□ 「銀 河 鉄 道」を 脚 色 し て、文 化 祭 の劇 の脚 本 を作 り ま し た。

□ 叔 父 はカメ ラ と三 脚 を担 い で、世 界 各 地 を行 脚 し て い ま す。

0150 虐 □ 飼 いネコ を捨 て る のは生 き物 の虐 待 だ。

□ 戦 争 のさ なか に は敵 の虐 殺 など、残 虐 なこ と が 行 わ れ が ち だ。

0151 及 □ 参 加 者 は申 し込 み用 紙 の枠 の中 に住 所 及 び氏 名 を記 入 し て くだ さ い。

□ テレ ビ が普 及 し たこ とで、人 々 は世 界 の情 報 を得 ら れ る よう に な っ た。

0152 弓 □ 大 相 撲 で は結 び の取 り組 み の後 に、弓 を持 っ た力 士 が、土 俵 で 行 う儀 式 を、弓 取 式 と

いいます。

□弓道場では胴着を着てはかまを吐き足袋を履いて、正しい作法に従って^た的^さに向^{した}かって^まや^むを放^{はな}つ。

□日本列島は北海道から沖縄まで弓状に伸びた形をしている。

0153 丘 □昼食の後、丘陵を下って河原に下りようとしたら、河原が段丘になっていました。

□鳥取砂丘に行って、砂の丘を上ったり、さんざん歩き回りました。

□中国の孔子は頭の形が周囲が高く、真ん中がくぼんだ形をしていたことから、「丘」と名づけられた。

0154 朽 □家が老朽化し、土台の木も朽ち木のようにぼろぼろで、今にも朽ち果てそう。

□いろいろな本の中には不朽の名作もありますが、すぐに腐朽してしまうような作品もあります。

□冬の雑木林を、朽ち葉の柔らかな感触を足に感じながら歩きました。

0155 糾 □市長を糾弾していた人たちの間で、糾弾方法をめぐって紛糾しました。

□いじめ問題で学校の責任を究明する動きが、PTAの中で起こっています。

□同士を糾合して、探検隊を結成しよう。

0156 宮 □王宮の中の宮殿には宮廷に使える人たちがたくさん住んでいます。

□妹に宮参りで、父と母は神宮にまで参宮しに行きました。

□宮司殺人事件は迷宮入りした。

0157 窮 □お父さんが失業すると、窮乏生活を強いられることになる。

□大きなイヌが、小さな犬小屋で窮屈そうに寝ています。

0158 拒 □清廉な公務員は差し出された贈り物をしゅん拒し、拒絶しました。

□自治体は条例を作って、住民投票を実施した結果、施設の建設を拒否することになりました。

□妹が生意気なので、「本を貸して」と言ってきたとき、わたしははっきりと拒みました。

0159 抛 □根拠のない話を、やすやすと信じるな。

□そのスーパーマーケットは東京を拠点にして、日本全国に店を出しています。

0160 挙 □挙手で賛成と反対の人数を調べ、クラスのみんなの意見をまとめました。

□サクラが満開になった校庭で、入学式が挙行されました。

□家の近所で、挙動の怪しい人物が、検挙されたそう。

0161 虚 □ふと虚無感におそわれて、虚空を見つめた。

□虚栄心の強い人はよく虚実と取り混ぜた話をするので、どこまで信じていいのかわからなくなってしまう。

□生徒たちは先生の言葉に、虚心に耳を傾けた。

0162 距 □お父さんは家から駅までの二キロの距離を往復とも健康のため徒歩で通っています。

□三角測量では一人の人が棒を持ってたち、もう一人の人が測距儀をのぞいて、距離を測定します。

□市民体育祭の短距離競走に、お父さんが参加します。

0163 凶 □凶悪な犯人が凶行に用いた凶器を、裏山から発見した。

□夏の天候が不順な今年は凶作になる。

□日米で初めての衛星中継が、ケネディー大統領が凶弾に倒れたという凶報を伝えた。

0164 狂 □大きな犬が狂暴な顔をして道にいたので、ぼくは別の道に行くことにした。

☐ 熱^ね狂^{つきやう}的^{てき}なファンが、選^{せん}手^{しゆ}たちのパレードを狂^{きやう}騒^{そう}のうちに迎^{むか}えた。

0165 享 ☐ 大^{だい}好^すきだっ^たおじい^{ちゃん}が、享^{きやう}年^{ねん}八^{はち}十^{じゆ}で亡^なくな^った。退^{たい}職^{しよく}してからは自^じ由^{ゆう}を享^{きやう}受^{じゆ}し、
野^や球^{きゆう}や釣^つりをぼく^{にお}に教^{おし}えてく^れた。

☐ 暖^{あた}かい気^き候^{こう}の土^と地^ちの人^{ひと}は人^{じん}生^{せい}を享^{きやう}楽^{らく}する楽^{らく}天^{てん}なタイ^プが^お多^おい。

☐ 自^じ由^{ゆう}を思^{おも}う存^{ぞん}分^{ぶん}に共^き有^{ゆう}しな^がら大^おきく^{なり}たい。

0166 峡 ☐ 峡^{きやう}谷^{こく}の峡^{きやう}間^{かん}にはダ^みムで^{ずう}で^みきた湖^{ひろ}が^{ひろ}が^つてい^る。

☐ 白^{しろ}い船^{ふね}が関^{かん}門^{もん}海^{かい}峡^{きやう}を^{つう}過^かして、日^{にっ}本^{ぽん}海^{かい}に^{はい}入^いって^いった。

0167 恭 ☐ 近^{きん}所^{じよ}のおば^{さん}は道^{みち}で会^あうとい^つも、恭^うしくお辞^じ儀^ぎを^{して}あいさ^つして^くれ^る。

☐ 家^け来^{らい}は主^{しゆ}人^{じん}に恭^{きやう}順^{じゆん}の意^いを^{あら}わ^わした。

0168 脅 ☐ 戦^{せん}争^{そう}の脅^{きやう}威^いにさ^らさ^れてい^る戦^{せん}地^ちの子^こ供^{ども}を^{すく}救^くお^う。

☐ 脅^{きやう}迫^{はく}状^{じやう}の筆^{ひつ}跡^{せき}が証^{しやう}拠^ことな^って、誘^{ゆう}拐^{かい}犯^{はん}人^{にん}が^{つか}捕^とま^つた。

0169 郷 ☐ 沖^{おきな}縄^わでもい^まま^まで郷^{きやう}土^ど芸^{げい}能^{のう}が盛^さん^で、若^{わか}者^{もの}が琉^{りゅう}球^{きゅう}舞^ぶ踊^うや民^{みん}謡^{よう}を^{なら}習^なっ^てい^る。

☐ 雑^{ざつ}踏^{とう}の中^{なか}で聞^きく^なま^りに郷^{きやう}愁^{しゆう}を^{かん}じ^る。

☐ 川^{がわ}を下^{くだ}るカヌーが橋^{きやう}脚^{かく}にぶ^つか^りそ^うに^なり^なが^ら、眼^{がん}鏡^{きやう}橋^{ばし}の下^{した}を^ぬ抜^ぬけ^てい^った。

0170 矯 ☐ 彼^{かれ}は悪^{わる}い人^{ひと}で^はな^いが、奇^き矯^{きやう}な振^ふる舞^まいを^しる^ことが^ある。

☐ 歯^し科^か医^いに、歯^し列^{れつ}矯^{きやう}正^{せい}を^して^もら^いに^いっ^た。

0171 鏡 ☐ 一^{いち}月^{がつ}十^{じゅう}一^{いち}日^{にち}は鏡^{かがみ}開^ひき^で、こ^の日^にに、鏡^{かがみ}も^ちを^わ割^たっ^て食^たべ^るの^が習^{なら}わ^しで^す。

☐ 理^り科^かの時^じ間^{かん}に、顕^{けん}微^び鏡^{きやう}で植^{しょく}物^{ぶつ}の細^{さい}胞^{ぼう}を^みま^した。

0172 響 ☐ 先^{せん}生^{せい}に影^{えい}響^{きやう}さ^れ、ジ^{りゅう}ョ^{こう}ギ^んグが^{りゅう}流^{こう}行^ぎして^いる。

□P T Aのバザーはすごい反響^{はんきやう}で、たくさんの品物^{しなもの}が集まった^{あつ}。

0173 驚 □ぼくは妹^{いもうと}を驚か^{おどろ}そうと、へビのおもちゃ^なを投げつけた。すると妹^{いもうと}は驚き^{おどろ}のあまり失神^{しっしん}してしまった。

□苦手^{にがて}な数学^{すうがく}のテストで百点^{ひゃくてん}を取り、驚喜^{きやうき}していたら、父^{ちち}は「それは驚異^{きやうい}的な出来事^{できごと}だね」と言^いってほほへた。

□母^{はは}は祖母^{そぼ}の急死^{きゅうし}の知らせに驚^{きやう}がくし、泣き崩^なれてしまった^{くず}。

0174 仰 □空^{そら}を仰ぎ見^{あお}ると、パラシュート^みの人がぼくをめがけて降り^{じん}てきていた。仰天^おしたな。ぎやうてん

□鎮守^{ちんじゆ}さまを祭^{まつ}った神社^{じんじや}に、信仰^{しんこう}のあつい人^{ひと}たちが五穀^{ごこく}豊穰^{ほうじやう}を祈^{いの}っていた。

0175 暁 □まだ暁^{さとるほし}星^{うつく}の美^{そうぎやう}しい早暁^めに目^めが覚^さめ、外^{そと}に出て払^で暁^{ふつぎやう}の空^{そら}を仰ぎ^{あお}いました。

□暁雲^{さとるくも}に暁光^{さとるひかり}が差し込^さんだ^こ。

0176 凝 □姉^{あね}は山登^{やまのぼ}りに凝^こっています。母^{はは}は肩^{かた}が凝^こったとよくこぼします。妹^{いもうと}は耳^{みみ}を凝^こらして歌^{うた}を聞^ききます。父^{ちち}は凝^こり性^{しょう}で、野菜作^{やさい}りに励^{しん}んでいます。

□気体^{きたい}が液体^{えきたい}になることを凝縮^{ぎやうしゆく}といい、液体^{えきたい}が固体^{こたい}になることを凝固^{ぎやうこ}という。水^{みず}の凝固点^{ぎやうこてん}はセ氏^{せし}0度^どだ。

□投手^{とうしゆ}の投球^{とうきゆう}を観客^{かんきやく}は息^{いき}を凝^こらして凝視^{ぎやうし}している。

0177 斤 □お使^{つか}いを頼^{たの}まれ、近^{ちか}くの商店街^{しょうてんがい}まで食パン^{しょくぱん}を買い^かに行^いった。

□明治^{めいじ}の初^{はじ}め、食パン^{しょくぱん}一斤^{いっぴん}は一ポンド^{やくよんひやくごじゆうよん}で、約四百五十四^{よんひやく}グラムあるのが原則^{げんそく}でした。が、次第^{しだい}に原則^{げんそく}が崩^{くず}れ、今出^{いまで}は食パン^{しょくぱん}一斤^{いっぴん}の重^{おも}さは二百五十^{にひやくごじゆう}グラムから四百^{よんひやく}グラムと、店^{みせ}によってまちまち^{まちまち}になっています。

□斤量^{きんりやう}、斤目^{きんめ}、目方^{めかた}はどれも、はかりで量^{はか}ったもの^{おも}の重^{おも}さを表^{あらわ}す言葉^{ことば}です。

□俳句の句会を開いて、句集を作りました。

□とても素晴らしい出来栄えなので、絶句して一言半句も文句が言えなかった。

0186 駆 □長距離の駆け足は頭を駆使しないと勝てません。

□町から暴力を駆逐しよう。

0187 愚 □努力をせずに愚痴を言うほど愚かなことはない。

□「家の愚息がお世話になっております」と父は言いました。

□そんな愚劣な行為をするなんて、愚の骨頂だ。人を愚弄するにもほどがあるよ。

0188 遇 □姉は奇遇なことに、旧友とパリでばったり会い、お互いに現在の境遇について伝え合ったそう。

□フェリーで大島に行く途中で、台風に遭遇した。

0189 屈 □プールで泳ぐ前の準備体操として、ひざの屈伸運動をしました。

□赤ちゃんの屈託のない笑顔を見たら、頑張る勇気がわいてきました。

0190 繰 □公園に行ってみるとサクラが満開で、花見に繰り出してきた家族連れでいっぱいでした。

□高校野球はどのゲームも熱戦が繰り広げられました。

0191 勲 □秋の叙勲者の名前が新聞に出ていた。

□兄は高校野球の県大会で殊勲のさよならホームランを放って、チームを優勝に導いた。

0192 薫 □薫風の中、着物の女性とすれ違ったら、世薫が漂っていた。

□父は薫製が好きです。

0193 群 □菜の花が群生している野原に、モンシロチョウが群れ飛んでいた。

ばくの友達に群を抜く足の速さの持ち主だ。

ぐんした　しょうがっこう　ごうどうたいいくたいかい　ひら
□郡下の小学校の合同体育大会が開かれた。

け

0194 刑 □私服刑事が、犯人逮捕に向かった。

けいき　お　ひと　けいむしょ　で
□刑期を終えた人が、刑務所から出てきた。

0195 系 □系図によると、祖先は平家の系統らしい。

ちち　さくねんらい　けいれつ　かいしゃ　しゅつこう
□父は昨年来、系列の会社に出向しています。

0196 径 □三十八口径のピストルは直径が約九・七ミリです。

こ　も　び　やま　こみち　さ
□木漏れ日が山の小道に差してきます。

0197 契 □引越しのため転校していく友達と、別れを惜しみながら再会を契りました。

とう　きょう　あた　くるま　か　けいやく
□お父さんは今日、新しい車を買う契約をしてきたそう。

かんせん　けいき　あに　じゅうどう　なら　はじ
□オリンピックの観戦を契機に、兄とわたしは柔道を習い始めました。

0198 恵 □おいしい水という、自然の恩恵を受けている。

さいけいこくたいぐう　ごけい　せいしん　もと
□最恵国待遇は互惠の精神に基づきます。

0199 啓 □先生は少年時代、読書で啓発されたそうです。

てがみ　はいけい　はじ
□おじいちゃんの手紙はいつも拝啓で始まっている。

0200 掲 □教室の掲示板に、夏休みの行事予定が掲示されていますので、メモをしておいてください。

うんどうかい　さいしょ　こうき　けいよう　おこな
□運動会の最初に、校旗の掲揚を行いました。

0201 溪 □家族でハイキングに行き、溪谷伝いに歩きながら、いろいろな植物を見ました。

けいりゅう　みんしゆく　と　つ　たの
□溪流のほとりにある民宿に泊まって、釣りを楽しみました。

□富士山には真夏でもたくさんの雪溪が残っています。

0202 蛍 □夜、蛍狩りに行ったら、たくさんの蛍が飛んでいて、きれいでした。

□暗くなってきたので、蛍光灯をつけました。

0203 携 □海で、妹がぼれそうになったが、みんなの連携プレーで、無事救助された。

□この医学者は家庭には必携の書だ。

0204 継 □伝統工芸の職人の悩みは後継者が少ないことだ。

□野球中継が、継続して放送されることになった。

0205 慶 □ぼくの弟は家弁慶で、家の中とは違い、よその家に行くと、借りてきたネコのように、おとなしくなる。

□来年、我が校では創立周年を記念する慶祝行事が催されます。

□祖父の米寿のお祝いに、親戚一同で集まり、慶賀パーティーを行った。

0206 憩 □サッカーの練習の休憩時間に、ジュースを飲みました。

□ずいぶん根を詰めて勉強したので、今から十分間ほど小憩するでしょう。

0207 鶏 □家で鶏を飼っているので、わたしは毎朝、新鮮な鶏卵を食べることができる。

□養鶏場の見学に行き、鶏舎でたくさんの鶏を見た。

□「鶏口となる牛後となるなかれ」は大きな組織の中で部下になるよりも小さな組織で

頭になる方がよいという意味を表す、昔の中国の人が作ったことわざだ。

0208 鯨 □昔は捕鯨が盛んで、肉は食用にし、骨などは鯨油にしていました。

□祖母は着物を縫うとき、鯨尺を使っていた。

0209 撃 □力の襲撃を撃退したら、別の力に反撃された。

□ジケンの目撃者はショックを受けた。

0210 激 □快晴だったので、傘を持たずに外出したら、天候が激変し、雷とともに激しい雨が降りずぶぬれになった。

□選挙の激戦地で当選した議員はお祝いにかけつけた人々の拍手に感激し、涙ぐんだ。

□父は突然、胃に激痛が走り、救急車で病院に運ばれました。

0211 穴 □おじいちゃんと遊ぶと、釣りの穴場を教えたり、秘密の穴蔵を見せてくれたりして楽しい。

□点数の悪いテストをポケットに隠していたら母に見つかって、墓穴を掘る結果になった。

□旧石器時代の人々は穴居う生活をしていた。

0212 傑 □この「快傑ゾロ」はものすごく面白かった。こういう本を傑作というのだと思う。

□オリンピックの選手は傑出した運動能力を持っています。

0213 潔 □高潔な彼が、不正を働くはずがない。疑うのなら、ぼくが彼の潔白を証明しよう。

□不潔な手で食物をさわると、食中毒の原因になります。

□先生は潔い性格で、授業の説明も簡潔でわかりやすい。

0214 儉 □わたしは小遣いを儉約しています。

□昔の人たちはみんな、よっても勤儉だった、と祖父は口ぐせのようによく言います。

0215 兼 □山田くんは学級委員と児童会長を兼任しています。

□彼の姉さんは才色兼備な魅力的な女性です。

0216 剣 □少年剣士たちが道場で、剣道の寒げいこをしています。

□いくら竹みつを使った剣劇だといっても、真剣に演じないとけがをしています。

0217 健 □健全な生活が、健康には重要だ。

□祖父母とも健在で、壮健に過ごしています。

0218 圈 □私たちの学校のサッカーチームは惜しくも優勝圏外に落ちた。

□北極圏は北緯六六度三三分以北の地域で、夏至には一晩中太陽が沈みません。

0219 嫌 □ぼくのお父さんは別に理由もないのに、期限の悪いことがあります。

□なまけていたら、得意な算数の成績が下がってしまい、自己嫌悪に陥った。

0220 献 □献血は身近なところで、社会に貢献できる手段です。

□お母さんは「今夜の夕食の献立は秘密よ。楽しみにしていてね」と言いました。

□兄は先日、初めて書いた本を恩師に献呈しました。

0221 絹 □日本の美しい絹織物は西欧の人々に人気があります。

□おばあちゃんはわたしはお正月の晴れ着に締めるようにと、正絹の帯をプレゼントしてくれました。

□絹布は布地を傷めないように、絹針と言う細い針で、ていねいに縫われます。

0222 遣 □小遣いを無駄遣いしないようにと、弟が母から派遣されてきた。

□奈良時代から平安時代、日本は遣唐使を唐へ遣わした。

□言葉づかいが乱暴だと、心遣いも疑われてしまいます。

0223 憲 □今の憲法は平和憲法です。

□児童憲章では「能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利」がうたわれています。

0224 謙 □謙譲の美德とはお互いに譲り合う気持ちを大切にすることです。

□兄は校内で、成績がトップなのですが、謙虚な性格なので、そのことを自慢しません。

0225 蒔 ^{むかし} 昔 ^{しょうがつ} は正月に、木の枝に ^き 蒔玉 ^{えだ まゆだま かざ} を飾りつけて、カイクガ病氣 ^{びょうき} にならず、たくさん蒔 ^{まゆ} を作るように ^{いの} 祈る ^{しゅうかん} 習慣がありました。

0226 顕 ^{けんびきょう} □顕微鏡で ^{けんかしよくぶつ} 顕花植物の花を ^{はな} 観察した。

□ ^{じこけんじよく} 自己顕示欲はだれにでもある。

0227 懸 ^{あした} □明日の試合には ^{しあい} 優勝 ^{ゆうしょう} が懸 ^か っている。悔 ^く いの残 ^{のこ} らないように、みんなで ^{ちから} 力 ^だ を出しきろう。

□懸垂 ^{けんすい} ができるようになりたくて、一生 ^{いっしょうけんめいれんしゅう} 懸命練習をした。

□父 ^{ちち} は長年 ^{ながねん} の懸案 ^{けんあん} が今年中 ^{ことしじゅう} にかたづくかどうかを懸念 ^{けねん} している。

0228 幻 ^{げんそうてき} □幻想的な映画 ^{えい} だということで見てみたが、幻滅 ^み して帰 ^{げんめつ} ってきた。

□人 ^{ひと} の一生 ^{いっしょう} は幻 ^{まぼろし} のようにはかない。

□四十度 ^{よんじゅうど} の高熱 ^{こうねつ} のため、幻覚 ^{げんかく} にうなされる。

0229 玄 ^{ちち} □父 ^{しょうぎ} の将棋 ^{うでまえ} の腕前 ^{げんじんま} は玄人 ^{げんじん} 顔負けだ。

□留守番 ^{るすばん} をしているときに、インターホンが鳴 ^な り、おばあちゃん ^き が来 ^{きた} たことを伝 ^{つた} えたので、玄関 ^{げんかん} の鍵 ^{かぎ} を開 ^あ けた。

□最近 ^{さいきん} 、日本 ^{にほん} の伝統 ^{でんとう} 的な文化 ^{ぶんか} である茶道 ^{さどう} や華道 ^{かどう} の幽玄 ^{ゆうげん} 世界 ^{せかい} に見 ^み せられる外国人 ^{がいこくじん} が多 ^{おほ} いそうです。

0230 弦 ^{しみんかいかん} □わたしは市民会館 ^{げんがくしじゅうそう} に弦楽四重奏 ^き のコンサートを聞き ^い に行った。

□冬空 ^{ふゆぞら} に、上弦 ^{じょうげん} の月 ^{つき} が光 ^{ひか} っている。

0231 源 ^{ちか} □近く ^{かわ} の川の源流 ^{げんりゅう} をたどって、源泉 ^{げんせん} に行 ^い き当 ^あ たった。

□地震 ^{じしん} の震源地 ^{しんげんち} の近く ^{ちか} では電源 ^{でんげん} が断 ^た たれた。

0232 厳 ^{げんかん} □玄関 ^ち の地 ^く で暮 ^{ひと} らす人々 ^{げんとう} は厳冬 ^{きかん} の期 ^{あた} 間 ^す を暖 ^{おほ} かく過 ^{ちえ} ぎす、多 ^も くの知恵 ^{ちえ} を持 ^も っている。

びょういん げんみつ けんさ う
□病院で、厳密な検査を受けた。

こ

0233 己 □知己ちきもありますが、初めてはじの人ひとも多いおおので、みんなそれぞれに自分じぶんのことを紹介しょうかいしあう
自己紹介じこしょうかいをしてみましょう。

□自分一己じぶんいつこの利益りえきばかり考かんがえていると、利己主義りこしゆぎに陥おちいってだれにも助けてもらえなくな
ります。

□克己心こつきしんを養やしなうために、わたしは毎日まいにち、日記にっきをつける。

0234 孤 □孤独こどくな老人ろうじんが、孤軍奮闘こぐんふんとうして、孤星こるいを守まもっている。

□理想りそうを求める孤高もとの人ひとはしばしば孤立こりつすることがある。

□瀬戸内海せとないかいの孤島ことうで、一人ひとりの孤児こじが元氣げんきに育そだっている。

0235 弧 □日本にほんは島しまが弓ゆみなりに連つなっている弧状列島こじょうれつとうで、島しまをつなぐと弧線こせんが描かけます。

□扇形おうぎがたの図形ずけいから円弧えんこを求もとめて、答こたえを括弧内かっこないに記しるしなさい。

□クワの木きで作つくった弓ゆみを桑弓くわゆみと言いい、この弓ゆみでヨモギのやを射いる風習ふうしゅうが古ふるく中国ちゅうごくにありま
した。

0236 故 □時計とけいが棚だなの上うえから落おちて、故障こしょうしました。

□故人こじんをしのんで、その人ひとの故郷ふるさとを訪ねました。

0237 誇 □いくら誇ほこるものがあるからといって、誇大こだいに宣伝せんでんすることはよくない。

□力ちからを誇示こじしなくても、君きみが強つよいことはよくわかる。

0238 鼓 □運動会うんどうかいで、鼓笛隊こてきたいが、選手せんしゅを鼓舞こぶしている。

□ピアノの発表会はっぴようかいで出番でばんがきた。鼓動こどうが激はげしくなる。夢中むちゅうで引き終ひえたら、拍手おの音おとが

こまく ひび
鼓膜に響いた。

わたし たんじょうび れ す と ら ん い りょうり したつづみ う
□ 私は誕生日にレストランへ行き、料理に舌鼓を打った。

0239 顧 □ ちち みせ あいこ さんわりびき こきやく
父の店ではご愛顧のこたえて、三割引という顧客サービスをします。

やきゅうぶ こもん せんせい やきゅう だいす
□ 野球部の顧問の先生はプロ野球が大好きです。

0240 呉 □ わたし はは あね ごふくてん てんない ごふく かざ
私は母と姉について、呉服店に行った。店内にはたくさんの呉服が飾られていた。

さんごくし さんごく ひと ご くに かつやく
□ 『三国志』では三国のうちの一つに呉の国があって、ずいぶん活躍している。

あいて おな の い ごえつどうしゅう
□ 相手のチームと同じバスに乗ってグラウンドに行くとはまったくの呉越同舟だ。

0241 悟 □ にんげん さと ひら むずか ぶつきょう さと ごとく
人間、悟りを開くことは難しいものだそうです。仏教では悟ることを、「悟得」とか、

ごにゅう ごどう
「悟入」とか、「悟道」とか、いうそうです。

ごせい にんしき のうりよく ひと
□ 悟性は認識する能力の一つです。

くる かくご うえ
□ 苦しいのは覚悟の上のことだ。

0242 碁 □ どうろ ごばん め くかく
道路が碁盤の目のように、区画されています。

□ ぼくは父に囲碁を習っていますが、白の碁石はまだ持たせてもらえません。

0243 護 □ おととい きんじょ ようちえんじ ゆくえふめい こども あんび き け さ
おととい、近所の幼稚園児が行方不明になり、子供の安否が気づかわれましたが、今朝、

ぶ じ けいさつ ほ ご
無事に警察に保護されました。

こんしゅう どうぶつあいごしゅうかん
□ 今週は動物愛護週間です。

0244 公 □ こうむいん こうしゅう ほうし こうぼく
公務員は公衆に奉仕する公僕です。

こうえん かいえん きねん おんがく こうえんかい ひら
□ 公園の開園を記念して、音楽の公演会が開かれました。

0245 孔 □ びこう むし と こ はな
鼻孔に虫が飛び込むと、鼻がむずがゆくなって、くしゃみをしたくなる。

□ 鏡に映ったひとみを見つめると、どう孔が開いたり閉じたりするのがわかる。

0246 功 □ 年功序列という考 え方の功罪が、いろいろな人から指摘されています。

□ 父は会社から、長年の功勞に対して、表彰を受けました。

0247 巧 □ 精巧な工作物だと、作った人の技巧の巧拙がすぐにわかってしまう。

□ 巧妙な試合運びで、巧みに戦った試合巧者が、優勝候補を押さえて勝った。

□ 巧言令色を持って取り入ろうとしても、だめですよ。

0248 甲 □ 船の甲板で甲羅を干していると、突然甲高い笑い声が聞こえました。

□ 甲殻類よりも、ぼくは昆虫類の甲虫が好きだ。

□ 二人の絵のうまさは甲乙つけがたい。

0249 后 □ 皇太后陛下は孫である皇太子のご成婚を、お喜びになられたことでしょう。

□ いつまでも変わらぬ皇后陛下の穏やかな微笑みは日本国民ばかりでなく、ご訪問先の

世界各国の人々の心を和ませてくださるものです。

□ わたしは先週の日曜日に、ビデオで、「西太后」という映画を観ました。

0250 江 □ 江戸の前の海で捕った魚を使ったところから、江戸前のすしというのだそうです。

□ 夕暮れの入り江に、船がゆっくりと戻ってくる。

0251 坑 □ 炭坑からトロツコに乗ってきた人たちは坑口を出るとほっとしたようでした。

□ 坑内は薄暗くてひんやりしている。ヘルメットのライトが坑道を照らしている。

□ 長い間、掘り続けてきた炭鉱も閉山して、炭坑も廃坑になった。

0252 孝 □ 父と母は親孝行にと、祖父母を温泉に招待した。

□ 昔^{むかし}の偉い人^{えらいひと}の伝記^{でんき}には孝養^{こうよう}を尽くしている姿^{すがた}や孝心^{たかきよ}が数多く描かれていて、とてもお年寄り^{としよ}を大切にしているのがよくわかった。

□ 忠孝^{ちゅうこう}は江戸時代の武士^{えどじだい}が持っていないなくてはならない美德^{びとく}の一つだ。

0253 抗 □ 選手^{せんしゅ}は審判^{しんぱん}に必死^{ひっし}に抗議^{こうぎ}したが、審判^{しんぱん}の判断^{はんだん}には抗しきれなかった。

□ 風邪^{かぜ}をひいて医者^{いしや}に行ったら、注射^{ちゅうしゃ}を打たれて抗生物質^{こうせいぶっしつ}を渡されました。

□ 徹底^{てってい}抗戦^{こうせん}して抵抗^{ていこう}した城^{しろ}も、最後^{さいご}には降伏^{こうふく}しました。

0254 攻 □ 守勢側^{しゅせいがわ}に援軍^{えんぐん}が到着^{とうちゃく}して、攻守所^{こうしゅじょ}を変え、攻防^{かうぼう}が繰り広げられています。

□ 一回裏^{いっかいうら}の攻撃^{こうげき}で、相手投手^{あいてとうしゅ}を速攻^{そっこう}で攻略^{こうりやく}して得点^{とくてん}を上げた。

□ 敵^{てき}の猛攻^{もうこう}をしのいだ後^{あと}、攻勢^{こうせい}に転じた。

0255 拘 □ つまらないことに拘泥^{こうでい}してけんかすると、お母さん^{こうそく}の拘束^{こう}を受けることになるよ。

□ 警察^{けいさつ}に拘引^{こういん}された容疑者^{ようぎしや}が裁判^{さいばん}で20日間の拘留^{にちかん}に処された。

□ 拘置所^{こうちしょ}の高い壁^{たか}に沿って、毎朝^{かべ}ぼくは犬^その散歩^{まいあさ}をします。

0256 恒 □ 恒例^{こうれい}となった平和集会^{へいわしゅうかい}で恒久^{こうきゅう}の平和^{へいわ}を祈りました。

□ 恒星^{こうせい}を観察^{かんさつ}した。

0257 洪 □ 今年^{ことし}の梅雨^{つゆ}は大雨^{おおあめ}が続き、日本^{にほん}の各地^{かくち}から洪水^{こうずい}のニュースが伝えられた。

□ 連休^{れんきゅう}の遊園地^{ゆうえんち}は人^{ひと}の洪水^{こうずい}だった。

0258 皇 □ フランス革命^{かくめい}の後^{あと}、ナポレオン^{ふらんす}はフランス^{こうてい}の皇帝^{こうてい}になった。

□ 皇居^{こうきょ}には天皇陛下^{てんのうへいか}と皇后陛下^{こうごうへいか}、皇太后^{こうたいごう}、それに内親王^{ないしんのう}がお住まいになっている。

□ 皇太子夫妻^{こうたいしふさい}は国民体育大会^{こくみんたいいくたいかい}に出席^{しゅつせき}されました。

0259 貢 □親は子供に、社会に貢献する人になってもらいたいと願うものです。

□平安時代から江戸時代まで、日本の税金は農民が差し出す年貢を基本にしていた。

0260 康 □わたしは病気になって始めて、健康の大切さを知りました。

□京都にある方広寺の鐘に刻まれた「国家安康」の文字を巡って、徳川家康は大阪に攻め込み、
冬の陣を起こしました。

□祖父は面会謝絶の重傷でしたが、何とか持ち直して現在は小康状態にあります。

0261 控 □控え室で控えめに座っていた。

□地方裁判所の判決の後、弁護団は高等裁判所に控訴した。

0262 慌 □突然、先生がテストを実施すると言ったので、クラス全員が恐慌を来しました。

□火事と聞いて慌てたり、来客が来て慌てたり、まったく慌ただしい一日だったと、お母
さんは言いました。

0263 絞 □「雑きんがけは雑きんをよく絞ってからふかないと、だめじゃないか」と、先生に散々絞
られました。

□アメリカでは電気椅子ですが、日本では私刑の執行は絞首刑で行います。

0264 項 □入学試験の要項を取り寄せ、家庭でその項目を一つ一つ検討しました。

□先生が、黒板に遠足の注意事項を書きました。

0265 溝 □ぼくの町では道路のわきに掘られた側溝を排水溝として利用している。

□日本海溝で最も深いのは一万六千八百メートルです。

0266 綱 □多くの綱目からなる区画整理の計画大綱が発表され、住民に要項が配布された。

□汚職事件を起こした官庁は今後は手綱を締めて綱紀粛正に当たることを誓った。

いのちづな きょくげいし つなわた はじ
□命綱もつけずに曲芸師は綱渡りを始めた。

0267 酵 □パンは小麦粉にイースト菌を混ぜて発酵させたものです。

た もの い ちょう こうそ はたら ぶんかいきゅうしゅう
□食物は胃や腸で、酵素の働きによって、分解吸収されます。

さけ つく こうぼ つか
□酒を造るとき酵母を使います。

0268 稿 □祖父は川柳が好きで、よく新聞に投稿している。

しんゆう せいかいちょう せんきょ りっこうほ えんぜつ そうこう か
□親友が生徒会長の選挙に立候補したので、演説の草稿を書いてあげた。

ともだち きょう の かいだん つづ おとうと な
0269 興 □友達が、興に乗って怪談を続けたので、弟は泣いてしまった。

しゃかい か じかん ていこく こうぼう れきし きょうみぶか まな
□社会科の時間に、ローマ帝国の興亡の歴史を興味深く学びました。

わたし まち むかし しろしたちょう たてもの きんこう うつく まちな
0270 衡 □私たちの町は昔ながらの城下町で、建物の均衡がとれた美しい町並みです。

じょしたいそうきょうぎ へいきんだい うつく きょうぎ へいこうかんかく やしな くんれん ひつよう
□女子体操競技の平均台は美しい競技ですが、平衡感覚を養う訓練が必要です。

ます はか つか もの なが りょう おも はか
□わたしたちはものさしや升や量りを使って、者の長さや量や重さを量りますが、これら
の道具を、まとめて度量衡といいます。

せいこうじょ まいにちてつこう たいりょう せいさん
0271 鋼 □製鋼所では毎日鉄鋼を大量に生産しています。

こうたま べにいろ あおいろ い
□鋼玉は紅色のものをルビーといい、青色のものをサファイアと言います。

0272 購 □コンバインは高い農機具ですが、購買力のある農家は購入します。

しんぶんはんばいてん ひと しんぶん こうどくりょう しゅうきん き
□新聞販売店の人が新聞の購読料の集金に来た。

0273 拷 □戦後の日本では拷問を禁止していますが、昔はずいぶん拷問にかけられた人がいました。

ゆうぼくみん のうみん しょくりょう ごう
□遊牧民が、農民から食料を拷りやくした。

0274 剛 □祖父は質実剛健をモットーとする剛毅な性格の人です。

□剛^{ごう}の者^{もの}と呼ばれた武者^{むしや}は合戦^{かっせん}でも遺憾^{い かん な}無く剛勇^{ごうゆう}ぶりを発揮^{はつき}した。

□日本犬^{にほんけん}は軟らかい綿毛^{やわわたげ}の間^{あいだ}から剛毛^{ごうもう}が生えるという特徴^{とくちょう}があります。

0275 豪 □おお大きくなったら、豪華^{ごうか}客船^{きゃくせん}でニューヨークへ行き、豪遊^{ごうゆう}したい。

□新潟県^{にいがたけん}は日本有数^{にほんゆうすう}の豪雪^{ごうせつ}地帯^{ちたい}だ。

0276 克 □こっしん克己心^{こくし}を養^{やしな}えば、この難関^{なんかん}もきっと克服^{こくふく}することができます。

□グループ学^{がく}習^{しゅう}で、ぼくたちは町^{まち}の歴史^{れきし}を克明^{こくめい}に調^{しら}べようと思^{おも}っています。

□理想^{りそう}と現実^{げんじつ}との相克^{そうこく}に悩^{なや}むことが大切^{たいせつ}なのです。

0277 穀 □こめ、むぎ、あわ、きび、まめの五種類^{ごしゅるい}の穀物^{こくもつ}を五穀^{ごこく}と言^いいます。

□ぼくは田舎^{いなか}で、農^{のう}業^{ぎよう}を営^いんでいるおじいちゃんのところに行^いって、イネの脱穀^{だっこく}を手伝^{てつだ}ったことがあります。

□北陸^{ほくりく}地方^{ちほう}は水田^{すいでん}が多^{おほ}く、稲作^{いなさく}が盛^{さか}んで、日本^{にほん}の穀倉^{こくそう}地帯^{ちたい}である。

0278 酷 □なつやす夏休み^{なつやす}はサッカーの練^{れん}習^{しゅう}が毎日^{まいにち}のよう^{こくしよ}にあり、酷暑^{なかつ}の中^{なか}で体^{からだ}を酷使^{こくし}しました。

□弱^{よわ}い動物^{どうぶつ}をいじめるなんて、残酷^{ざんこく}だ。

0279 獄 □かれ彼は地獄^{じごく}耳^{みみ}です。

□先日^{せんじつ}、囚人^{しゅうじん}が集^{しゅう}団^{だん}で、監獄^{かんごく}から脱獄^{だつごく}するスリル満点^{まんてん}のアメリカ映画^{えいが}を見^みた。

0280 昆 □なつやす夏休み^{なつやす}の昆^{こん}虫^{ちゅう}採集^{さいしゅう}が、今^{いま}から楽^{たの}しみです。

□お母^おさんが、なべに昆布^{こんぶ}を敷^しいてだしを取^とっています。

□江戸^{えど}時^{とき}だ、青木^{あおき}昆陽^{こんよう}という学^{がく}者^{しゃ}が、サツマイモを日本^{にほん}に広^{ひろ}めました。

0281 恨 □さんぽ散歩^{さんぽ}が大好き^{だいす}なイヌはわたしがひと^{ひとり}りで出^でかけようとするのを、恨^{うら}めしそうな目^めつきで見ていた。

□リレーで負けたことは今年の痛恨事だった。

0282 紺 □学校の制服によく使われるのは紺色だ。

□おばあさんは人の洋服ばかり縫っていて、自分ではおしゃれをしない。自分で「紺屋の白
ばかまね」と言っていた。

□運動会の朝、紺ペきの空が広がっていた。

0283 魂 □人間は死んだ後も 魂 が残るといふ霊魂不滅説を信じ、鎮魂の儀式が行われた。

□たくましい面 魂 の友達が急ににこにこしても、魂胆は丸見えです。

□精魂込めて絵をかいたら、精根尽き果てた。

0284 墾 □明治時代、富国強兵を目指した政府は農業の発展のための開墾や、工業の発展のための

工場設置を行いました。

□質問をしたら、先生が懇切丁寧に教えてくれた。

□友達の家遊びに行ったら、お母さんから懇ろな持て成しを受けたうえ、お土産までも
らいました。

さ

0285 佐 □江戸時代の末、江戸幕府を守ろうとしたことを佐幕といい、佐幕派の人々は幕府を倒そう

とした人々と対立した。

□今日、ぼくは副班長に選ばれ、班長の補佐を務めることになった。

□軍人の階級の一つに佐官がある。佐官はさらに、大佐、中佐、少佐の三つの階級に分れ
ている。

0286 唆 □先生は教室を一巡して、クラスみんなに、漢字の書き方を示唆して回った。

□「ブタもおだてれば木に登る」などと、悪いことを教唆してはいけない。

□友達に 唆 されて、知らない人の家のチャイムを鳴らしたら、いきなりぼくのお母さんが
出てきたので、びっくりしました。

0287 詐 □近ごろ、偽札を使う詐欺師が出没します。

□経歴を詐称した人物が、会社を首になった。

0288 鎖 □一六三五年の江戸幕府による鎖国例で、日本は二百年以上の間、世界の発展から取り残さ
れた閉鎖的な国となった。

0289 災 □火災などの突然の災害に備えて、学校で防災訓練が行われた。

□今年もまた災難がありませんように。

0290 砕 □南極では巨大な氷を砕いて船の進路を切り開く砕氷船が活躍する。

□碎石場では岩を粉碎する大きな音がしている。

0291 宰 □宰相は国の政治を任された人を意味します。日本の場合は総理大臣が宰相ということに
なります。

□ビルの建設工事を宰領するのが、父の仕事です。

□わたしの母はある俳人の主宰する会で、俳句作りを習っている。

0292 栽 □わたしは朝顔を栽培しています。

□おじいさんは盆栽が趣味で、毎日、朝と夕方に熱心に手入れをしています。

0293 彩 □春が来ると、サクラのピンクと若葉の緑が、山を彩ります。

□その画家の作品は独特の色彩で描かれていて、異彩を放っています。

0294 斎 □父は書斎にこもり、熱中して何かに打ち込んでいる。

□町の^{まち}斎^{さい}場^{じょう}で、町^{ちょう}議^ぎ会^{かい}議^ぎ長^{ちやう}の葬^{そう}式^{しき}が、盛^{せい}大^{だい}な^とがらしめやかに執^し行^{ぎやう}われました。

0295 裁 □家^か庭^{てい}科^かで裁^{さい}縫^{ほう}をすることになり、裁^{さい}断^{だん}の仕^{しか}方^たを習^{なら}って、布^{ぬの}を裁^たちました。

□きれいな紙^{てい}で、プレゼン^{てい}ト^{さい}を体^{たい}裁^{さい}よく包^{つつ}みました。

0296 債 □伯^お父^じは事^じ業^{ぎやう}に失^{しつ}敗^{ぱい}し、多^た額^{がく}の負^ふ債^{さい}をかかえているそうです。

□国^{こく}債^{さい}費^ひが、財^{ざい}政^{せい}を圧^{あつ}迫^{ぱく}しているそうです。

0297 催 □今^{こと}年^しの秋^{あき}に、浮^う世^き絵^{よえ}の展^{てん}覧^{らん}会^{かい}が催^{かい}さるそうです。

□友^{とも}達^{だち}が本^{ほん}を返^{かえ}してくれないので、早^{はや}く返^{かえ}してくれるように、催^{さい}促^{そく}した。

0298 載 □材^{ざい}木^{もく}を満^{まん}載^{さい}したト^はラ^しックが走^{はし}っていた。

□今^き日^{よう}の朝^{ちやう}刊^{かん}に、わたし^のの投^{とう}書^{しよ}が掲^{けい}載^{さい}された。載^のってうれしかった。

0299 剤 □洗^{せん}剤^{ざい}で真^まっ白^{しろ}に洗^{あら}われて干^ほされている光^{こう}景^{けい}は一^{いっ}服^{ぷく}の清^{せい}涼^{りやう}剤^{ざい}だと、母^{はは}は言^いいます。

□母^{はは}は薬^{やく}剤^{ざい}師^しに下^げ剤^{ざい}を調^{ちやう}合^{ごう}してもらった。

0300 崎 □島^{しま}根^ね半^{はん}島^{とう}の東^{とう}端^{たん}にある地^じ蔵^{ぞう}咲^{ざき}は出^い雲^{ぐん}神^{しん}話^わの中^{なか}では三^み保^ほ崎^{ざき}といい、コトシロヌシノコトが

タイを釣^つった地^ちだと伝^{つた}えられている。

□青^あ森^{おもり}県^{けん}の竜^{たつ}飛^び崎^{ざき}はととも風^{かぜ}が強^{つよ}く吹^ふき荒^あれるところでは。

0301 削 □ト^{こう}ン^じネル工^{さぎ}事^{よう}で、作^お業^も員^きが重^{さく}そうな削^が岩^ん機^きで厚^{あつ}い岩^{いわ}を掘^{くつ}削^{さく}しています。

□テス^{てん}ト^{さく}が添^{かえ}削^{さく}されて返^{かえ}された。

0302 索 □「象^き潟^{さかた}」という珍^{めづ}しい地^ち名^{めい}を、事^じ典^{てん}の索^{さく}引^{いん}で検^{けん}索^{さく}した。

□ク^{ぜん}ラ^{いん}ス全^{はな}員^{しあ}で話^も合^{んだい}って、問^{かい}題^{けつ}の解^{ほう}決^{ほう}法^{ほう}を暗^{あん}中^{ちゆう}模^も索^{さく}しました^が、結^{けつ}論^{ろん}は出^でませんでした。

□索^{さく}道^{どう}の下^{した}に、木^きを切^きられて索^{さく}漠^{ばく}とした山^{やま}肌^{はだ}が見^みえる。

0303 策 □各家庭で、不意に起こる地震の対策を立てておくことが大切です。

□母の小言には黙って下を向いているのが、得策だ。

0304 酢 □三杯酢は酢にしょうゆや塩の塩味と、砂糖やみりんの甘みを加えたもので、酢の物の味付けに使われます。

0305 搾 □牧場で搾乳を体験した。

□人の利益を搾取して金をもうけても、本当の豊かさは得られないはずだ。

0306 錯 □問題が複雑だと、精神が錯乱して、錯誤に陥りやすい。

□現実に見たものと夢で見たものが交錯して、錯覚してしまいました。

0307 撮 □卒業式の後、六年生は組みごとに分れて、卒業写真を撮影しました。

□映画の特撮と言うのは特殊撮影の略で、特殊な技術やトリップを使う撮影方法のことをいいます。

0308 擦 □キャンプでたき火をするときに、風が強く、マッチを擦って、火をつけようとしても、すぐに消えて困った。

□履きなれた靴のかかとが擦り切れてしまったので、修理に出した。

0309 棧 □ぼくたちはいつも、港の棧橋で釣りをしています。

□棧敷席で、相撲を観戦した。

0310 蚕 □蚕はクワの葉に潜り込むようにして葉っぱを食べます。

□この辺りは昔は産業を営む農家が多かった。

□十六世紀の後半から、ヨーロッパ列強の植民地争奪が起こり、アフリカやインドなどが、次々と蚕食されました。

0311 惨 □真冬に道に迷い、寒い思いをした上におなかまで空いてきて、とても惨めだった。

□過去の戦争で惨死した人は大勢いる。このような惨劇を、決して繰り返さないようにしよう。

□相手チームは思った以上に強く、ぼくたちは惨敗してしまった。

0312 傘 □下校時に急に大雨が降ったが、傘立てに母が届けてくれたわたしの雨傘を見つけ、心が温かくなった。

□青い空に白い落下傘が花のように開き、ゆっくり落ちてくる。

□秀吉は織田信長の傘下に入り、活躍した。

0313 酸 □コップをかぶせた中で、ろうそくを燃やすと、やがて酸素がなくなって、火が消えてしまう。

□列車転覆事故の現場はさながら修羅場のようで、酸鼻の極みだ。

□酸性のものをなめると、酸味がする。

0314 暫 □店の前に「暫時休業いたします」と書いた紙をはっていた書店が、店を再開しました

□市は今年度の予算を暫定的に組んでスタートします。

し

0315 士 □少年剣士たちは勇士のように士気高く相手に切り込んだ。

□士農工商の頂点に立つ武士には守らなくては行けない士道があった。

□卒業式の来賓は代議士や弁護士などの名士だ。

0316 氏 □源氏の氏族の中では清和天皇の孫に始まる清和源氏が最も隆盛した。

□氏素性と言う言葉より、氏より育ちと言う言葉がぼくは好きです。

□氏名の欄には各自の氏名を大きく書いてください。

0317 司 □ぼくたちは司令部をつくって、その計画の下に子供会を司会・進行しようと思っています。

□汚職事件について司法の手が伸びました。

□お姉さんは図書館の司書をしています。

0318 矢 □家を出ようとした矢先、田舎の祖母が危篤と言う電話がありました。母は矢も盾もたまらず車を飛ばしました。

□会社の責任者が矢面に立たされ、新聞記者たちが矢継ぎ早に質問を浴びせた。

□借金取りが矢の催促をしに来ました。

0319 旨 □来週は行けない旨を書いた手紙を出しましたが、本旨が伝わらなかったようで、何時にきますかと言う手紙が返ってきました。

□論旨を鮮明にした発言のつもりが、要旨をまとめると、かなりあいまいな発言だった。

□この際、宗旨を変えて勉強に専念しよう。

0320 至 □旅館では仲居さんが至れり尽くせりのサービスをしてくれる。

□至近距離から、ボールが飛んできた。これをよけるのは至難のわざだ。

□コンサートから帰ってきたお母さんはにこにこして「至福のときを過ごせたわ」といいました。

0321 志 □高校を受験した兄は志望校に合格できた。

□チームの志気が高いので、きっと今度の野球大会では勝てるだろう。

0322 祉 □日本では高齢者の福祉を増進させていくことが、課題となっている。

□人々に水準以上の生活を保障する国の体制を、福祉国家と呼びます。

0323 肢 □ 弟^{おとうと}は幼稚園^{ようちえん}のころは丸々^{まるまる}と太^{ふと}っていたのに、居間^いはすらりとのびた肢体^{したい}になりました。

□ 百^{ひゃく}獣^{じゅう}の王^{おう}のライオンも、四肢^しを投げ出し、昼寝^なしている姿^だはどことなくユーモラスで
す。

0324 姿 □ 姉^{あね}は姿見^{すがみ}に姿^{すがた}を映^{うつ}して、あいさつの姿勢^{しせい}を練習^{れんしゅう}していた。

□ バレリーナは美^びし姿態^{したい}で舞^まっています。

0325 施 □ 市長^{しちょう}は施政方針演説^{しせいほうしんえんぜつ}で、公共施設^{こうきょうしせつ}に対する施策^{たい}の遅れ^{しさく}に焦^お点を当^{しょうてん}て、その充^あ実^{じゅうじつ}を目指^めす
ことを明^{あき}らかにした。

0326 視 □ 学校^{がっこう}の視力検査^{しりょくけんさ}で、近視^{きんし}だと言^いわれた。

□ 父^{ちち}は視野^しを広^やめるために、アメリカの姉妹都市^{ひろ}に視察^{しまいと}に行^しった。

□ 兄^{きょうだい}弟^あげんかの後^{おとうと}、弟^{はな}は話^むしかけても無視^しする。

0327 紫 □ 紫雲^{しうん}はめでたい印^{いん}とされる紫^{むらさき}色^{いろ}の雲^{くも}で、仏^{ぶつ}がこの雲^{くも}に現^{あらわ}れると言^いわれている。

□ プリズムで太陽光線^{たいようこうせん}を七色^{なないろ}に分^わけたとき、紫^{むらさき}色^{いろ}の外側^{そとがわ}にある、目^めには見^みえない光線^{こうせん}を
紫^{しがい}外^{せん}線^{せん}と言^いいます。

0328 嗣 □ どの職人^{しよくにん}さんの家^{いえ}でも、嗣子^しがい^しないと言^いう悩^{なや}みを抱^{かか}えているそうです。

□ 江戸時代^{えどじだい}に、七代将軍^{しちだいしょうぐん}の家継^{いえつ}ぐに後嗣^{こうし}がい^いなかったために、八大将軍^{はちだいしょうぐん}は紀伊^{きい}から迎^{むか}えら
れました。

0329 詩 □ 国語^{こくご}の授業^{じゅぎょう}で、現代^{げんだい}の詩歌^{しいか}を集^{ほん}めた本^よを読^よみました。

□ 詩吟^{しぎん}は漢詩^{かんし}に節^{せつ}をつけてうたうものです。

0330 飼 □ わたしたちは学校^{がっこう}でウサギ^{うさぎ}の飼育^{しいく}をしています。

□ 羊飼^{ひつじか}いの青年^{せいねん}は草原^{そうげん}でヒツジ^{しりょう}の飼料^かを買^かっています。

0331 雌 □雌^{しふくさんねん}伏三年、その歌^{かしゆ}手はようやくデビュ^{はた}ーを果した。

□明^{あした}日、決^{けつしやうせん}勝戦。雌雄^{しゆう}を決する時^{けつ}がや^{とき}ってきた。

0332 賜 □この赤^{あか}ん坊^{ぼう}は神^{かみさま}様から賜^{たまわ}った大^{たいせつ}切^{たからもの}な宝^{たからもの}物^{はた}です。

□天^{てんのうはい}皇杯^{はい}はサッ^{しあい}カーの試^{ゆうしやう}合^{ゆうしやう}で優^か勝^ししたチ^{しはい}ームに下^{ひと}賜^{ひと}される賜^{ひと}杯^{ひと}の^{ひと}一つ^{ひと}です。

□貧^{まず}しい村^{むらびと}人^とたちは殿^{とのさま}様^{おんし}からの恩^て賜^あに手^ふを合^ふわせ、ひれ伏^ふしました。

0333 諮 □文^{もんぶだいじん}部^{せんもんか}大臣^{あつ}が、専^{いいんかい}門^{しもん}家^{しもん}を集^{しもん}めた委^{しもん}員^{しもん}会^{しもん}に諮^{しもん}問^{しもん}を^{しもん}しまし^{しもん}た。

□ク^{いいん}ラ^{くら}ス^{すぜんいん}委^{おんがつかい}員^{うた}がク^{きよく}ラ^なス^{はか}全^{はか}員^{はか}に、音^{うた}楽^{きよく}会^なで歌^{うた}う^{はか}曲^{はか}を^{はか}何^{はか}に^{はか}する^{はか}か、諮^{はか}り^{はか}しまし^{はか}た。

0334 侍 □侍^{じじよ}女^{さむらいしや}は侍^{いっしゆ}者^{みぶん}の^{たか}一^{ひと}種^みで、身^{まわ}分^せの^わ高^{じよせい}い^{じよせい}人^{じよせい}の^{じよせい}身^{じよせい}の^{じよせい}回^{じよせい}り^{じよせい}の^{じよせい}世^{じよせい}話^{じよせい}を^{じよせい}する^{じよせい}女^{じよせい}性^{じよせい}の^{じよせい}こ^{じよせい}と^{じよせい}す^{じよせい}。

□戦^{せんごくじだい}国^{ひと}時^{ぐん}代^し、一^{ぶし}つ^{あた}の^{あた}軍^{あた}を指^{さむらい}揮^{たいしやう}した武^よ士^よの^よ頭^よの^よこ^よと^よを、侍^{さむらい}大^{たい}将^{じやう}と^{じよせい}呼^{じよせい}ん^{じよせい}で^{じよせい}い^{じよせい}ま^{じよせい}し^{じよせい}た。

0335 滋 □晴^{せいてん}天^{にしゆうかん}が二^{つづ}週^{つづ}間^{つづ}も続^{きよう}い^{あめ}て^{じう}いた^{じう}ので、今^{きよう}日^{あめ}の^{じう}雨^{じう}は滋^{きよう}雨^{あめ}とな^{じう}った。

□卵^{たまご}は滋^{じよう}養^{じよう}にな^{むかし}る^しこ^しが昔^{びやうにん}か^おら^{もの}知^{つか}ら^{つか}れ^{つか}て^{つか}い^{つか}て、病^{びやうにん}人^おへ^{もの}の^{つか}贈^{つか}り^{つか}物^{つか}に^{つか}も^{つか}使^{つか}わ^{つか}れ^{つか}て^{つか}い^{つか}ま^{つか}し^{つか}た。

0336 慈 □園^{えんちやう}長^{じあい}は慈^{えんじ}愛^{みまも}の^{みまも}ま^{みまも}な^{みまも}ざ^{みまも}し^{みまも}で園^{えんじ}児^{みまも}を見^{みまも}守^{みまも}る。

□祖^そ母^ぼは慈^じ悲^ひ深^{ぶか}い^{ひと}人^{ひと}で、慈^じ善^{ぜん}活^{かつ}動^{どう}に熱^{ねつ}心^{しん}に^と取^とり^く組^くん^くで^くい^くま^くす。

0337 磁 □登^{とざん}山^{じしやく}は磁^{じしん}石^{かくにん}の磁^{かくにん}針^{かくにん}を^{かくにん}確^{かくにん}認^{かくにん}し^{かくにん}な^{かくにん}が^{かくにん}ら^{かくにん}進^{すす}み^{すす}ま^{すす}す。

□わ^じた^きし^{なか}は磁^{すず}器^きの中^{きひん}で^{きひん}も、涼^{せい}し^じげ^すで気^き品^{ひん}の^{せい}あ^じる^す青^{せい}磁^じが^す好^すき^すだ。

0338 璽 □御^{ぎよじ}璽^{やくきゆうじゆう}は約^み九^り十^{しほう}ミ^{きんいん}リ^{きんいん}四^{きんいん}方^{きんいん}の金^{きんいん}印^{きんいん}で、「天^{てんのうぎよじ}皇^{ぎよじ}御^{ぎよじ}璽^{ぎよじ}」の^{ぎよじ}四^{ぎよじ}字^{ぎよじ}が^{ぎよじ}刻^{ぎよじ}ん^{ぎよじ}で^{ぎよじ}あ^{ぎよじ}る。この^{ぎよじ}御^{ぎよじ}璽^{ぎよじ}を^{ぎよじ}天^{ぎよじ}皇^{ぎよじ}は

法^{ほうりつ}律^{じようやくしよ}・条^{ないかく}約^{そうりだいじん}書^{にんめいしよ}・内^{もち}閣^{もち}総^{もち}理^{もち}大^{もち}臣^{もち}の^{もち}任^{もち}命^{もち}書^{もち}な^{もち}ど^{もち}に^{もち}用^{もち}い^{もち}る。

□玉^{たまじ}璽^{てんのう}は天^{こくおう}皇^{あらわ}や国^{ことば}王^{ことば}の^{ことば}は^{ことば}ん^{ことば}を^{ことば}表^{ことば}す^{ことば}言^{ことば}語^{ことば}です。

□国^{こくじ}璽^{やくきゆうじゆう}は約^{しほう}九^{きんいん}十^{きんいん}ミ^{きんいん}リ^{きんいん}四^{きんいん}方^{きんいん}の金^{きんいん}印^{きんいん}で、「大^{だいにっぽんこくじ}日^ご本^じ国^{きざ}璽^{きざ}」の^{きざ}五^{きざ}字^{きざ}が^{きざ}刻^{きざ}ん^{きざ}で^{きざ}あ^{きざ}る。侍^{じじゆうしよく}従^{じじゆうしよく}職^{じじゆうしよく}が^{じじゆうしよく}保^{ほかん}管^{ほかん}し

て勲章とともに与える証書などに使う。

0339 軸 □政府の枢軸の大臣が、新機軸の政策を発表した。

□自転車の車軸の軸受けに両足を乗せてみました。

0340 疾 □胸部疾患があると検査で言われたので、精密検査を受けた。

□だちょうは群れをなして疾風のように駆け抜けました。それを追いかけて、車は疾走します。

0341 執 □ある小説家は早朝から昼までを執筆の時間と決めています。

□妹は壊れた人形にいまでも執着していた。

0342 漆 □おばちゃんは先祖代代伝わる、我が家の家宝の漆塗りのおわんを、大切に保管しています。

□城下町として発達した会津若松は伝統工芸品である漆器で有名です。

0343 芝 □春から夏になるにつれて、公園の芝生の緑は鮮やかさを増した。

□この前の土曜日は家族で芝居見物に行きました。

0344 舎 □この学校は全寮制学校で、校舎の裏に寄宿舍があります。

□お父さんは叔父さんのことを、知り合い人に「舎弟です」と、紹介していた。

0345 射 □遊園地にある射的で練習すれば、射撃もうまくできるようになるのだろうか。

□射幸心にかかれて、努力を怠ると怠け者になってしまう。

□直射日光がきつく、日射病になりそうです。

0346 赦 □ぼくが母に、容赦なく怒られたら、祖母が赦免をお願い出でてくれた

□模範囚が特赦を受けて出所した。

0347 斜 □朝、目を覚ましたら、斜光が窓から差してキラキラ光っていました。

□山の斜面を斜陽が照らす中、わたしたちはスキーを楽しみました。

0348 煮 □野菜を生煮え煮ならないようによく煮込んで煮物を作りました。

□煮沸し、煮え返った煮え湯を、ドリップに注いでコーヒーを入れました。

□我が家では煮干しで雑煮のだしを取ります。

0349 遮 □友たちと立ち話をしていたら、選挙演説の車が通り、スピーカーから流れる演説の声が、
二人の話を遮った。

□よちよち歩きの子どもが、踏切の遮断機のしたをくぐりそうになり、お母さんはあわてて
抱き上げた。

0350 謝 □三月には卒業式と謝恩会が行われる。お世話になった先生に、謝辞を述べる保護者が多かった。

□隣のおじさんはがんで入院して半年になるが、ずっと面会謝絶のままだ。

□肌の新陳代謝を活発にするために、ビタミンCを飲みます。

0351 邪 □人の親切を邪推して、邪念に刈られて、親切を邪魔にするのは邪悪なことです。

□無邪気で、邪心のない目をした子です。

□風邪は万病のもとである。

0352 蛇 □水道の蛇口から勢いよく水を出して、顔を洗った。

□余計な付け足しや無駄なもののことを蛇足という。これは中国で蛇の絵を早くかく競争
をした時、先にかいた人が勢いで足までかいて負けたという話から生まれた。

□この川は河口付近で蛇行しています。

0353 尺 □尺寸の土地ではあるが、ぼくの家の中には四季折々の花の咲く花壇がある。

□私^{わたし}はモーツァルトのピアノ^{ぴあ の きょく}曲^すが好きだが、友^{とも}たちはあまり好きではないという。人^{ひと}によ
って、感じ方^{かん かつ}の尺度^{しゃくど}は違うものだ。

□おじいさんの趣味^{しゅみ}は尺八^{しゃくはち}を吹^ふくことです。

0354 酌 □父^{ちち}は毎日^{まいにち}、晩酌^{ばんしゃく}出二合^{でにごう}の酒^のを飲^のんでいます。

□媒酌^{ばいしゃく}人^{にん}は新郎^{しんろう}の恩師^{おんし}に頼^{たの}むことになります。

0355 釈 □昔^{むかし}の文^{ぶん}章^{しょう}には何通りか^{なんとお}に解^{かい}釈^{しゃく}できるものがあります。

□容疑者^{ようぎしや}を釈放^{しゃくほう}したというニュースが伝^{つた}えられた。

0356 寂 □廃坑^{はいこう}になっ^なった校舎^{こうしゃ}は寂^{せき}りよう感^{かん}が漂^{ただよ}っていた。

□夜中^{よなか}になると、町^{まち}は静寂^{せいじゃく}に包^{つつ}まれ、寂^{せき}ばくとする。

0357 朱 □父^{ちち}は俳句^{はいく}の先生^{せんせい}の朱筆^{しゅひつ}に感心^{かんしん}しました。

□おばあちゃんはお正月^{しょうがつ}に、大切^{たいせつ}な朱塗り^{しゅぬ}のおわんでお雑煮^{ぞうに}を食^たべさせてくれる。

0358 狩 □その人^{ひと}は狩^{しゅり}獵^{りょう}の名手^{めいしゅ}とうたわれた人物^{じんぶつ}です。

□家族^{かぞく}で潮干狩^{しおひが}りに行^いきました。

0359 殊 □プロ野球^{やきゅう}の日本^{にほん}シリーズが、始^ずまった。今年^{ことし}の最高^{さいこう}殊勲^{しゅくん}選手^{せんしゅ}は誰^{だれ}だろう。

□母^{はは}の作^{つく}る料理^{りょうり}はどれも、とてもおいしいが、殊^{こと}に五目^{ごもく}寿司^{ずし}は最高^{さいこう}だ。

0360 珠 □お姉さん^{しんじゅ}は、真珠^{しんじゅ}のネックレスをして、友^{とも}達^{だち}の結^{けっ}婚^{こん}式^{しき}に出^でかけました。

□お坊さん^{ぼう}は墓^{はか}の前^{まえ}で、数珠^{じゅず}を手^てにかけて、念仏^{ねんぶつ}を唱^{とな}えました。

0361 趣 □文^{ぶん}章^{しょう}の趣意^{しゅい}をよく考^{かんが}えなが^なら読^よむことが、読^ど解^{かい}力^{りき}を養^{やしな}うための一^{いち}番^{ばん}よい方^{ほう}です。

□母^{はは}の趣意^{しゅい}は生^いけ花^{ばな}です。

0362 寿 □平均値で見ると、日本人の寿命は年を追うごとに延びできた。

□健康で長生きをしたおじいさんが、家族に見守られながら、天寿をまっとうしました。

□七十七歳を喜寿、八十八歳を米寿、九十九歳を白寿と呼び、長寿をお祝う習わしがあります。

0363 授 □昨日、音楽コンクールの授賞しきがあった。

□大学の教授の父は今年の春から新しい大学で授業をすることになった。

0364 需 □需要と供給の釣り合いが取れていると、経済は安定します。

□私たちの、学校で必需品は教科書やノートや鉛筆です。

0365 儒 □儒教は紀元前五百年ごろに中国の孔子が唱えはじめた政治や道徳についての教えです。

□儒学では仁・義・礼・智・信が重んじられます。

0366 樹 □ゴムの木は常緑樹で、白い樹液からタイヤなどが作られます。

□彼女は平泳ぎの世界新記録を樹立した。

0367 囚 □囚人はみな同じ囚人服をきている。

□モンテ・クリスト伯爵は長い間孤島の監獄に、幽囚の身になった。

0368 秀 □弟は全般的に優秀な成績だが、特に工作に秀でている。

□姉は秀才ですが、スポーツは苦手です。

0369 宗 □宗教や宗派を超えて理解しあおう。

□父は運動嫌いだ、収支をかえてジョギングを始めた。

0370 臭 □叔父さんが、くさやという干物を持ってきてくれて、焼いたらすごく臭くてびっくりした。
でも、とても、おいしかった。

☐ 夏は汗をかくので、体臭が気になりなります。

0371 修 ☐ 小学校を修了する前に、日光旅行に行くのが楽しいです。

☐ 日曜日にお父さんはぼくの自転車を修理して、塀を修繕しました。

☐ 昔の武士は武者修行に出かけましたが、ぼくは人生修業にサマースクールに出かけました。

0372 就 ☐ 就職活動中の姉は会社訪問で疲れて早く就寝している。

☐ 川の流れるのが早く、橋を架けるのは難工事だったが、みごとに成就して村は便利になった。

0373 衆 ☐ クラスみんなの衆知を集めて、クラス対抗戦の作戦を練ろう。

☐ 衆人環視の中で、その出来事は起きる。

0374 愁 ☐ お父さんは哀愁に満ちた演歌が大好きだ。

☐ お姉さんは、一人旅をしたとき、旅先で、旅愁を味わったそうです。

0375 酬 ☐ 聖人は何の報酬も求めまい、無償の愛をといて、全国各地を歩いた。

☐ 宴会では献酬を応酬し合って、にぎやかでした。

0376 醜 ☐ 政治家の醜聞がマスコミをにぎわせていますが、事実ならずいぶん醜悪なことだと思います。

☐ 美醜で、人を判断してはいけません。

0377 襲 ☐ 若い歌舞伎俳優が、祖父の芸名を襲名した。

☐ 騎馬戦で順調に勝ち残ったのに、相手に後ろから襲撃され、惜しくも試合の終わる直前に敗れた。

☐ 今年の夏は大型の台風がつけぎまに襲来し、日本の各地から被害が報告されました。

0378 汁 □姉はお汁粉を食べながら、みかんお果汁を飲みます。

□広い社会の名かには役所に入り込んで甘い汁を吸おうとたくらむ不屈きな人もいます。

□わたしたちの家族は新春に、全員で墨汁を使って書き始めをします。

0379 充 □夕食後の一時間はテレビを見ないで、勉強に充てるようにしてから、生活がとても充実したそうです。

□体が充満してきました。

0380 従 □昔は女性は男性に従順に服従するのがいいとされていたそうだ。

□お父さんの会社では多くの従業員が、仕事に従事した。

0381 渋 □庭の柿は渋味が強くてあまりおいしくなかった。

□連休に車で出かけたら、高速道路の渋滞がひどくて、家族みんなが疲れてしました

0382 銃 □世界のどこかで銃声が響き、銃火が立ち昇っている。

□猟師さんが発射した猟銃の銃身に触てみると、とても熱かった。

0383 獣 □ぼくは大きくなったら獣医になりたい。

□ライオンは猛兽打、百獣の王と呼ばれる。

0384 縦 □長い縦糸に横糸を通して織物を織っていく。

□友だちはマウンテンバイクを縦横無尽する。

0385 叔 □叔とは父母の年下の兄弟姉妹を表したり、「伯仲叔季」のように兄弟姉妹の順の三番目を指したりする言葉です。

□先日、家に来た叔父は父のすぐ上のお兄さんで、昨日、家に来た叔父は父の弟なんだと母が教えてくれました。

□わたしは夏休みに京都の叔母さんの家に遊びに行くつもりです。

0386 淑 □祖母は淑徳な人で、貞淑の誉れが高い女性だ。

□母は私淑している陶芸作家の作品をまねて皿を作りました。

□先生が淑女と一緒に教室に入ってきました。

0387 肅 □結婚式は厳肅に進んだ。

□不幸があった家では祝い事は自肅して静肅にしています。

0388 縮 □短縮授業の日に、図書館へ行って新聞の縮刷版を調べることにした。

□縮尺、五万分の一縮図を見ながら、登山の計画を立てた。

□ぼくは二十四の一に縮小した車の模型を作る。

0389 塾 □ぼくはそろばん塾と書道塾に通っている。

□わたしの学習塾の塾長は塾生に親身に教えてくれる。

□吉田松陰は松下村塾という私塾を作り、多くの藩士が入塾した。

0390 熟 □名作を熟読すれば、難しい熟語も分かるようになる。

□彼女とは幼なじみで、人柄を熟知しているが、級友たちより早熟な面がある。

□弟はきょうの遠足の疲れで、熟睡している。

0391 俊 □動きが俊敏な相手を抑えるには味方に俊秀をそろえる必要がある。

□わたしは俊足を買われて、学級対抗のリレーの選手に選ばれました。

□俊英と評判の友人が、わからないことは何でも教えてくれる。

0392 瞬 □高原で、夜空いっばいに瞬く星を見ました。

□駅^{えき}のホームに着いた瞬間^{しゅんかん}に、発射^{はっしや}の合図^{あいず}が聞えた。一瞬列車^{いっしゅんれっしや}に乗り遅れるかと思^{おも}ったが、
何^{なん}とか間^まに合った。

□ネコが食卓^{しょくたく}のうえの魚^{さかな}を銜^{くわ}えて逃げたのは瞬時^{しゅんじ}の出来事^{できごと}でした。

0393 旬 □私^{わたし}たちの学校^{がっこう}の校庭^{こうてい}では四月^{しがつ}の上旬^{じょうじゅん}にサクラが咲^さき、下旬^{げじゅん}になるとツツジが咲^さき始め^{はじ}める。

□ぼくたちのクラスでは生徒^{せいと}が交代^{こうたい}で、旬刊^{じゅんかん}の学級^{がっきゅう}だよりを出^だす。

□今月^{こんげつ}の十一日^{じゅういちにち}から二十日^{はつか}までは交通安全旬間^{こうつうあんぜんじゅんかん}だ。

0394 巡 □巡查^{じゅんさ}が自転車出町^{じてんしゃでまち}を巡回^{じゅんかい}し、パトカーが通^{とお}りを巡視^{じゅんし}して回^{まわ}ります。

□劇団^{げきだん}は町^{まち}から町^{まち}へ巡業^{じゅんぎょう}して回^{まわ}った。

0395 盾 □兵士^{へいし}たちは盾^{たて}に身^みを隠^{かく}しながら、敵地^{てきち}へと乗り込^のんでいきま^こしました。

□法律^{ほうりつ}を盾^{たて}に取^とって、相手^{あいて}の不当^{ふとう}な要求^{ようきゅう}をしりぞけた。

□いい成績^{せいせき}を取りたいが、勉強^とするのは面倒^{べんきょう}だ。自分^{めんどう}でも矛盾^{じぶん}した考^{むじゅん}えだというこ^{かんが}とはわ
かっているのだが。

0396 准 □兄^{あに}は水泳教室^{すいえいきょうしつ}の准指導員^{じゅんしどういん}です。

□日本^{にほん}は動物保護^{どうぶつほご}のために、ワシントン条約^{じょうやく}を批准^{ひじゅん}しました。

0397 殉 □飛行機^{ひこうき}や船^{ふね}が発達^{はったつ}していなかった昔^{むかし}、殉教^{じゅんきょう}を覚悟^{かくご}のう^{しゅうきょう}えで、宗^{ひろ}教^みを広めるために見知^{みし}
らぬ土地^{とち}へ渡^{わた}った宣教師^{せんきょうし}たちがいた。

□火事^{かじ}の消火^{しょうか}に当た^あった消防士^{しょうぼうし}の一人^{ひとり}が、殉職^{じゅんしょく}した。

□昔^{むかし}、君主^{くんしゅ}や殿様^{とのさま}の死後^{しご}、家来^{けらい}や妻^{つま}が後^{あと}を追^おって自殺^{じさつ}したことを、殉死^{じゅんし}という。

0398 循 □日ごろからスポーツなどで体^ひを動か^{からだ}さず習慣^{うご}をつけておくと、血液^{しゅうえき}の循環^{じゅんかん}がよくなって、

からだ じょうぶ
体も丈夫になる。

□わたしは市内を循環するバスで、学校に通っています。

□循環器は心臓や血管など、血液によって体のすみずみまで酸素や栄養分を運び、いらなくなつたものを外に運び出す器官です。

0399 潤 □彼はユーモアのセンスがあり、クラスの潤滑油的な存在だ。

□ここは豊潤な土地でブドウの名産地だ。

0400 遵 □交通安全規則を遵守した人たちへの特別表彰が、今年も行われました。

□遵法の精神が、徐々に薄れていくことが心配だ。

0401 庶 □「庶民の声を反映した政治を行ってほしいものだ」と父はいつも、ぼやいている。

□今年、大学を卒業し、電力会社に就職した兄は庶務課に配属されました。

0402 如 □努力が欠如すると、如実に成績が悪くなる。

□突如、薬師如来の顔に光が差し込んだ。

0403 序 □二回なんて、まだ序盤戦だ。逆転できるよ。

□年功序列で順序を決めると、一番若いぼくが序の口だ。

0404 叙 □この道五十年の人間国宝が叙勲を受け、新聞に名前が出ていました。

□フランスクリンの自叙伝はとても面白い。

0405 徐 □歩道のない商店街を車で通る時は徐行運転をしないと、危険です。

□飛行機は徐々に期待を持ち上げ、空のうえの方に行き、次第に小さくなっていきました。

0406 升 □作文は原稿用紙の升目に丁寧な字を一升一升書いていき、升目からはみ出さないように

ちゅうい
注意します。

□大相撲の升席に座った父は早速、升酒を飲みながら、ひいきの力士を応援します。

□おじさんは仕事帰りに升売りの一合升の酒をいっぱい飲みます。

0407 匠 □隣のおばあさんは三味線の師匠で、毎日、自宅で生徒を教えています。

□この彫刻は巨匠の作品だけあって、素晴らしい。

0408 抄 □母は市役所に出かけて市民課で戸籍抄本を取ってきました。

□姉はシェークスピアの抄訳に取り組んでいます。

0409 肖 □祖父は父のことを「不肖の息子」と言います。

□わたしは絵画教室で肖像画をかく勉強をしています。

0410 尚 □兄の高校は尚武の校風で、剣道部が強い。

□隣の寺の和尚さんは書道や短歌など高尚な趣味を持っている。

0411 松 □松原の中を、松葉づえをついて歩いた。

□松の内は松飾りがある間ということからの言葉です。

0412 沼 □夏になると、白やピンクのハスの花が、沼地に華やかさを添えます。

□湖沼に住む生物の実態を調べるため、学者グループが全国で調査を始めたそうだ。

0413 昭 □昭和は日本の年号の一つで、一九二六年から一九八九年まで

六十四年間続きました。

□昭示は明示と同じ意味を持つ、やや古めかしい言葉だ。

0414 宵 □今宵、宵の口ごろ、宵の明星が西の空に見えます。

□ 弟^{おとうと}は宵^{よい}っ張^ばりで、昨^{きのう}日^{じゅういちじ}も十^お一時^おまで起きていました。

0415 症 □ 症^{しょうじょう} 状^{じかく}の自^{けんこうしんだん}覚^{けっか}はなかつたのですが、健^{ひんけつぎみ}康^い診^い断^いの結果^い、貧^い血^い気^い味^いだと言^いわれま^いした。

□ のどに炎^{えんしょう} 症^おが起^こきて、声^{こえ}がで^でなくな^なってしま^しいま^ました。

0416 祥 □ ばたばたと忙^{いそが}しくして^して^てい^いる時^{とき}は不^ふ祥^{しやうじ}事^おが起^おこ^おら^らない^いよう^{よう}に、用^{よう}心^{じん}する^すべき^きです。

□ インドは仏^{ぶつ} 教^{きやう} 発^{はつ} 祥^{しやう}の地^じです。

□ 今^{こん}度^どの日^{にち}曜^{よう}日^びは昨^{さく}年^{ねん}亡^なく^なったおじ^{しやうつきめい}い^{にち}ち^ちゃ^ちん^ちの祥^{しやう}月^{つき} 命^{めい} 日^{にち}な^なので、家^か族^{ぞく}で、田^{いな}舎^かに^かお墓^{はか}参^{まい}り
に^い行^よく^{てい}予^よ定^{てい}です。

0417 称 □ ぼくは「漢^{かん}字^じ博^は士^{かせ}」とい^{しやうごう}う^{しやうごう}称^{はかせ} 号^{りやくしやう}を^よもら^よい、「博^は士^{かせ}」と略^{りやく} 称^{しやう} され^て呼^よば^れて^いま^ます。

□ 友^{とも}達^{だち}はわ^わた^たし^しを「ち^{あい}や^{しやう}こ」と愛^{あい} 称^{しやう}で呼^よぶ。

0418 唱 □ 友^{ゆう}人^{じん}が唱^{しやう} 道^{どう}した万^{ばん} 歳^{ざい} 三^{さん} 唱^{しやう}に、ぼくも唱^{しやう} 和^わした。

□ 合^{がっ} 唱^{しやう} 大^{たい} 会^{かい}で、み^{あい}ん^{しやう}な^かの愛^{あい} 唱^{しやう} 歌^かを二^に 重^{じゅう} 唱^{しやう} しま^す。

□ 学^{がっ} 級^{きゅう} 委^い 員^{いん}が、環^{かん} 境^{きやう} 保^ほ 護^ご 運^{うん} 動^{どう}を全^{ぜん} 校^{こう}に提^{てい} 唱^{しやう} した。

0419 涉 □ 両^{りやう} 親^{しん}からあ^あま^まり干^{かん} 渉^{しやう} され^ると、か^きえ^きっ^きて^きや^きる^き気^きがな^なく^なっ^なて^てし^しま^まう^うも^もの^もだ。

□ お^おじ^じさ^さん^んは今^{こん} 度^ど、会^{かい} 社^{しゃ}の涉^{しやう} 外^{がい} 係^{けい}にな^なった^たそ^そう^うだ。

0420 訟 □ 父^{ちち}は裁^{さい} 判^{ばん} 所^{しよ}に民^{みん} 事^じ 訴^そ 訟^{しやう}を起^{おこ}した。

□ だ^だれ^れも争^{そう} 訟^{しやう}は好^{この} み^みま^ませ^せん^んが、権^{けん} 利^りを^{まも}る^るた^ため^めに^には^は避^さ け^けて^て通^{とお} る^るわ^わけ^けに^には^はい^いか^かな^ない^いこ^こと^とも^もあ^ある^るよ^よう^うです。

0421 掌 □ 監^{かん} 督^{とく}が、部^ぶ 員^{いん}の気^き 持^も ち^ちを^{しやうあく} 掌^{しやう} 握^{あく} した^した^たので、秋^{あき}の^{たいかい}大^{しやう} 会^りで勝^{しやう} 利^{ちゆう}を^{おさ} 掌^{おさ} 中^{ちゆう}に^に収^{おさ} め^めた。

□ 仏^{ぶつ} 前^{ぜん}に^{すわ}座^ざり、合^{がっ} 掌^{しやう} した。

0422 晶 □ 河^{かわ} 原^{はら}で拾^{ひろ} った^{すいしやう}水^{すい} 晶^{しやう}を、じ^じく^くり^りと^{かんさつ}観^{かん} 察^{さつ}しま^した^た。

□虫眼鏡で雪のかけらを見ると、美しい星型の結晶でできていることがわかります。

□一面の雪が太陽に照らされ、晶々と銀色に光っていた。

0423 焦 □焦熱の砂漠に行く旅人はいつになったらオアシスにたどり着くのかと、焦燥の念にかられ、焦点の定まらないうつろな目であたりを見回した。

0424 硝 □徒競走のピストルが発射されると、硝煙があたりに漂った。

□硝酸銀は医薬品や写真剤などに用いられています。

0425 粧 □母は化粧をして、高校の同窓会に出かけていった。

□改装のため一時休業していた近くのデパートが新粧を凝らして店開きした。

0426 詔 □日本国憲法では詔書は国会の召集や衆議院の解散の命令など、天皇が内閣の助言と承認によって行う決まった行為の範囲内で発せられることになっています。

0427 証 □証拠が欲しくて実験をしたところ、予想が正しいことが証明された。

□小学校の卒業生には卒業証書が渡される。

0428 傷 □死傷者を多数出した台風の傷跡は損傷した家屋に残っている。

□負傷した足の傷口が痛みます。

0429 奨 □美術を奨励しようと、市は美術賞を設けました。

□姉は奨学金をもらって、大学院まで行きました。

0430 詳 □俳句について詳しく知りたいならば、詳解した本を持っているのでお貸ししますよ。

□事件の詳報はあすの朝刊にのるので、詳細はそれまで待とう。

0431 彰 □父は市から顕彰されます。

□オリンピックの表彰式を、生中継で見た。

0432 障 □国には人々の生活を保障する法律がある。

□障子が障害物となって、外の景色の一部が見えません。

0433 衝 □この間まで元気だった祖母の突然の死の知らせに、ぼくは衝撃を受けた。

□先日、わたしの家の前の道路で、車の衝突事故が起きました。

0434 償 □ボールで隣家のガラスを割ってしまい、ガラス代を弁償した。

□兄が車を電柱にぶつける事故を起こしたので、父が代償した。

0435 礁 □昨年発生した銀行強盗事件の捜査は暗礁に乗りあげている。

□漁師は「このあたりの岩礁で船がよく座礁するのです」と言いました。

0436 鐘 □昔は火事が発生すると、火の見やぐらの半鐘を鳴らしました。

□子供にアレルギーが多いのは現代の生活環境に対する警鐘です。

0437 丈 □わたしの家族はみんな風邪をひきました。私一人大丈夫でした。

□友達は悲しみに沈みながら、気丈にも涙ひとつ見せませんでした。

0438 冗 □兄の話は冗談も交えて面白いのですが、冗長なのが欠点です。

□母は家計簿をつけながら「今月は冗費が多かったみたいね」と反省していた。

□冗漫な文章や説明はだれも読みたくありません。

0439 条 □お父さんの信条は「忍耐」です。

□1978に日本と中国の間で日中平和条約が結ばれました。

□わたしは日曜日に友達と遊園地に行くことを七時までに帰宅するという条件つきで父に

ゆる
許してもらいました。

0440 浄 □部屋へやの空気くうきを清しょう浄じょうに保たもつために、空気くうきの浄化装置じょうかそうちを取り付とけた。

□仏教ぶつぎょうで浄土じょうどとは仏ぶつが住すむという、苦しみくるしみのない平和へいわな世界せかいだ。

0441 剰 □試験しけんの前日ぜんじつ、遊あそんでいたら、父ちちに、「おまえは自信過剰じしんかじょうなんだ。後あとで、痛い目いために会あうぞ」
と言いわれた。

□国会こっかいは余剰農産物よじょうのうさんぶつの問題もんだいについて、論議ろんぎを重かさねています。

0442 縄 □子供こどもたちが、広場ひろばで縄跳びなわとをしています。

□社会しゃかいの授業じゅぎょうで、紀元前数千年きげんぜんすうせんねんから紀元前後きげんぜんごにかけて、石器せつきや縄文式土器じょうもんしきどきが使つかわれていた
縄文時代じょうもんじだいの人々ひとびとの暮らしくについて、学がく習しゅうした。

□兄あには数学すうがくの問題もんだいを解ときながら、「一筋縄ひとすじなわではいかない」とつぶやいた。

0443 壤 □この村むらは豊ゆたかな土壌どじょうに恵めぐまれている。

□盛り場さかばが近いなど、学校がっこうを取り巻とく環境まかんきょうが悪わるい場合は少年非行しょうねんひこうの土壌どじょうになりやすい。

0444 嬢 □いつも気取りきどのない人ひとだが、やはり良家りょうかの令嬢れいじょうらしい品ひんがある。

□お隣となりのお嬢じょうさんは町一番まちいちばんの美人びじんと評判ひょうばんです。

0445 錠 □この風邪薬かぜぐすりの錠剤じょうざいは毎食後まいしょくごにじょうずつ、飲のむことになっています。

□風ふうが吹ふくと開あいてしまう戸とに、錠前じょうまえを取り付とけました。

0446 譲 □人付き合ひとづいのこつはお互あいに譲歩たがしあうことです。

□王おうは息子むすこに財産ざいさんを譲渡じょうどした。

0447 醸 □吟醸酒ぎんじょうしゅを贈おくり物ものにする。

ちち じっか だいたい じょうぞうぎょう いとな
□父の実家は代々、醸造業を営んでいる。

0448 殖 □動物を飼いならして家畜を殖やすことで、人間は飢えから救われてきました。

せいぶつ せいしよく はんしよく
□生物は生殖によって、繁殖します。

0449 飾 □宝石店の飾り窓の中で真珠の首飾りが美しく輝いている。

まつかざ こじん いえ み
□松飾りは個人の家ではあまり見かけなくなった。

0450 嘱 □兄はオリンピックの金メダル候補選手として、嘱望されている。

ちち ていねんご しょうたく きんむ
□父は定年後も嘱託として勤務します。

0451 織 □織機は機とも呼ばれ、旗で布を織ることを機織りといいます。

せかい かつこく だいひよう そしき だんたい にほん あつ こくさいへいわ はなしあ
□世界各国の代表によって組織された団体が日本に集まり、国際平和について話し合いました。

0452 辱 □あの作詞家は名人の名を辱めない作品を続々と世に送り出している。

せんじつ たいはい あいて か せつじよく はた
□ぼくは先日の大敗した相手に勝って、雪辱を果たした。

0453 侵 □第二次世界大戦は他国の領土に侵食、侵攻して始まった。

いえ しきち だま はい ふほうしんにゆう
□よその家の敷地に黙って入ると、不法侵入になってしまうよ。

0454 津 □海岸を、大きな津波が襲い掛かり、家々を飲み込んで沖に流し去った。

□大人になったら全国津々浦々を回ってみたい。

0455 唇 □ぼくが、そっとおやつを横取りして食べたら、妹は唇をかんでにらんだ。

ぎよう ぎよう ぎよう くちびる ちょうせつ だ おと しんおん
□は行や、ぱ行や、マ行には唇で調節して出す音があり、唇音といいます。

0456 娠 □女の人のおなかに赤ちゃんができることを妊娠といいます。

きょねんけっこん あね にんしん いわ
□去年結婚した姉が妊娠したので、お祝いに、マタニティードレスをプレゼントしました。

0457 振 □祭^{さいじつ}日^にが日曜^{にちようび}日^びなら、月曜^{げつようび}日^ふは振^かり替^きえ休^{きゆうじつ}日^{じつ}だ。

□「三^{さん}振^{しん}すると、百^{ひやく}回^{かい}素^す振^ぶりだぞ」と監^{かん}督^{とく}は大声^{おおこえ}で言^いった。

□「食^{しょく}欲^{よく}不^ふ振^{しん}のよう^{よう}だけど、これ^{これ}なら食^{しょく}が進^{すす}むでし^しょう」と叔母^{おば}さん^{さん}は寿^す司^しを振^ふる舞^まってく^くれた。

0458 浸 □か^なげ^{なみ}を波^{しん}が浸^{しん}食^{しょく}した。

□台^{たい}風^{ふう}の雨^{あめ}が激^{はげ}しく、我^わが家^やは床^{ゆかう}上^え浸^{しん}水^{すい}にな^なり、濁^{だく}流^{りゅう}が家^{いえ}の中^{なか}にま^まで進^{しん}入^にしてき^きました。

0459 紳 □立^り派^{っぱ}な紳^{しん}士^しが、紳^{しん}士^{して}的^きな態^{たい}度^どで子^こどもに道^{みち}を聞^きいていま^いす。

□紳^{しん}士^{しろく}録^{ろく}は社^{しゃ}会^{かい}的^{てき}地^ち位^いのあ^ある人^{ひと}の姓^{せい}名^{めい}・職^{しょく}業^{ぎょう}など^{など}をし^しるし^した名^{めい}簿^ぼだ。

0460 診 □風^か邪^ぜ気^ぎ味^みな^なので、近^{きん}所^{じょ}の病^{びょう}院^{いん}で診^みてもら^{もら}った。診^{しん}察^{さつ}の結^{けつ}果^か、や^かはり風^{ふう}邪^ぜと診^{しん}断^{だん}され^{され}た。

□歯^{はい}医^い者^{しゃ}へ行^いった^ら、そ^ひの日^{にち}の診^{しん}療^{りょう}は終^おわっ^ていま^いた。

□病^{びょう}院^{いん}で始^{はじ}めて診^{しん}察^{さつ}を受^うけるとき^{とき}は初^{しよ}診^{しん}料^{りょう}を支^し払^{はら}う。

0461 慎 □姉^{あね}はお茶^{ちや}を慎^{しん}重^{ちよう}に運^{はこ}んで、お客^{きやく}さん^{さん}に出^だした。

□お父^{とう}さん^{さん}から謹^{きん}慎^{しん}処^{しよ}分^{ぶん}を言^いい渡^{わた}され^た弟^{おとうと}は外^{がい}出^{しゆつ}を慎^{つつし}んでいま^いす。

0462 審 □父^{ちち}は市^しの作^{さく}文^{ぶん}コンク^{しん}ール^{さいん}の審^{しん}査^さ員^{いん}です。

□警^{けい}察^{さつ}に、事^じ件^{けん}の現^{げん}場^ばで、不^ふ審^{しん}な人^{じん}物^{ぶつ}を見^みかけ^たとい^いう届^{とど}け出^でがあ^あったそ^そうです。

0463 刃 □刃^は物^{もの}を扱^{あつか}うとき^{とき}は十^{じゅう}分^{ぶん}に注^{ちゅう}意^いを払^{はら}いま^いしょう。

□犯^{はん}人^{にん}は刃^は渡^{わた}り十^{じゅう}五^ごセンチメ^ふートル^{まわ}のナイ^{ちか}フ^{ひとり}を振^{きよう}り回^{じん}し、近^{たお}く^{きよう}にいた一^{ひとり}人^{きよう}が凶^{きよう}刃^{じん}に倒^{たお}れた。

0464 仁 □医^いは仁^{じん}術^{じゆつ}と言^いうのは仁^{じん}愛^{あい}や仁^{じん}義^ぎの精^{せい}神^{しん}に基^{もと}づいて、治^{ちり}療^{りょう}が行^{おこな}われ^たること^{こと}です。

□仁^{じん}政^{せい}は仁^{じん}徳^{とく}ある人^{ひと}でな^なけれ^れば実^{じつ}行^{こう}でき^きま^ません。

□寺^{てら}の門^{もん}に怖^{こわ}い仁^{じん}王^{おう}が立^たっていま^いす。

0465 尽 □警察が、駐車違反を一網打尽にするために、尽力した。

□石油などの資源は無尽蔵ではないのだから、大切に使いましょう。

0466 迅 □ぼくが、いつも、ぐずぐずしているので、先生に「迅速に行動するように心がけなさい」と注意される。

□兄は入試の直前になってから、獅子奮迅の勢いで、猛勉強し、みごと、合格した。

□父は怒ると、迅雷のような大声を出して、怒鳴るので、ぼくと弟はすばやく、耳をふさぎます。

0467 甚 □日本に上陸した台風は全国各地に甚大な被害をもたらした。

□領国国技館で、始めて甚句を聞いた。相撲甚句というものだそうだ。

0468 陣 □大將が陣頭に立って、陣地を作った。

□長い陣痛の後、かわいい赤ちゃんが生まれました。

0469 尋 □小さいころに生き別れた母を尋ねて、一人で旅を続ける女の子の物語を読んだ。その子は途中で出会う人々に尋ねながら、母の居所を探していく。

□ほうっておいた虫歯が痛くなった。尋常一様の痛さではなくて、泣いてしまった。

□警察で、事件の容疑者に対する、尋問が行われた。

す

0470 垂 □直線や平面に垂直におろした線を、垂線といいます。

□彼の持っているプラモデルは同級生の垂涎の的だ。

□君は学級委員なのだから、学校行事のときにも率先垂範しなければならないのに、先頭に立って悪ふざけをするとはなにごとだ。

0471 炊 □^{ゆうがた}ぼくは夕方には^か買い物をして^{もの}たり^{はん}ご飯を^た炊いたりして、お母さんの炊事を手伝います。

□^{こめ}お米を洗って、よく^{あら}水に^{みず}浸してから、炊飯器のスイッチを入れると、ご飯がおいしく炊けると聞きました。

□お父さんは、^{にちようび}日曜日の朝は^{あさ}決まって^き雑炊を自分で^{ぞうすい}作って^{じぶん}食べて^{つく}います。

0472 粹 □^{なんきよく}南極では^{きょだい}巨大な^{こおり}氷を^{くだ}砕いて^{ふね}船の^{しんろ}進路を^き切り開く^{ひら}砕氷船が^{さいひょうせん}活躍する。

□^{さいせきじょう}採石場では^{いわ}岩を^{ふんさい}粉碎する大きな音がしている。

0473 衰 □^{きび}厳しい暑さで、^{あつ}病人が^{びょうにん}衰弱する。

□^{ちい}小さな^{しょうてんがい}商店街は^{おおて}大手スーパーの^{しんしゅつ}進出で^{すいたい}衰退し、^{ちち}父の店も^{みせ}少しずつ^{すこ}衰運に^{すいうん}向かって^むいった。

0474 推 □^{すいりしやうせつ}ぼくは推理小説が^{だいす}大好きです。

□^{かれ}彼らは^{けいかく}チャリティー・コンサートの^{すいしん}計画を、推進しています。

0475 酔 □^{しんすい}ショパンに心酔している^{あね}姉は^きCDを^{とうすい}聞いて陶醉している。

□^{ねんまつ}年末は^{でいすい}泥酔した^{ひと}人が多い。

0476 遂 □^{じぶん}自分に^{あた}与えられた^{にんむ}任務は^{さいご}最後まで^{すいこう}遂行しよう。

□^{はんこう}犯行は^{みすい}未遂に^お終わり、^{はんにん}犯人は^{とうそう}逃走したもようだ。

0477 睡 □^{すいみんぶそく}睡眠不足は^{けんこう}健康によく^{ついたらちちじかん}ない。一日八時間は^{ねむ}眠ったほうがいい。

□^{とつぜん}突然に^{すいま}睡魔がおそってきて、^{じゅぎやうちゅう}授業中だと^い言うのに^{じゅくすい}熟睡してしまった。

0478 穂 □^{しゅうかく}収穫をもうすぐ迎える^{むか}稲穂は^{いなほ}穂先が^{ほさき}下に^{した}たれています。

□ミレーの「^{おちぼひろ}落穂拾い」は^{のうみん}農民の^かたくましさを^か描いた^{けっさく}傑作だ。

0479 随 □^{ずいひつ}随筆を^よ読んで、^{かんそうぶん}感想文を^か書きました。

□^{けんり}権利には^{ぎむ}義務が^{ふずい}付随することを^{わす}忘れては^い行けません。

0480 髓 □^{こつずい}骨髓は^{ほね}骨の^{なか}中にある、^{やわ}柔らかい^{じょう}スポンジ^{そしき}状の組織です。

□スポーツでも^{おんがく}音楽でも、その^{しんずい}真髓を^{きわ}究めるためには^た絶え^ま間ない^{どりよく}努力が^{ひつよう}必要です。

0481 枢 □^{おじ}叔父さんは^{しゃちょう}社長^{しつちょう}室長として、^{かいしやちゆうすう}会社^{ちい}中^し枢の地位を占めている。

□^{すうききよう}枢機卿が^{あつ}ローマに^{おやほうおう}集まって、^{えら}親法王を選びました。

0482 崇 □^{あに}兄は^{みやざわけんじ}宮沢賢治を^{すうはい}崇拜し、^{さくひん}作品を^{あんしやう}暗唱できるほど^{じゆくどく}熟読しています。

□^{すうこう}崇高な理想を^{りそう}掲げて^{かか}戦^{たたか}う人は^{ひと}多くの^{おお}人の^{ひと}崇敬を^{すうけい}集める^{あつ}。

0483 据 □^{ことし}今年の夏は^{なつ}とても^{あつ}暑いので、^{あた}新しい^{いちだいす}クーラーを^つ一台据え付けることにした。

□^{はら}腹の^す据^{ひと}わった人だから、^{おお}大きな^{かいしや}会社の^{かいちやう}会^{すわ}長に座することもできた。

0484 杉 □^{すぎ}杉は^{にほん}日本^{とくさん}特産の^{すぎか}杉科の^{じやうりよくこうぼく}常緑高木で、^{みき}幹が^のまっすぐ^{はり}伸び、^は針の^{しげ}ような葉が^{ざいもく}茂ります。材木は^{けんちく}建築、^か家具などに^ぐ用いられます^{もち}。

□^わ和菓子屋で^が買い物^しをしたら、^かお菓子^しを^{すぎおり}杉折に^い入れてくれました。

□^{すぎなみき}杉並木の^{おく}奥に、^{すぎど}杉戸のある^{ふる}古い^{にほん}日本^{かおく}家屋が^た立っています。

0485 寸 □^{すんぼう}ノートの寸法に^あ合わせて^て手提げ^さ袋^{ぶくろ}を作ったので、^{つく}寸分^{すんぶん}たが^{おお}わず、^{おお}ぴったりの^{おお}大きさに^{おお}仕上がった。

□^{いっすん}カを^{むし}たたこうと^ごするとき、「一寸の虫にも^ぶ五分の^{たましい}魂」と言うこと^いわざが^{おも}思い^う浮かぶ。

□^{かえ}返された^{さくぶん}作文には^{せんせい}先生の^{すんびやう}寸評が^そ添えてあった。

せ

0486 瀬 □^{かわ}川の^{あさせ}浅瀬で、^{しょうねん}少年が^{せぶ}瀬踏みをしている。

□おばあちゃんは昏睡状態で、生死の瀬戸際に立っている。

0487 是 □クラス討論で、自転車の二人乗りの是非について論議することを、是認して下さい。

□悪い習慣を是正するのは賛成だが、一律ではなく是々非々で事にあたってもらいたい。

□是が非でも、明日は早く起きます。

0488 井 □裏庭にはいまでも、井げたを組んだ井戸があります。

□市井の人の楽しみは井戸端会議以外にはない、と母は断言します。

□いつでも、井の中のかわずのままだはいけません。

0489 征 □マケドニアのアレクサンダー大王は紀元前四世紀のころ、エジプトやペルシャを征服した。

□桃太郎は鬼を征伐した。

0490 斉 □クラス全員で、「春の小川」を斉唱しましたが、歌声はばらばらでした。

□調査は条件を斉一にして、一斉に二行った方が、効率がいい。

0491 牲 □子どもの身に危険がふりかかったときは親は自分の命を犠牲のにしても、わが子どもを救おうとするのです。

0492 逝 □元気だった祖父が急逝し、家族は悲しみに暮れた。

□退職した先生が逝去されたと知らされ、ぼくたちはめい福を祈った。

0493 盛 □林間学校の最終日は燃え盛るキャンパスを囲んで、みんなで大いに盛り上がりました。

□盛夏にはかき氷を売る店が繁盛する。

0494 婿 □結婚式場で、花婿と花嫁が、招待客に挨拶をして回っていた。

□ぼくの伯父さんは伯母さんの家の婿養子だそうです。

0495 聖 □オリンピックの聖火^{せい か かか}を掲げたランナーが競技場^{きょうぎじょう}に到着^{とうちやく}しました。

□イスラム教徒^{きょうと}は聖地メッカ^{せいち}をめざして一生^{いっしょう}にいちふおは巡礼^{じゅんれい}します。

0496 誠 □彼女^{かのじょ}はとても誠実^{せいじつ}な人柄名^{ひとがらめい}ので、みんなに信頼^{しんらい}されています。

□田舎^{いなか}のおばあちゃんから、誠意^{せいい}のこもった手編^{てあ}みのマフラーが、送^{おく}られてきました。

0497 誓 □選手^{せんしゅ}の代表^{だいひょう}が宣誓^{せんせい}をしました。

□十年前^{じゅうねんまえ}に交^かわした誓約^{せいやく}を、いまでも守^{まも}っています。

0498 請 □市会議員^{しかいぎいん}はし民意^{みんい}、町^{まち}の清浄化運動^{せいじょうかうんどう}の協^{きょう}力^{りよく}を請^こいました。

□母^{はは}は電気代^{でんきだい}の請求書^{せいきゅうしょ}を見^みながら、家計簿^{かけいぼ}に記入^{きにゅう}しています。

0499 整 □机^{つくえ}の上^{うえ}を整^{せい}とんしてから、ノート^{はじ}を始めました。

□朝礼^{ちょうれい}のときは全校生徒^{ぜんこうせいと}が肯定^{こうてい}に整列^{せいれつ}します。

0500 斥 □罪^{つみ}のない特定^{とくてい}の個人^{こじん}や人種^{じんしゅ}を排斥^{はいせき}してはいけません。

□斥候^{せっこう}たちは敵^{てき}の陣地^{じんち}に近^{ちか}づいていった。

0501 析 □友だちの言葉^{ともことば}に腹^{はら}が立^たった理由^{りゆう}を分析^{ぶんせき}した。

□先生^{せんせい}たちは生徒^{せいと}へのアンケートの結果^{けっか}を解析^{かいせき}して指導方針^{しどうほうしん}を考^{かんが}えた。

0502 惜 □卒業式^{そつぎょうしき}を終^おえた高校生^{こうこうせい}が、「惜別^{せきべつ}の歌^{うた}」を歌^{うた}った、友^{とも}との別れ^{わか}を惜^おしみました。

□一点差^{いちてんさ}で惜敗^{せきはい}して、みんなたいへん口惜^{くちお}しい思^{おも}いをした。

0503 拙 □手紙^{てがみ}に、「近^{ちか}くにおいでの西^{にし}は拙宅^{せったく}にもお寄^よりください」と書^かいた。

□妹^{いもうと}の作文^{さくぶん}は稚拙^{ちせつ}だが、気持^{きもち}がよく表^{あらわ}れています。

0504 窃 □かぎをかけ忘^{わす}れて家族^{かぞく}そろって外^{がい}出^{しゅつ}したすきに、家^{いえ}に窃盗^{せつとう}が入^{はい}ってしまった。金目^{かねめ}のも

のをごっそり盗^{ぬす}まれ、ショックだった。

□バックを地面^{じめん}に置いて、駅前広場^{おきまひろば}に立^たっていたら、いつの間にか何者^{なにもの}かにバックを窃取^{せつしゆ}されていた。

0505 摂 □一気圧^{いちきあつ}では水^{みず}が凍^{こお}る温度^{おんど}は摂氏^{せつしぜろど}〇度、沸騰^{ふつとう}する温度^{おんど}は摂氏^{せつしちぜろぜろど}一〇〇度です。

□成長^{せいちやう}のために、栄養^{えいよう}と知識^{ちしき}を積極^{せつきよく}的に摂取^{せつしゆ}することが大切^{たいせつ}です。

0506 節 □父^{ちち}は胃^いを悪^{わる}くして節食^{せつしよくちゆう}中^{さけ}で、お酒^{さけ}を節制^{せつせい}しているところです。

□節分^{せつぶん}の日^ひに、鬼^{おに}の役^{えき}をした園長^{えんちやう}先生^{せんせい}は翌日^{よくじつ}「体^{からだ}の節々^{ふしぶし}が痛いよ」と苦笑^{くしょう}していました。

□相手^{あいて}によって態度^{たいど}を変^かえるのは節操^{せつそう}のない人^{ひと}です。

0507 舌 □毒舌^{どくぜつ}を吐^はいた人^{ひと}が、舌^{した}の根^ねも乾^{かわ}かないうちに、もうお世辞^{せじ}を言^いっている。

□二つ^{ふた}の意見^{いけん}が対立^{たいりつし}市^{ぜっせん}、舌戦^くが繰^{ひろ}り広げられた。

0508 仙 □叔父^{おじ}さんは山奥^{やまおく}で仙人^{せんじん}のような生活^{せいかつ}を送^{おく}っている。

□本^{ほん}を読んで仙術^{よせんじゆつ}を勉強^{べんきやう}すれば、仙薬^{せんやく}をぼくでも作^{つく}れるでしょうか。

□山深^{さんふか}い仙境^{せんきやう}にいと、羽化登仙^{うかとうせん}の気分^{きぶん}を味^{あじ}わえます。

0509 宣 □がんの宣告^{せんこく}を受^うけた祖父^{そふ}はわたしたち家族^{かぞく}にがん^{たたか}と闘^{せんせい}うことを宣誓^{とうびやうせんげん}して、闘病宣言^{とうびやうせんげん}をした。

□宣伝^{せんでん}カーが、新製品^{しんせいひん}を宣伝^{せんでん}しながら町^{まち}を回^{まわ}っている。

□聖書^{せいしょ}を手^てにした壇上^{だんじやう}の宣教師^{せんきやうし}が、大勢^{たいせい}の人^{ひと}に説教^{せつきやう}をしています。

0510 染 □おばあちゃんは白髪染^{しらがぞ}めで髪^{かみ}の毛^けを染^そめています。

□兄^{あに}はアフリカ旅行^{りょこう}似出^{にで}かけ、コレラ^{かんせん}に感染^{にゆういん}してしまい、入院^{にゆういん}しました。

0511 扇 □ぼくはおばあちゃんの誕生^{たんじやうび}日に、扇子^{せんす}をプレゼントすることにしました。

□政治家の中には選挙演説出、巧みな言葉を並べ立てて、国民を扇動する人もいます。

0512 栓 □瓶入りのジュースを飲もうとしたら、栓抜きが見つからなくて、困ってしまう。

□長い間家を留守にするときはガスの元栓を閉めよう。

0513 旋 □新聞社のヘリコプターが、年の上空しきりに旋回しています。

□音楽室から、先生は奏でるピアノの美しい旋律が聞こえてきます。

0514 踐 □毎朝、登校前に三十分間教科書を読んで予習をしようと決め、先月から実践しています。

0515 銭 □友情や信頼関係は決して金銭で買ったりすることではないもの。

□小銭をもって、銭へ湯行きました。

0516 銑 □鉄の原料となる鉄鉱を溶かして、いちばん始めに取り出した鉄を銑鉄といいます。炭素

を多く含んだ銑鉄は硬くてもろく、溶けやすいため、鋳物にしたり、洗練して鉄鉱にし

たりする目的に利用されます。

0517 潜 □潜水艦には潜望鏡がついている。

□犯人が近くに潜伏しているらしいと、声を潜めて話している人がある。

□南の海に潜ると、色鮮やかな熱帯魚たちと泳ぐことができる。

0518 遷 □七九四年で、間から京都への遷都が行われ、平安時代が始まります。

□社会科の授業で、わたしの町の変遷を調べます。

0519 薦 □昆虫が大好きなぼくに、伯父は「きみにはこの本を薦めるよ」と言って「ファープル昆虫

記」を貸してくれた。

□彼はしっかりしているので、学級委員に推薦された。

□ぼくは生徒会長に、自薦で立候補するつもりだ。

0520 織 □ワタの種子の繊維から、綿ができます。

□私の茶碗には繊細な花模様があります。

0521 鮮 □五月の空に舞う色鮮やかなこのぼりを見ながら、新鮮な空気を吸い込みます。

□この写真はとても鮮明なので、その時の印象が鮮烈によみがえる。

□鮮魚を刺し身にして食べるとおいしいですね。でも夏は生ものの鮮度が落ちやすいので、
気を付けよう。

0522 善 □誰もが、善良な国民の期待にこたえられるような善政を望んでいる。

□この事件については善後策を考えて早急に善処した。

0523 禅 □年老いた禅僧が寺で、座禅を組んでいる。

□お母さんは友禅染の着物を一枚持っています。

0524 漸 □漸増していた交通事故件数が、このところ漸減する傾向を示しました。

□物価が、今年になって漸騰している。

0525 繕 □わたしは身繕いをして出かけ、駅前の見せでおみやげを見繕って友達の家を訪問しました。

□へいを修繕しました。

そ

0526 阻 □陰阻な岸壁が、人間を阻み、開発を阻止してきたのです。

□川が、隣家との交流を阻害しています。

0527 租 □父は租税を税務署に納めています。

せんぜん しゃんはい いちぶ がいこく そしゃく
□戦前、上海の一部は外国に租借されました。

0528 素 □彼はが^{かれ}かとしての^{そしつ}素質がある。

ちち しろうと そぼく しゃしん たの
□父は素人^{ちち}ならではの^{そぼく}素朴な^{しゃしん}写真^{たの}を楽しんでいます。

0529 措 □^{きよそ}举措^{うしな}を^{ひと}失^{ほけんしつ}った人^つを、保健室^そに^ち連^{できせつ}れてきた^{せんせい}措置^ほは適切^{せんせい}だった、と先生^ほに褒められた。

ろうじん よこちょう ながや す がくしゃ ただ そじ かんし よ
□老人^{ろうじん}たちが、横^{よこちょう}丁^{ながや}の長屋^すに住^{がくしゃ}むびんぼう^{ただ}な学者^{そじ}は正^{かんし}しい措^よ辞^{そじ}の漢詩^{かんし}を^よ読むと、うわさし
ています。

そさだむ むずか ことば れんぱつ そ うしな
□「^{そさだむ}措^{むずか}定^{ことば}」などという^{れんぱつ}難^そしい言^{うしな}葉^そを^{うしな}連^そ発^{うしな}されて、措^そを^{うしな}失^{うしな}った。

0530 粗 □^{らんぼう}乱暴^{ことば}な言^{ことば}葉^{ことば}を^そする^そと、粗^そ野^やで粗^そ暴^ぼな人^{ひと}と^う受^とけて^と取^とられて^としま^といます。

けつ そまつ
□おじいさんはものを^{けつ}決^{そまつ}して粗^{そまつ}末^{けつ}に^{そまつ}しま^{けつ}せん。

0531 疎 □^{てんこう}転校^{ともだち}した友^{ぶんつう}達^{つづ}と文^{しだい}通^{かいすう}を^へ続^{いま}けて^{そえん}いたが、次^{そえん}第^{そえん}に^{そえん}その回^{そえん}数^{そえん}が^{そえん}減^{そえん}り、今^{そえん}では疎^{そえん}遠^{そえん}になっ^{そえん}てしま^{そえん}った。

まち じんこう しな い ちいきべつ じんこう そみつ しら
□町^{まち}ごとの人^{じんこう}口^{しな}から、市^い内^{ちいきべつ}の地^{じんこう}域^{そみつ}別^{しら}の人^{しら}口^{しら}の疎^{しら}密^{しら}を^{しら}調^{しら}べた。

した ともだち たい い し そつう はか どりよく わす
□親^{した}しい友^{ともだち}達^{たい}に^い対^しして^しも、意^{そつう}思^{はか}の疎^{どりよく}通^{わす}を^{わす}図^{わす}る努^{わす}力^{わす}を^{わす}忘^{わす}れ^{わす}ない^{わす}よう^{わす}に^{わす}し^{わす}よう。

0532 訴 □^{おとうと}弟^めが^{いた}目^{うった}の痛^{けんさ}み^うを^う訴^うえ^うた^うので、検^{けんさ}査^うを^う受^うける^うた^うめ、お母^{がんか}さん^つが眼^{がんか}科^つへ^い連^いれて^い行^いき^いまし^いた。

やくがい ひがいしゃ かんじゃ かぞく くに あいてど そしょう おこ
□薬^{やくがい}害^{ひがいしゃ}の被^{かんじゃ}害^{かんじゃ}者^{かんじゃ}とな^{かんじゃ}った患^{かんじゃ}者^{かんじゃ}と^{かんじゃ}その家^{かぞく}族^{かぞく}が、国^{くに}を^{くに}相^{あいてど}手^{あいてど}取^{あいてど}って^{あいてど}訴^{そしょう}訟^{おこ}を^{おこ}起^{おこ}した。

0533 塑 □^{がっこう}学^{そぞう}校^{そぞう}には塑^{げんかん}像^{げんかん}が^{げんかん}いく^{げんかん}つ^{げんかん}も^{げんかん}あ^{げんかん}る。^{げんかん}玄^{しょだい}関^{しょだい}のホ^{がっこうせんせい}ール^{そぞう}には初^{かざ}代^{かざ}の学^{かざ}校^{かざ}先^{かざ}生^{かざ}の塑^{かざ}像^{かざ}が^{かざ}飾^{かざ}られ、美^{びじゅつしつ}術^{びじゅつしつ}室^{びじゅつしつ}
には^{よう}デ^{そぞう}ッ^{そぞう}サン^{そぞう}用^{そぞう}の塑^{そぞう}像^{そぞう}が^{そぞう}あ^{そぞう}り^{そぞう}ま^{そぞう}す。

□わ^した^しし^しち^しは^し市^しの^し美^し術^し展^しに^し息^し、^し油^し絵^しの^し部^し屋^しを^し一^し巡^しした^し後^しに、^し彫^し塑^しの^しコ^しー^しナ^しー^しを^し見^し学^ししま^しした。

つち にんぎょう むずか ことば だろそじん い
□土^{つち}で^{つち}でき^{つち}た^{つち}人^{つち}形^{つち}の^{つち}こ^{つち}と^{つち}を、^{つち}難^{つち}しい^{つち}言^{つち}葉^{つち}で^{つち}は「^{つち}泥^{つち}塑^{つち}人^{つち}」^{つち}と^{つち}い^{つち}い^{つち}ま^{つち}す。

0534 礎 □ど^{むずか}ん^{おも}なに^{おも}難^{べんきょう}しい^{べんきょう}思^きえ^きる^き勉^き強^きで^きも、基^き礎^きさ^きえ^き理^き解^きして^きしま^きえ^きば、意^り外^りに^り簡^り単^りだ^りとい^りう^りこ^りと^りし^りま^りす。

が分かるものだ。

□ 平和な社会のための礎石を築くことはすべての人間の使命だ。

□ 礎を定める事から、着工前に建物の土台を据えることを定礎という。

0535 壮 □ 勇壮な兵士は壮絶に戦い、壮烈な最後を遂げた。

□ 壮大で壮麗な寺院の壮観に圧倒されました。

□ 南極大陸横断の壮図を抱いて、探検隊は壮途に就いた。

0536 奏 □ バイオリンの演奏会の中で、弟はソロで、素晴らしい音色のバイオリンを奏でました。

□ ぼくたちの少年野球のチームは日頃の練習が奏功して、優勝した。

□ ぼくはトランペットが大好きなので、中学校に入学したら、吹奏学部に入部します。

0537 荘 □ 荘重を調べが流れる中、荘厳な式が始まった。

□ 山奥の旅荘に泊ったら、隣の大きな別荘が立っていた。

0538 倉 □ 港の近くは倉庫が立ち並び、船倉から荷が運び込まれます。

□ 北大陸の中西部はこむぎの生産高が多く、アメリカの穀倉地帯といわれています。

□ 悪人が善人の胸倉をつかみ、こぶしを振り上げている。

0539 挿 □ 作文はいくつかの挿話を挿入すると、ずっと面白くなります。

□ 班を読んでいて、思わず挿絵に見とれてしまう。

0540 桑 □ 桑の木の葉葉、カイコのえさになります。

□ おじいちゃん葉、ぼくに、「おじいちゃんの若いころはこのあたり一帯が、桑畑だったんだよ。」と、教えてくれた。

0541 曹 □ぼくの友達の中に、大会社の重役の御曹司がいる。

□弁護士だった伯父さんの葬式には法曹界の人々が大勢集まった。

0542 巢 □兄の卒業アルバムの表紙には「巢立ち」と書いてありました。

□庭の木に、巣箱をかけておいたら、ツグミが、巣ごもっていた。

□勇敢な王子は山中の盗賊たちの巣くつをつきとめ、家来を連れて乗り込みました。

0543 創 □六年生は創立五十年周年記念の壁画を創造中だ。

□わたしの家は創業二百年の和菓子屋で、父は創意工夫したお菓子を次々と作り出している。

□兄は独創的な工作を県の作品展に出品市、表彰された。

0544 喪 □喪服を着た人たちが、葬儀会場から出てきます。

□学芸会で笛の合奏をすることになった。曲が難しくて、みんな自信を喪失した。

0545 葬 □葬式を少し改まったときは葬儀、葬礼、などの言葉が使われる。

□会葬した人々は亡くなった人の思い出を語り合っていました。

□時代や地域によって、死人を葬る方法はさまざま打。死体を焼いて残った骨を葬る火葬、

そのまま土に埋める土葬、水に沈める水葬、風雨にさらして風化させる風葬などがある。

0546 僧 □タイの僧りよは黄色の僧衣を着る。

□僧坊に高僧を訪ねたら、小僧さんが案内してくれました。

0547 遭 □夏休みにおばあちゃんの家に行ったとき、ものすごい台風に遭遇した。

□冬山登山で多くの人が遭難し、救助隊の大活動が報道されています。

0548 槽 □お父さんとペットショップに出かけ、水槽と熱帯魚を買ってきます。

□しっかり ^{あたた} 温まら^{か ぜ}ないと風邪^ひを引くので、浴槽^{よくそう}に入^{はい}ったら、百^{ひゃく}数^{かず}えてからふろを出^でなさい。

0549 操 □先生は語学が得意で、三か国語を操^{あやつ}ることができる。

□飛行場の近くを通りかかると、操縦士^{そうじゅうし}たちが体操^{たいそう}をしていた。

□わたしたちの学校では情操^{がっこう}教育^{じょうそうきょういく}のために、よく、劇^{げき}や音楽^{おんがく}の鑑賞会^{かんしょうかい}が開^{ひら}かれている。

0550 騒 □胸騒^{むなさわ}ぎがするので、急^{いそ}いで家^{いえ}に帰^{かえ}ったら、おじいちゃん^{い ま}が居間^{たお}で倒^{たお}れていた。

□銀行日^{ぎんこうび}、強盗^{ごうとう}が押し入^おり、騒然^{いそ}とした途端^{そうぜん}に、「騒^{さわ}ぐな、さもないと撃^うつぞ」と銃^{じゅう}を向^むけた。

□大都会^{だいつかい}の騒音^{のが}から逃^{しおさい}れて、潮騒^みに身^みをまかせたい。

0551 藻 □藻^もは孢子^{ほうし}で具得^{ぐえ}る植^{しょくぶつ}物^もで、藻^もの仲間^{なかま}全体^{ぜんたい}を藻類^{そうるい}と呼^よびます。海^{うみ}に生^{そく}える藻類^{かいそう}が海藻^{かいそう}です。

一方^{いっぽう}、海^{うみ}に生^{うみ}えて種子^{たね}で増^ふえるものを海草^{かいそう}といいます。

0552 即 □王^{おう}が狩^かりの最^{さい}中^{ちゅう}に落馬^{らくば}した。即死^{そくし}だった。まだ幼^{おきな}い王^{おう}子^じが急^{いそ}いで王^{おう}に即位^{そくい}することにな

った。

□即席^{そくせき}ラーメンの新^{しん}商^{しょう}品^{ひん}の即売会^{そくばいかい}がスーパ^{ひら}ーで開^{ひら}かれた。

□弟^{おとうと}はひょうきんな子^こで、即興^{そつきよう}で歌^{うた}うのが得意^{とくい}です。

0553 促 □人^{じん}の手^てを加^{くわ}えて、野菜^{やさい}や草花^{くさばな}などの生^{せい}長^{ちやう}を促^{うなが}す栽培^{さいばい}方法^{ほうほう}を、促成栽培^{そくせいさいばい}とい

□宇宙開^{うちゅうかい}発^{はつ}を促^{そく}進^{しん}する計^{けい}画^{かく}が、実^{じつ}行^{こう}に移^{うつ}されることにな

□つま^{かん}るよう^{かん}な感^{かん}じを与^{あた}える音^{おと}が促^{そく}音^{おん}出^で、「か^かっ^あば」「し^しっ^あかり」「ペ^ペっ^あと」などの「っ」「ッ」

のよう^かに書^あき表^{あらわ}されま

0554 俗 □歴^{れき}史^しを学^{まな}ぶと、時^じ代^{だい}や地^ち域^{いき}によっ^{ふうぞく}てさ^わまざまな風^{ふう}俗^{ぞく}があ^わることが分^わかっ^{おもしろ}て面^{おもしろ}白^{しろ}い。

□ある僧^{そう}が、俗^{ぞく}世^せ間^{けん}を離^{はな}れて山^{やま}にこもりしま

0555 属 □わたしはテニス部に所属しています。

□あの女性は貴金属をたくさん身につけている。

0556 賊 □ねずみ小僧次郎は江戸時代末期の盗賊です。金持ちの武家に忍び込み、盗んだ金を貧しい

人々に分け与えた義賊打と伝わられています。

た

0557 妥 □自分の意見を主張することは大切だが、クラスの意見をまとめる場合は妥協することも

必要だ。

□社員と会社の間で、賃金を増やす交渉が妥結した。

□わたしと妹がけんかをする、いつも妹が妥当な意見を行って、仲直りの手助けをしてくれる。

0558 墮 □やけになって、悪の道に墮したりしてはいけない。

□二宮金次郎は少年時代、貧しくてもけっして墮落せず、働きながら勉強に励んだことで知られています。

0559 惰 □二学期が始まったのに、夏休みの惰性で、つい朝寝坊をしてしまう。

□ふだん忙しいのなら、たまの休日に、惰眠をむさぼるのも悪くない。

0560 駄 □お母さんは「落書きは駄目よ」と言った後、「絶対駄目よ」と駄目押しをしました。

□ぼくは学校から帰ると、駄菓子やさんに行きました。

0561 耐 □忍耐強いマラソン選手は足の痛みにも耐えて、ついにゴールに着きました。

□学問には瞬間的なひらめきも必要だが、こつこつと勉強を続ける耐久力も欠かせない。

□耐熱ガラスのカップで紅茶を飲んだ。

0562 怠 ^{ちゆうい おこた} □注意を怠ったために風邪を引き、熱が出て一日中うなされています。

□怠惰な生活を続けていると、顔に締まりが亡くなる、と大人はいいます。

0563 胎 ^{たいじ ははおや たいない} □胎児は母親の胎内で、生命活動を営み生長します。

□二十一世紀に向けて、新しい時代が胎動を始めた。

0564 泰 ^{にほん ごじゅうねんいじょう たいへい よ つづ} □日本はもう五十年以上も太平の世が続いています。

□泥棒にねらわれた泰西の名画も、嚴重に監視しているので、安泰です。

0565 逮 ^{あ す はんにん たいほ} □空き巣の犯人が逮捕されました。

□逮捕状は警官が犯人と思われる人や逃げた犯罪者を捕まえてよいことを証明する書類です。

0566 隊 ^{いちれつ ぜんしん へいたい たいしょう ごうれい た ど} □一列になって前進する兵隊は対象の号令に、立ち止まりました。

□運動会のパレードは鼓笛隊のみごとな演奏で盛り上がった。

0567 滞 ^{すいどうだい たいのう えんたいりょう と} □水道代を滞納したら、延滞料を取られた。

□姉はパリに滞在してお菓子作りを研究中だが、フランス語の勉強が滞って困ります。

□機長は滞空時間の長さを誇っている。

0568 態 ^{じゅぎょうちゅう ともだち せんせい がくしゅうたいど} □授業中に友達とおしゃべりしていたら、先生に「きみたちの学習態度はなっていない」

としかられ、廊下に立たされた。

□あしたは遠足なので、天候の状況が気になる。

□生物の授業で、野鳥の生態を観察するグループと、魚を形態によって分類するグループ

に分かれて学習した。

0569 滝 ^{なつやす いなか い たきがわ つ よてい たきがわ つ はじ いま たの} □夏休みは田舎へ行って滝川で釣りをする予定だ。滝川での釣りは始めてなので、今から楽

しみだ。

□栃木県日光市の華厳の滝に行ったとき、滝壺に落ちた水のしぶきが、見ているぼくたちのところまで飛んできた。

□マラソン選手たちの額から、汗が滝のように流れ落ちていた。

0570 択 □試験で、悩んだ末に選択した答えは正解だった。

□話し合いで、ぼくの案が採択された。

0571 沢 □山を越えて、沼沢のあり高原にたどりついた。途中、沢水で顔を洗った。

□自分尾革靴を磨いたら、美しい光沢が出て新品同類になった。

0572 卓 □兄は卓球に関しては卓越下能力の持ち主です。

□今日は父の誕生日なので、食卓に、花を飾り、ごちそうを食べました。

□生徒会長の選挙演説で、彼は校則問題について、卓抜した意見を述べ、みんなの信頼を買い、当選した。

0573 拓 □十九世紀い大量に移住してきた人たちが、アメリカの西部を開拓した。

□父の自慢は大きな魚拓で、祖父の趣味は拓本作りです。

□日本で一番目に大きかった湖、八郎潟を干拓して大潟村ができた。

0574 託 □ぼくは両親が、共働きだったので、小さいとき、託児所に預けられた。

□母は結婚退職後も、その会社に、数年間、嘱託社員として務めていたそうだ。

□この村には神の託宣を伝える人がいるそうです。

0575 諾 □唯々諾々としているだけでは自分の頭は鍛えられません。

□面白そうな本を友達が読んでいたので、「読み終わったら貸して」と頼んだら、「うん」と

かいだく
快諾してくれました。

□ P T A 総会への参加の諾否を確かめる通信が、きょう配られました。

0576 濁 □「ガ」や「ザ」などのように、濁る音を濁音といいます。

□降り続く大雨で土砂崩れが起こり、土手をこえて濁流がおしよせてきた。

0577 但 □この説明書には但し書きが多い。

□先生は優しい。但し、宿題を忘れたり授業中に騒いだりすると、途端に恐い顔をして怒ります。

0578 脱 □チームは連敗を脱し、最下位から脱出した。

□嫌い授業から脱走できたら、どんなにうれしいことか。でも、脱走は規則の逸脱だ。

0579 奪 □わがチームはテニスの試合で日本一の座を奪回した。

□クラス対抗の野球大会に、ピッチャーとして出場した彼は十三個の三振を奪取した。

0580 棚 □年末の大掃除をしたら、本棚と戸棚から母のへそくりが出てきた。

□ぼくの家の店は月末に棚卸しをした後、棚ざらえの売り出しをします。

□問題は棚上げされたままです。

0581 丹 □丹青は赤い色と青い色という意味から、色彩や絵の具の色のことを表す言葉だ。また、転

じて、絵画という意味をもつようになった。

□この丹前は祖母が丹精を込めて縫ったものだ。

0582 胆 □豪胆な監督が、ホームスチールという大胆な作戦で、みんなの心胆を冷やした。

□親しい友人が引っ越してしまい、落胆した。

0583 淡 □おばあちゃんは淡泊な味付けの和食が得意で、日常の生活も淡々としている。

□アコは淡水魚^{たんすいぎょ}で、川魚^{かわうお}の女王^{じょおう}と呼ばれている。

0584 嘆 □お母^{かあ}さんが、○点^{てん}の算数^{さんすう}の答案用紙^{とうあんようし}を見「ああ、嘆^{なげ}かわいい」と言^いって、嘆^{なげ}くだらうな。

□今^{こん}回^{かい}の彼^{かれ}の演奏^{えんそう}には感嘆^{かんたん}した。

0585 端 □端正^{たんせい}な顔立^{かおだ}ちだが、激^{はげ}しい性格^{せいかく}が行^{こう}動^{どう}の端々^{はしばし}に出^でる。

□初^{はじ}めて役^{やく}がついた。まだ端役^{はやく}だけど、大役^{たいやく}をつかむ端緒^{たんしょ}にしたい。

□この会社^{かいしや}は末^{まつ}端^{たん}の社員^{しやいん}までサービ^{せい}ス精^{しん}神^いが行^{とど}き届^{とど}いてみごとです。

0586 誕 □十^{じゅう}一^{いち}年^{ねん}前^{まえ}のきょう、わたしは両^{りょう}親^{しん}の最^{さい}初^{しよ}の子^こどもとして誕^{たん}生^{じよう}しました。

□ク^{せい}リスマス^{いたん}はキ^いリス^わトの生誕^{まつ}を祝^{まつ}う祭^{まつ}りです。

0587 鍛 □名^{めい}人^{じん}が鉄^{てつ}を鍛^{きた}え上^あげて刀^{かたな}をつく。

□水泳^{すいえい}やマ^{から}ラソ^だンで体^{たん}を鍛^{れん}練^{れん}して、ト^でライアス^でロンに出^でたい。

□昔^{むかし}はどの村^{むら}にも鍛冶^か屋^{じや}があっ^{たん}て、す^{たん}きや^{ぞう}く^{ぞう}わ^{ぞう}な^{ぞう}ど^{ぞう}を鍛造^{たんぞう}していた。

0588 弾 □天^{あま}草^{くさ}四^し郎^{ろう}は江^え戸^ど幕^{ぼく}府^ふのキ^{だん}リシ^{あつ}タ^{てい}ン^{こう}弾^{だん}圧^{あつ}に抵^{あま}抗^{くさ}し、天^{らん}草^{おこ}の乱^{らん}を起^{おこ}した。

□弾^{だん}力^{りよく}のあるボ^はール^ずはよく弾^はむ。

0589 壇 □庭^{にわ}の花^か壇^{だん}からキ^はク^なの花^きを切^きっ^きて、仏^{ぶつ}壇^{だん}に供^{そな}えま^{そな}した。

□講^{こう}演^{えん}をする人^{ひと}が演^{えん}壇^{だん}に上^あがった。

ち

0590 致 □ア^きキ^きレス^{れす}けん^{けん}を切^きったこ^ちが致^ち命^{めい}傷^{しょう}にな^{いん}り、引^{いん}退^{たい}した選^{せん}手^{しゆ}は多^{おほ}い。

□危^き険^{けん}な薬^{くすり}には致^ち死^し量^{りやう}が定^{さだ}めら^いれてい^いま^じす。そ^いれ^じ以上^{じょう}使^{つか}う死^しに至^{いた}るから^{から}です。

□オ^{しやう}リ^ちン^ちピ^しク^くを招^し致^{みん}するた^{ぜん}め^{いん}には市^い民^ち全^い員^ちが一^{うん}致^{どう}して運^{おこ}動^{どう}を起^{おこ}さな^{おこ}くては^{おこ}い^{おこ}け^{おこ}ま^{おこ}せん。

0591 稚 ☐ 孫^{まご}から届^{とど}いた手紙^{てがみ}は稚拙^{ちせつ}な文章^{ぶんしやう}でも、胸^{むね}を打^うたれるものです。

☐ 幼稚園児^{ようちえんじ}たちは稚氣^{ちき}愛^{あい}すべき笑顔^{えがお}で、遠足^{えんそく}に出^でかけました。

☐ 子供^{こども}たちにとってはエコロジーに^{かん}関する幼稚^{ようち}な議論^{ぎろん}を^{かき}重ねるよりも、稚魚^{ちぎよ}を川^{かわ}に放^{はな}す方が^{ほう}わかりやすいだろう。

0592 痴 ☐ おじいさんが、老人性痴呆^{ろうじんせいちほうしやう}症にかかってしまった。

☐ 気持^{きもち}ちよく歌^{うた}っていたら、音痴^{おんち}だといわれた。

0593 逐 ☐ ぼくの弟^{おとうと}は帰宅^{きたく}すると、すぐにお母^{かあ}さんに、学校^{がっこう}であつたことを、逐一^{ちくいち}報告^{ほうこく}する癖^{くせ}があります。

☐ 現在の農^{げんざい}業^{のうぎやう}では人的被害^{じんてきひがい}を考慮^{こうりよ}して、殺虫^{さつちゆうざい}剤^{ざい}を^{がいちゆう}まいて、害虫^{くちく}を駆逐^{ほうほう}する^{ほうほう}方法はへりつつあります。

☐ 選挙^{せんきやう}投票^{とうひやう}の開票^{かいひやう}結果^{けつが}はテレビ速報^{そくほう}で逐次^{ちくじ}発表^{はつぴやう}されます。

0594 蓄 ☐ 明日^{あした}の運動会^{うんどうかい}に備^{そな}え、端役^{はやく}眠^{ねむ}ってエネルギー^{ちくせき}を蓄積^{ちくせき}しておこう。

☐ 我が家^{わが}の先祖^{せんぞ}は倏約^{けんやく}家^{いえ}で、貯蓄^{ちよちく}に励^{はげ}み、蓄財^{ちくざい}につとめた。

0595 秩 ☐ 世^よの中^{なか}の秩序^{ちつじよ}が保^{たも}てれていれば、わたしたちは穏^{おだ}やかで落^おち着^ついた生活^{せいかつ}をすることができ^{でき}ます。

0596 室 ☐ 温室^{おんしつ}の中^{なか}で、一列^{いちれつ}んいマスクメロン^さがぶら下^さがっていた。

☐ 室温^{しつおん}が上^あがってきてので、暖房^{だんぼう}は止^とめます。

0597 嫡 ☐ わたしは嫡出^{ちやくしゅつし}子^しですが、嫡男^{ちやくなん}ではありません。

☐ 鎌倉幕府^{かまくらばくふ}を興^{おこ}した源氏^{げんじ}の嫡流^{ちやくりゆう}は三代将軍^{さんだいしやうぐん}源実朝^{みなもとのさねとも}で絶^たえてしまいました。

0598 沖 ☐ 晴^はれた日^ひに、父^{ちち}と一緒^{いっしょ}に船^{ふね}に^の乗り、沖合^{おきあ}いまで出^でて、沖釣^{おきづ}りを^{たの}楽しみました。

☐ 川^{がわ}が運^{はこ}んだ土砂^{どしや}が積^つみ重^{かさ}なった、沖積平野^{ちゆうせきへいや}はつくられました。

0599 忠 ☐ 友人^{ゆうじん}の忠告^{ちゅうこく}を、忠実^{ちゅうじつ}に守^{まも}っている。

☐ 江戸時代^{えどじだい}に大名^{だいみょう}の忠臣^{ただおみ}たちは忠孝^{ただたか}の心^{こころ}があつかった。

0600 抽 ☐ 抽象^{ちゅうしょう}芸術^{げいじゆつ}はわたしにはまだ抽象^{ちゅうしょう}的^{てき}すぎて理解^{りかい}できません。

☐ 宝くじ^{たから}の当選^{とうせん}は厳正^{げんせい}な抽選^{ちゅうせん}によって決定^{けつてい}した。

0601 衷 ☐ 衷情^{ちゅうじょう}を訴^{うた}えたら、先生^{せんせい}は理解^{りかい}してくれた。ぼくは衷心^{ちゅうしん}より、先生^{せんせい}に感謝^{かんしゃ}した。

☐ 会議室^{かいぎしつ}に集^{あつ}まった大人^{おとな}たちはみんな苦衷^{くちゅう}に満ちた表^{ひょう}情^{じょう}を浮^うかべていました。

0602 鋳 ☐ 金属^{きんぞく}を溶^とかし、型^{かた}の中^{なか}に入れてつくったものが、鋳物^{いもの}です。この時^{とき}に使^{つか}われる型^{かた}は鋳型^{いがた}と

呼^よばれます。身近^{みぢか}な鋳物^{いもの}には鉄^{てつ}のフライパンやなべなどがあります。

☐ 人間^{にんげん}を、鋳型^{いがた}にはめるのはよいこととはいえない。

☐ 日本^{にほん}の硬貨^{こうか}は大蔵省^{おおくらしょう}造幣局^{ぞうへいきょく}で鋳造^{ちゅうぞう}されている。

0603 丁 ☐ 「丁字路^{ていじろ}を右^{みぎ}に曲^まがっていけば図書館^{としょかん}があります」と、丁寧^{ていねい}におばあさん^{みち}が道^{おし}を教^{おし}えてく
れました。

☐ 六丁目^{ろくちょうめ}のバス停^{てい}に着^ついたら、丁度^{ちょうど}バス^きが来^きた。

☐ お客^{きやく}さんには丁重^{ていちょう}に接^{せつ}しなくてははいけません、と注意^{ちゅうい}された。

0604 弔 ☐ 王さま^{おう}の死^しを悼^{いた}み、兵士^{へいし}たちは弔旗^{ちようき}を掲^{かか}げて弔^{とむら}い合戦^{がっせん}に出陣^{しゅつじん}した。

☐ 友人^{ゆうじん}が弔辞^{ちようじ}を述べた後^の、弔電^{あと}が紹^{ちようでん}介^{しょうかい}され、会葬者^{かいそうしや}全員^{ぜんいん}で、弔意^{ちようい}を表^{あらわ}した。

☐ 弔問^{ちようもん}客^{きやく}が、次々^{つぎつぎ}に訪^{たず}れた。

0605 挑 ☐ 新進気鋭^{しんしんきえい}のボクサーが、チャンピオン^{ちようせん}に挑戦^{てんせん}しようとしています。

☐ どんな場合^{ばあい}でも、相手^{あいて}の挑発^{ちようはつ}に乗^のって先^{さき}に手^てを出^だしてはいけない。

☐ 前人未到^{ぜんじんみとう}の記録^{きろく}に挑む人^{いど}はこれまで誰^{ひと}もが経験^{だれ}しなかつた困難^{けいけん}に打ち勝^こつ挑戦^{ちようせん}をしてい

るのです。

0606 帳 □帳^{ちょうめん}面には用途^{ようと}に応じて雑記帳^{ざつきちょう}、日記帳^{にっきちょう}、練習帳^{れんしゅうとばり}などいろいろなものがある。

□お年玉^{としだま}を銀行^{ぎんこう}に持^もっていき、預金通帳^{よきんつうちょう}を新^{あた}しい作^{つく}ってもらった。

0607 張 □お互^{たが}いにの主張^{しゅちよう}を譲^{ゆず}らずに、意地^{いじ}を張^はり合^あっていても、問題^{もんだい}の解決^{かいけつ}にはならない。

□「いたずらの張本人^{ちようほんにん}はぼくです」と、正直^{しやうじき}に名乗^なり出^のたら、お父さん^はに張^はり倒^{たお}された。

0608 彫 □石^{せつ}こうの塊^{かたまり}を彫^ほって、彫刻^{ちようこく}をつくった。

□校門^{こうもん}の横^{よこ}に、遊^{あそ}んでいる子^こどもたちをかたどった彫像^{ちようざう}が立^たっている。

0609 眺 □家族^{かぞく}で山^{やま}を登^{のぼ}り、山頂^{さんちよう}から三百六十度^{さんびやくろくじゅうど}見渡^{みわた}せる雄大^{ゆうだい}な眺望^{ちようぼう}を楽し^{たの}しました。

□我が家^{わが}から畑^{はたけ}の向^むこうに見える山々^{みやま}の眺め^みが、ぼくはいちばんすきです。

0610 釣 □釣^つり人^{びと}はきょうの釣果^{ちようか}を、勇^{いさ}んで家^{いえ}に持^もって帰^{かえ}った。

□左^さ右^{ゆう}の重^{おも}さが釣^つり合^あったところ^てで手^{はな}を離^めし、目盛^もりを読^よみます。

0611 脹 □風船^{ふうせん}に空^{くう}気を吹^ふき込^こみ続^{つづ}けると、づ失^しせんが膨張^{ぼうちよう}して、やがて破^は裂^{れつ}する。

□おじいさんは首^{くび}のしゅ^{ちよう}脹^{しゅじゅつ}を手^{しゅ}術^{じゅつ}でとって^もらった。

0612 腸 □父^{ちち}は断腸^{だんちよう}の思^{おも}いで、手^{しゅじゅつ}術^{じゅつ}を受^うける決^{けつ}意^いをし^しました。

□胃^いで碎^{くだ}かれた食^たべ物^{もの}は小腸^{しょうちよう}で消^{しょう}化^か吸^{きゅう}収^{しゅう}され、それ以外^{いがい}の物^{もの}は大腸^{だいちよう}に押^おし流^{なが}されま
す。

0613 跳 □走^{はし}り高^{たか}跳^とび、走^{はし}り幅^{はば}跳^とび、三^{さん}段^{だん}跳^とび、棒^{ぼう}高^{たか}跳^とび、の四^{よん}種^{しゅ}類^{るい}目^めを、跳躍^{ちようやく}競^{きやう}技^ぎとい^いいます。

□屋根^{やねうら}裏^らで、ネズミ^{ねずみ}が跳^{ちよう}りょう^{りやう}して^いる。

0614 徴 □所得^{しやうとく}税^{ぜい}は所得^{しやうとく}に^おうじて徴^{ちよう}税^{ぜい}するとい^いう特^{とく}徴^{ちよう}がある。

□ハトは平和^{へいわ}の象^{しやう}徴^{ちよう}だ。

0615 潮 ☐ 干潮^{かんちょう}の浜^{はま}に出^でて、潮風^{しおかぜ}に打^うたれたながら、潮干狩^{しおひが}りを楽^{たの}しみまし

☐ 黒潮^{くろしお}に乗^のって船^{ふね}は進^{すす}んできます。

0616 澄 ☐ 登山者^{とぎんしゃ}は澄^すんだ山^{やま}の空^{くう}気^きの中^{なか}で、耳^{みみ}を澄^すまして鳴^なく鳥^{とり}の声^{こえ}に聞^きき入^いった。

☐ 泥水^{どろみず}をビーカーに入^いれてしばらく置^おくと、沈^{しず}んだ泥^{どろ}と上澄^{うわす}みとに分^わかれる。

0617 聴 ☐ 健康診断^{けんこうしんだん}のとき、お医者^{いしや}さんは聴診器^{ちようしんき}を使^{つか}います。

☐ 人^{にん}気^きのあるテレビ番組^{ばんぐみ}は視聴率^{しちようりつ}が高^{たか}い。

0618 懲 ☐ 悪^{わる}いことをした社会人^{しゃかいじん}は会社^{かいしや}から懲戒免職^{ちようかいめんしよく}になることがあります。

☐ 戦争^{せんそう}はもう懲^こり懲^ごりだと、おばあさん^いはよく言^いっています。

0619 勅 ☐ 祖父^{そふ}は「昔^{むかし}は国民^{こくみん}は天皇陛下^{てんのう}の勅命^{ちよくめい}に従^{したが}うのが、あたりまえだった」といいまし

☐ 教育勅語^{きよういくちよくご}は一八九〇年^{いちちはちきゅうぜろねん}に制^{せい}定^{てい}された。

0620 朕 ☐ 「朕^{ちん}」は第二次世界大戦^{だいにじせかいたいせん}が終^おわるまで使^{つか}われていた、天皇^{てんのう}が自^じ分^{ぶん}の指^さし

ていうとき^{ことば}の言葉^{ことば}です。一九四七年^{いちちきゅうよんしちねん}から、この表^{ひよう}現^{げん}は使^{つか}われなくなり、代^かわり

に、「わたくし」^{もち}が用^{もち}いら

れるようになりまし

0621 陳 ☐ 市民^{しみん}の陳情^{ちんじよう}に対^{たい}して、市長^{しちよう}は対^{たい}応^{おう}の遅^{おく}れを陳謝^{ちんしゃ}したそう

☐ デパートは商^{しょう}品^{ひん}を陳列^{ちんれつ}します。

0622 賃 ☐ 今年^{ことし}の賃^ち上^あげは賃貸^{ちんたい}マンシヨンの家賃^{やちん}の値^ね上^あげて消^きえた、と

☐ お兄^{にい}さん^おはアルバ^{ちんぎん}イトの賃^{かお}金^{かえ}をもらってニコニコ顔^{かお}で帰^{かえ}ってきた。

☐ マンシヨンの賃貸借契^{ちんたいしやくけいやくしよ}約^{じゆうよう}書^{しよるい}は重^{じゆう}要^{よう}な書^{しよるい}類^いだ。

0623 鎮 ☐ 騒動^{そうどう}を機動隊^{きどうたい}牙出^{きばしゅつ}動^{どう}して鎮^{ちん}圧^{あつ}し、人々^{ひとびと}はようやく鎮^{ちん}静^{せい}化^{いか}しまし

☐ お母^{かあ}さん^{ちんつう}は沈^{ぐげん}痛^{こうえん}を具^け現^{げん}した公^{こう}園^{えん}計^{けい}画^{かく}を具^ぐ体^{たい}化^{いか}しまし

つ

0624 墜 □飛行機が、濃霧のため、海に墜落した。

□安全運転を通してきた運転手は先日、飲酒運転で事故を起こし、信用を失墜した。

0625 塚 □貝塚は当時の生活を知る手がかりになりました。

□江戸時代には街道に一里ごとに土を盛り木を植えて、道のりの目印にしました。これを
一里塚といいます。

0626 漬 □父は漬物で、お茶漬けを食べました。

□ぼくはぎりぎりまで遊んでいたんで、一夜漬けで試験勉強を済ませた。

0627 坪 □我が家の建坪は坪数で三十坪あります。

□古い屋敷には建物などで囲まれた坪庭があり、石を敷き詰めたりして風雅な情趣を醸し
出します。

□地坪三十坪もある家の庭はずいぶん広く感じします。

て

0628 呈 □卒業式で、進呈と書かれた卒業記念品目録が、卒業生の代表に呈上された。

□今年は景気もいいようなので、夏休みのリゾート地はどこにも満員で活況を呈するだろ
う、とお父さんから言っていた。

□ばれないでほしいと思っている悪事は必ず露呈するものなのだ。

0629 廷 □法廷に出廷した証人が、入廷しました。

□大和朝廷は四、五世紀ごろ、日本の統一を果たしました。

0630 抵 ☐ 大抵もことはお大目に見ても、法律に抵触することは許すわけにはいかない。

☐ 家のローン返済中、家は抵当に入っています。

0631 邸 ☐ 豪邸が立ち並ぶ高級住宅には邸内にプールがある邸宅もある。

☐ 首相が首相官邸から出てきました。

0632 亭 ☐ 料亭や旅亭が集まった、町の一角は昼間はひっそりしています。

☐ うどん屋さんの亭主は近所では亭主関白で有名です。

0633 貞 ☐ おばあさんは貞淑の誉れが高く、貞女と呼ばれたそうです。

☐ 「貞節も、貞操も、今や死語だな」と父は言います。

☐ わたしは明治時代の女性に、貞潔な美しさを感じます。

0634 帝 ☐ ローマ帝国皇帝はプリンケプスと呼ばれ、帝位は世襲制ではなかった。

☐ タイトルを持ってはいないけれど、実力はタイトル保持者に匹敵する人のことを、無冠の帝王と呼びます。

☐ 帝政ロシアは帝都をモスクワからペテルブルグに移した。

0635 訂 ☐ 新聞に、写真を間違えたという訂正記事が掲載されていました。

☐ 父は増訂されて新版になった本を買ってきた。

0636 遞 ☐ 現在の郵政省は一九四九年までは通信省という名称でした。

☐ 現在の日本では子どもの数が低減している。

☐ ぼくの住む町ではここ数年、住宅地の開発が進んで人口が遡増してきました。このため、今年新しい小学校も設立される予定です。

0637 偵 □偵察に出た兵士は敵陣の奥に入り込んで内偵した。

□現場に残された証拠を一つ一つ調べ上げた探偵は犯人が誰かを克明に推理した。

□領内に潜り込んだ密偵が、変なうわさを広めていった。

0638 堤 □お父さんと一緒に、防波堤に行って、海釣りをしました。

□川の堤防工事が行われています。

0639 提 □問題を提起する提案をまとめて提言しました。

□受付で身分証明を提示してから、係の人に申込書を提出してください。

□父の会社はアメリカの会社と技術提携をすることになった。

0640 艇 □「ボートのことを、短艇というんだよ」と、おじちゃんが教えてくれました。

□先日行われたレガッタの試合で、兄のチームは一艇身の差で、優勝を逃しました。

0641 締 □日本はサンフランシスコ講和条約を締結した直後に、日米安保条約をアメリカと締結しました。

□文集の原稿の締め切り日が近づいてきたので、気を引き締めて原稿を書いています。

□議長が会議を締めくくり、戸締まりをしてから帰った。

0642 笛 □ぼくは口笛を、友達は草笛を吹きながら、土手道を歩きました。

□鼓笛隊が華やかに入場してきた。

0643 摘 □市民から指摘されていた不正事件を、警察が摘発しました。

□読んだ本の要点を摘出して、自分で摘要を作りました。

□二百十日がきて茶摘みの季節になり、多くの人が茶を摘み取っている。

0644 敵 □対戦相手が、敵意をむき出した敵視してきた。

かれ きょうてき てきたい
□彼は強敵なので、敵対したくありません。

0645 送 □汚職事件が起きたりして、大臣や官僚が更迭されることがある。このような出来事はあってほしくないものだ。

0646 哲 □哲学は人間の生き方や世界等、世の中の物事の基本となる道理を研究する学問です。
□ソクラテスは古代ギリシャの哲人です。

0647 徹 □昨夜、兄は徹夜で試験勉強したそうです。

かれ しよし かんてつ さんちょう た
□彼は初志を貫徹して、ついに、エベレスト山頂に立ちました。

0648 撤 □わたしの家の付近は建物が撤去されています。

せいとかいちよう せんじつ せいとかい いけん てっかい
□生徒会長は先日の生徒会での意見を撤回しました。

0649 典 □日本の古典を読むには辞典を丹念に調べなくては理解できません。

しょう とくてん ひやっかじてん
□賞の特典として、百科事典をおらいました。

0650 展 □次々と展開する物語をわくわくしながら追っていくのは本を読む楽しみの一つです。

さんちょう てんぼうだい ゆうだい けしき なが
□山頂の展望台から雄大な景色を眺めた。

0651 添 □食品に添えられた添加物の奈かには健康に心配な化学成分もあるそうだ。

としよ てんじょういん かいぞ お
□お年寄りには添乗員に介添えされてバスを降りました。

と

0652 斗 □一斗は十升で、約一八リットルあります。ですから、「斗酒なお辞せず」という斗酒はすごい量になります。

いっしょうびん こびん ろうと つか
□一升瓶のしょうゆを小瓶にうっしかえるのに、漏斗を使います。

ほくとしちせい み ふゆ さむ みち ひとり
□北斗七星がよく見える冬の寒い道を、一人で歩きました。

0653 吐 □父は青息吐息の事業の実情を、わたしたち家族に吐露した。

□強烈な吐き気が込み上げてきた。

0654 奴 □十六世紀、アメリカ大陸西海岸の人たちは奴隷としてアメリカに売り飛ばされた。

□領主は農奴たちに、自分の畑を耕された。

0655 刀 □刀を作ることを仕事にしている人を、刀かじ、または刀工という。

□中学の剣道部に入った兄は新しい竹刀を持って、さっそうと登校していきました。

□刀剣の名手とうたわれた武士の腕にはかつての果たし合いで受けた刀傷があった。

0656 豆 □豆乳ににがりを入れて固めると白くて柔らかい豆腐になる。

□ぼくは大豆を発揮させた納豆が、お父さんは枝豆が大好きです。

□我が家では小豆を入れて赤飯をたいて、家族みんなで食べます。

0657 唐 □唐の時代、日本は遣唐使を派遣して仏教・唐詩をはじめとした文物を学びました。

□友達は唐突に、荒唐無けいな冒険計画をみんなに話し出しました。

□唐草模様の大きなふろしきで、布団を包みました。

0658 桃 □女の子のほおが、ほんのりと桃色に染まって、はにかんでいるようです。

□よく冷やした白桃の皮をつるんとむいて、液がしたたる白い果肉にかぶりつきます。

0659 討 □時代劇には武士たちが敵の屋敷や陣に攻め込む討ち入りの場面が、よく登場します。

□きょうはクラス全員で、ある議題について討論した。

□わたしたちの町では住宅地を広げるとともに森林や自然を守にはどうしたらよいかにつ

いて、検討が重ねられている。

0660 透 ^{まど} □窓ガラスを透^すかして透明^{とうめい}な透明^{とうめい}な光^{ひかり}が差し込^さ込んできます。

□理科^{り か}の授業^{じゅぎょう}で、浸透^{しんとう}圧^{あつ}の実験^{じっけん}をしました。

0661 悼 ^{ちち} □父は交通事故^{こうつうじこ}による突然^{とつぜん}の友人^{ゆうじん}の死^しを悼^{いた}み、悼辞^{とうじ}の電報^{でんぽう}を打^うった。

□子どもが病死^{びようし}した叔父^{お じ}さんのいwに届^{とど}いたお悔^くやみの手紙^{てがみ}の最後^{さいご}に、「お子様^{こさま}の霊安^{れいやす}かれ
と、つつしんで哀悼^{あいとう}の意^いを表^{あらわ}します」と書^かかれています。

□兄^{あに}は恩師^{おんし}の葬式^{そうしき}に参列^{さんれつ}し、追悼^{ついとう}の言葉^{ことば}を述^のべた。

0662 陶 ^{とうこう} □陶工^{とう 工}は陶土^{とうど}をろくろくで形^{かたち}にして、上^う 葉^{えぐすり}を塗^ぬって焼^やき、陶器^{とうき}を作^{つく}りました。

□名^{めい} 曲^{きょく}は人^{ひと}を陶醉^{とうすい}させ、陶然^{とうぜん}とした気持^{きも}ちにさせます。

□夏休^{なつやす}みに人^{じん}格^{かく}を陶^{とう}やすする合^が 宿^{しゅく}に参^{さん}加^かした。

0663 搭 ^{しんがた} □新型^{しんがた}エンジンを搭載^{とうさい}した自動車^{じどうしゃ}を、お父^かさんは買^かいました。

□飛行機^{ひこうき}の搭乗員^{とうじょういん}が乗^のった後^{あと}、わたしたちツアー参加者^{さんかしゃ}が乗^のり込^こみました。

0664 棟 ^{とう} □棟^{とう}りょうが指図^{さしず}して棟木^{むなぎ}を上げ^あた後^{あと}、みんなで棟上げ式^{むねあ しき}をお祝^{いわ}いました。

□夜半^{やはん}すぎに出火^{しゅつか}した火事^かは夜中^{か じ}燃^よえ続^なけ、結 局^{つづ}、家屋^{けっきょく}五棟^{かおくごとう}が全半^{ぜんはん}焼^{しょう}してしまっ

□院 長^{いんちょう}は毎朝^{まいあさ}、病 棟^{びょうとう}を一つ一つ回診^{ひと ひと かいしん}して歩^{ある}きます。

0665 痘 ^{しゅとう} □種痘^{ちから}とは力^{よわ}を弱めた天然痘^{てんねんとう}のウイルスを人^{ひと}に皮膚^{ひ ふ}に植^うえ付^つけることです。種痘^{しゅとう}の跡^{あと}が残^{ざん}っ
てい^{ひと}る人もいます。

□プー^{おこな}ルに 行^{すい}って、水痘^{かんせん}に感^{かん}染^{せん}してき

0666 統 ^{えんそく} □遠足^{えんそく}では統率^{とうそつ}する先生^{せんせい}の統制^{とうせい}に 従^{したが} いました。

□正統^{せいとう}な王家^{おうけ}の血統^{けつとう}が絶^たえました。

0667 稲 ☐ 稲^{いなだ}田にはすっかり実^{みの}った水^{すい}稲^{いなほ}の稲穂^{こがねいろ}が黄^{かがや}金色^{あた}に輝^たいて、頭^{あたま}に垂^たれていました。

☐ 上^{じょうじょう}々^{いなさく}の稲作^{いねか}で、稲刈^すりが済^{いなりさま}んだら、お稲荷^{ほうのう}様に奉納^{ほうのう}します。

☐ 稲妻^{いなずま}が光^{いなびかり}り、稲光^{はし}が走^{あめ}って、雨^ふが降^ふってきた。

0668 踏 ☐ 彼^{かれ}は砂漠^{さばく}を踏破^{とうは}し、人跡^{じんせき}未踏^{みとう}の地^ちに達^{たっ}した。

☐ 雑踏^{ざつとう}の中に足^{なか}を踏^{あし}み入れたら、誰^ふかに思^いいっきり足^{だれ}を踏^{おも}みつけられました。

0669 糖 ☐ 砂糖^{さとう}には精製^{せいせい}した白^{はく}糖^{とう}のほかに、精製^{せいせい}してない黒^{こく}糖^{とう}があります。

☐ 入^{にゅういん}院^{いん}したわたしはブドウ糖^{とう}を点^{てん}滴^{てき}して糖^{とう}分^{ぶん}を補^ほ給^{きゅう}し、糖衣錠^{とういじょう}を飲^のんだ。

☐ 糖^{とう}尿^{にょう}病^{びょう}は重^{じゅう}大^{だい}な成^{せい}人^{じん}病^{びょう}です。

0670 謄 ☐ 学^{がっこう}校^{こう}にあつた謄^{とう}写^{しや}版^{ばん}で印^{いん}刷^{さつ}をしてみます。

☐ 原^{げん}本^{ぼん}の内^{ない}容^{よう}をそ^かのま^うま書^しき写^{うつ}した書^{しよるい}類^{るい}が謄^{とう}本^{ぼん}で、身^み近^{ちか}いなものとして^はわ^はた^はし^のち^の

生^{しょう}年^{ねん}月^{げつ}日^{にち}や家^か族^{ぞく}関^{かん}係^{けい}を記^{しる}した、戸^こ籍^{せき}謄^{とう}本^{ぼん}があります。

0671 闘 ☐ 闘^{とう}志^しをたぎ^らせた闘^{とう}士^しが闘^{とう}技^ぎ場^{じょう}で、死^し闘^{とう}をしま^す。

☐ 闘^{とう}病^{びょう}生^{せい}活^{かつ}は自^じ分^{ぶん}と^の闘^{とう}争^{そう}ともい^えま^す。

☐ 父^{ちち}は大^{だい}工^く事^し似^に孤^こ軍^{ぐん}奮^{ふん}闘^{とう}で苦^く闘^{とう}していま^す。

0672 騰 ☐ 沸^ふ騰^つしたお湯^{とう}を^ゆ使^{つか}うと、お^{こう}い^{ちや}しい紅^い茶^{ちや}を^い入^いれるこ^うとが^いで^いま^す。

☐ 物^ぶ価^{っか}の騰^{とう}落^{らく}が激^{はげ}しいので、な^{せい}か^{かつ}な^あん^{てい}てい^い生活^{しやう}が安^{あん}定^{てい}しま^せん。

0673 洞 ☐ 森^{もり}の奥^{おく}に隠^{かく}れた同^{どう}門^{もん}を^{はい}入^なると、中^{なか}は暗^{くら}い空^{くう}洞^{どう}の洞^{どう}穴^{けつ}だ^{った}。

☐ 洞^{どう}察^{さつ}力^{りよく}を^{やしな}養^やうた^めに、ぼ^{すい}く^りは推^し理^り小^{しょう}説^{せつ}を^よ読^よんでいま^す。

0674 胴 ☐ 優^{ゆう}勝^{しょう}を祝^{いわ}って、監^{かん}督^{とく}を全^{ぜん}員^{いん}で胴^{どう}上^あげ^した。

□あまりに^{どうよく} 胸^し欲^うな仕^{どうぶる}打^とちに、胸^と震^といが止まりませんでした。

0675 峠 □^{なが} 長い^{のぼ} 登^{みち}り^{のぼ} 道を登^{とうげ} ってきた^{ちやや} わた^{はい} した^{ちや} ちは^の 峠^{ひといき} の茶^の 屋^の に入^の って^の お茶^の を飲^の んで、一^{ひといき} 息^の つき^の まし^の た。

^{あと} 後^{くだ} は下^{みち} り^の 道^の を下^の る^の だけ^の です。

□^{こうねつ} 高^{つづ} 熱^{はは} が続^{ようだい} いた^と 母^{とうげ} の容^こ 体^{ねつ} も、よう^さ やく^の 峠^の を越^の して^の 熱^の が下^の が^の っ^の て^の き^の まし^の た。

□^{さんごくとうげ} 三^{えちごく} 国^{うえのこく} 峠^{しなのこく} には越^{さんごく} 後^{みょうじん} 国^{まつ} と上^{さんごくじんじや} 野^た 国^の と信^の 濃^の 国^の の三^の 国^の の明^の 神^の さ^の ま^の を祭^の って^の 三^の 国^の 神^の 社^の が立^の っ^の て^の い^の る。

0676 匿 □^{ちず} この^{えどじだい} 地^{ざいほう} 図^{ひとく} には江^{ばしよ} 戸^の 時^の 代^の の財^の 宝^の を秘^の 匿^の し^の て^の い^の る^の 場^の 所^の が、わ^の か^の ら^の な^の い^の よう^の に^の 記^の さ^の れ^の て^の い^の る^の は^の ず^の なんだ。

□^{けさ} 今^{しんぶん} 朝^の の新^{しやくしよ} 聞^{ぎようせい} に、市^{しごとがた} 役^{ひはん} 所^の の行^{とくめい} 政^{とうしよ} の仕^の 事^の 方^の を批^の 判^の す^の 匿^の 名^の の投^の 書^の が載^の っ^の て^の い^の まし^の た。

□^{はんにん} 犯^{とうそう} 人^{まえ} たち^{しやうこ} は逃^{きやうき} 走^{いんとく} す^の る^の 前^の に証^{もり} 拠^{なか} の凶^{はい} 器^の を隠^の 匿^の し^の よう^の と、森^の の中^の の入^の っ^の て^の き^の まし^の た。

0677 凸 □^{とつめんきやう} バッ^{でこぼこ} ク^の ミ^の ラ^の ー^の の凸^の 面^の 鏡^の に、凸^の 凹^の し^の て^の い^の る^の 道^の 路^の が映^の っ^の て^の い^の る。

□^{かつばんいんさつ} 活^{しやしんばん} 版^{とつばん} 印^{はん} 刷^{はん} では写^{はん} 真^{つく} 版^の は凸^の 版^の を版^の に張^の り^の 込^の んで、版^の を作^の り^の まし^の た。

□^{むしめがね} 虫^{ろうがんきやう} 眼^{とつ} 鏡^の や老^{とつ} 眼^の 鏡^の はい^の ず^の れ^の も凸^の レ^の ン^の ズ^の で作^の ら^の れ^の て^の い^の まし^の た。

0678 屯 □^{おきなわ} 冲^{べいぐんきち} 縄^{しゆうへん} の米^{きゆうじつ} 軍^{ちゆうとん} 吉^の の周^の 辺^の では休^の 日^の に駐^の 屯^の し^の て^の い^の る^の 兵^の が、町^の のあ^の ち^の こ^の ち^の に^の た^の む^の ろ^の し^の て^の い^の る。

□^{めいじじだい} 明^{とんでんせいど} 治^の 時^の 代^の には屯^{せいふ} 田^{ほっかいどう} 制^の 度^の があ^の り、政^の 府^の は北^の 海^の 道^の に、農^の 業^の と兵^の 役^の の両^の 方^の を行^の う^の 屯^の 田^の 兵^の を住^の ま^の わ^の せ^の た。

□^{めいじ} 明^{はじ} 治^の の初^{けいさつしよ} め^{とんしよ} 、警^よ 察^の 署^の は屯^の 所^の と呼^の ば^の れ^の て^の い^の た。

0679 豚 □^{めい} ぼ^{こぶた} くの姪^{まるまる} は子^{ふと} 豚^の のよう^の に丸^の 々^の と太^の っ^の て^の い^の て、と^の て^の も^の 愛^{あいきやう} 敬^の があ^の る^の 赤^{あか} ち^の ゃ^の ん^の で、み^の ん^の な^の に「ブ

ー^の ち^の ゃ^の ん」と呼^の ば^の れ^の て可^の 愛^の がら^の れ^の て^の い^の まし^の た。

□^{こんや} 「今^{だいす} 夜^の のお^の か^の ず^の はあ^の な^の た^の の大^の 好^の き^の な^の 豚^の 肉^の のソ^の テ^の ー^の とほ^の う^の れ^の ん^の そ^の う^の の卵^{たまご} とじ^の よ」と、お^の 母^の

さ^の ん^の は、わ^の た^の し^の に^の 言^の い^の まし^の た。

□おじさんの家は農業のほかに、養豚も行っています。

な

に

0680 尼 □尼僧は仏教の女性の僧と、キリスト教の修道女の両方を指す言葉です。

□京都へ旅行して、天台宗の尼寺、寂光院を見学した。

0681 弍 □納屋で古いものを整理していたら、参拾円とか、昔風に書かれた家計簿が出てきた。

□叔父さんからもらった年玉の袋には裏に墨で弍千円と書かれていました。

0682 尿 □病院で検尿をして、どこも悪くないことがわかったので、安心しました。

□長距離バスに乗っている途中で尿意を催して、停留所に着くまで我慢する野が大変だった。

□動物のふん尿は枯れ草などとともに有機肥料の原料になり、植物を健康に育てます。

0683 妊 □妊産婦のための赤ちゃん教室が、公民館で行われています。

□おなかの大きな妊婦の人はいたわりましょう。電車に乗ってきたら、すすんで席を譲りましょう。

□妊娠した人は近くの保健所で母子健康手帳をもらえる。

0684 忍 □背後から忍び寄ってきた友達に、急に肩をたたかれて驚いた。

□彼の忍耐強さには頭が下がる。

0685 寧 □母はお客さん似丁寧似あいさつした後、テーブルを丁寧にふきました。

□寧日、ネコは縁側でうとうとしている。

ね

0686 粘 ^{いもうと} 妹 は ^{ねば} 粘り ^{つよ} 強い ^{せいかく} 性格 で、^{ねんどざいく} 粘土細工 を ^あ させると、^{もくもく} 飽きず ^{つづ} に黙々と作り続けている。

^{ひっこ} □引越しのとき、^{ねんちやく} 粘着 ^{につく} テーブル で荷造りをした。

の

0687 納 ^な 納屋 や ^{なんど} 納戸 のある ^{おお} 大きな家 でも、^{いえ} 収 ^{しゅうのう} 納 には ^{くろう} 苦勞 しています。

^{ぜいむしょ} □お父さんは ^{のうぜい} 税務署 に ^{のうぜい} 納税 しました。

は

0688 把 ^だ □出された ^{もんだい} 問題 を ^{はあく} 把握 できさえすれば、^{もんだいたば} 問題把 ^と おのずから解けます。

^{みぎて} □右手 で ^{げんかん} 玄関 の ^あ ドア を開けると、^{ひだりて} 左手 で ^か 買い物 ^{ものぶくろ} 袋 を ^は 把持 していないと、^か 買い物 を ^{もの} 通路 に ^{つうろ} まいてしまう。

^ゆ □よそ行き 様の ^{ふく} 服 も ^{ふだんちやくよう} 普段着用 の ^{ふく} 服 も、^{じっぱじん} 十把 人 から ^お けにして ^い 押し入れ に ^ほ 掘り込んで ^こ おくと、
^{こうかい} 後悔 するよ。

0689 派 ^{こうしゃ} □校舎 の ^{こうじ} 工事 で ^{こうてい} 校庭 が ^{せま} 狭 くなり、^{ばしょ} 場所 と ^お りで ^{もんたい} けんかが ^{はせい} 起きたりするなどの ^{はせい} 問題 が ^{はせい} 派生 してきた。

^{くに} □ある ^{ないせん} 国の ^{おさ} 内戦 を ^{まわ} 収めるため、^{くに} 周りの ^{はへい} 国 が、^き 派兵 すると ^き を決めた。

^{さどう} □茶道 や ^{はなみち} 花道 には ^{りゅうは} 流派 があります。

0690 覇 ^{ちか} □「^{わかもの} 近ごろ の ^は 若者 は ^き 覇気 が ^{ちち} ないね」と、^い 父 が ^い 言った。

^{あに} □兄 の ^{こうこう} 高校 の ^{やきゅうぶ} 野球 部 は ^{なつ} 夏 の ^{こうこうやきゅう} 高校野球 で、^{ぜんこくせい} みごと ^は 全国制覇 を ^な 成し ^と 遂げた。

0691 婆 ^{ちょうじゅ} □長 寿 の ^し むら で ^{むら} 知られる ^{ひやくじゅうよん} この村 には ^{ろうば} 百 十 四 の ^{げんき} 老婆 が、^く 元気に ^く 暮らしています。

^{さんば} □おばあちゃんはお産婆さんだったそうです。

0692 肺 ^{こうい} □校医 さんは「^{かる} 軽い ^か 風邪 だと思っても、^{おも} 油断 すると ^{ゆだん} 肺炎 になる ^{はいえん} こともあるので、^{ちゅうい} 注意 しまし

よう」と、おっしゃいました。

□ぼくのお父さんはたばこが好きです。いつも、お母さんに「肺がんになりますよ」としか
れています。

□兄は水泳の選手なので、肺活量が多いそうです。

0693 俳 □ぼくのおじいちゃんは俳句が趣味です。

□兄は飛行機の中で、有名な映画俳優に会いました。

0694 俳 □ふろ場は排水口に髪の毛がつまった。

□都会の空気は車の排気ガスなどで、汚染されています。

0695 廃 □机を整理したら、廃物がたくさん出てきた。

□兄の通っている中学校では今年から、制服が廃止されることになったそう。

0696 輩 □彼のお兄さんとぼくは野球部の先輩と後輩の間柄だ。

□姉はオリンピックの選手が輩出した体育大学に入学しました。

0697 梅 □ぼくは梅干しの入ったのり巻きのおむすびが大好きだ。

□今年は梅雨明けが遅くて、いつまでも、じめじめとした雨降りの毎日が続いている。

0698 培 □兄は細菌を培養する実験をしています。

□母は「給料が倍額になればいいなあ」と言っています。

0699 陪 □アメリカの陪審員制度では有罪、無罪は裁判官ではなく、陪審員が決めます。

□父はきょう、社長と陪席しました。

0700 媒 □ペストの病原菌を媒介するのはネズミやノミです。

□教育の媒体にはテレビ、ラジオ、パソコンなどがあります。

0701 伯 □兄は大学の美術史のゼミで、ある画伯についての研究論文を発表したそうです。

□二人の生徒の卓球の實力は伯仲しています。

0702 拍 □彼はギターの演奏を披露し、会場から、割れんばかりの拍手が沸き起こりました。

□兄は試験勉強似拍車をかけています。

0703 迫 □「ロミオとジュリエット」の芝居を演じた二人は迫真の演技だった。

□選抜大会に向けて、野球部員は気迫のこもった練習に励んでいます。

0704 舶 □ぼくは船舶が乗っている図鑑を買ってもらった。

□おばあちゃんは舶来品の古い腕時計を持っているそうです。

0705 博 □兄は大学の博士課程で勉強しています。

□ナイチンゲールは博愛の精神を持っていました。

0706 漠 □きみの考えは漠然としていて、ぼくにはつかみどころがない。

□サハラ砂漠は広漠としている。

0707 縛 □ころんでひざをけがしてしまったので、傷口をハンカチで縛って家に帰り、すぐに消毒しました。

□旅先では学校や会社といった日常の束縛から開放され、ゆったりできる。

0708 鉢 □弟はおじいちゃんが大切にしている植木鉢を、割ってしまった。

□友達と映画を見に行ったら、館内で兄と鉢合わせした。

0709 伐 □森林を伐採して、林道が造られた。伐採された樹木は公園で、ぶらんこなどの材料として利用された。

□人間は地球の自然環境をずいぶん破壊してしまった。今後は乱伐などをしないよう心か

けなければならない。

□^{ももたろう おに しま おに せいぼつ}桃太郎は鬼が島の鬼を征伐しました。

0710 罰 □^{やくそく じかん おく ざいあくかん つみほろ ともだち にもつ も}約束の時間に遅れた罪悪感から、罪滅ぼしに友達の荷物を持つことにした。

□^{む ざい しゅちよう ひこく ゆうざい}無罪を主張した被告が有罪になった。

0711 関 □^{がくもん じゆう けんきゆう がくしや}学問にとらわれず、自由に研究している学者たちもいます。

□^{にんげん あつ ぱく}人間が集まると、派閥がしやすい。

0712 帆 □^{ほ ぬの かぜ う はんそう はんせん ほ かげ とお}帆布に風を受けて帆走する帆船の帆影が、ますます遠ざかった。

□^{ほ が せん じゅんぷうまんぱん しゅっぱん}帆掛け船が順風満帆、出帆した。

□^{ばしら おお しらほ わんない かいてき はし}帆柱に大きな白帆をなびかせたヨットが、湾内を快適に走っています。

0713 伴 □^{がくげいかい がっしょう ばんそう たんにん せんせい}わたしたちのクラスは学芸会で合唱をします。ピアノの伴奏は担任の先生です。

□^{み えいが ちち どうはん で}見たい映画があったので、父に同伴してもらって出かけました

0714 班 □^{かん はんが はじ はんちよう えら}この間、クラスで班替えがあり、ぼくは初めて班長に選ばれました。

□^{こんかい えんそく はんべつ こうどう}今回の遠足では班別に行動した。

0715 畔 □^{えんそく みずうみ い こはん え あそ ついたち す}遠足で 湖 へ行き、湖畔で絵をかいいたり、遊んだりして一日を過ごしました。

□^{ともだち かわ つ かはん ね おお くも なが}友達と川で釣りをしたあと、河畔に寝そべって大きな雲を眺めました。

0716 搬 □^{てらんかい さくひん びじゅつかん はんにゆう}展覧会の作品を美術館に搬入した。

□^{はんそうちゆう にくず にもつ しば うんばん}搬送中に荷崩れがしないように、しっかり荷物を縛って運搬しています。

0717 煩 □^{いん こ はんざつ てつづ おお}引っ越しは煩雑な手続きが多い。

□^{ぼんのう ひと こころ みだ よくぼう まよ あらわ ぶつきよう ことば こぼんのう じぶん こ}煩惱とは人の心を乱す欲望や迷いのことを表す仏教の言葉だが、子煩惱は自分の子ど

もをととしてもかわいがることを意味する。

0718 頒 □わたしは母と、デパートで催されている版画の頒布会に出かけました。

□お父さんが、かばんから取り出した古本には頒価一万円と書かれていた。

0719 範 □試験の範囲尾先生が発表したけど、あまりに広範なので、いまさらどう勉強していいかわからない。

□植物の範ちゅうはとても広くて、海藻ばかりかカビも植物に含まれます。

□きみが模範となって、クラスみんなに授業態度の規範を示してくれ、と先生に言われました。

0720 繁 □休みの日には繁華街がおおにぎわいし、商売が繁盛している。

□学校の飼育室で、ウサギが繁殖した。

0721 藩 □江戸幕府は全国の大名の領国を親藩・譜代・外様に分けて支配しました。

□江戸時代には現在の東京である江戸に、各地の大名が、藩邸という屋敷を持っていた。

0722 蛮 □酔った青年が蛮声をはりあげて騒いだ。

□兄と高い所から飛ぶ競走をして負けられなくなり、蛮勇をふるって飛び降りたら足をくじいてしまった。

0723 盤 □基盤の盤面には白と黒の石が置かれています。

□トンネル工事で、地盤崩れて、落盤事故が起こった。

ひ

0724 妃 □ヨーロッパの王国の王妃が、皇太子妃を伴って日本を訪問されるそうです。

□園遊会では妃殿下たちの装いが、いつも話題になります。

0725 批 □市民の市役所に対する批判が高まっている。

□国会は平和条約を賛成多数で批准した。

0726 披 □お兄さんは友達^{ともだち}の結婚式^{けっこんしき}の披露宴^{ひろうえん}で、友人代表^{ゆうじんたいひょう}のスピーチをしました。

□無罪^{むざい}が立証^{りっしょう}された被告人^{ひこくにん}は心中^{しんちゅう}を披^ひれきしました。

0727 肥 □お父さんは肥満^{ひまん}を気^きにしている。

□いくら肥^ひよくな土地^{とち}でも、肥料^{ひりょう}をやらなくてはよい作物^{さくもつ}はならない。

0728 卑 □そんなに自分^{じぶん}のことを卑下^{ひげ}して、卑屈^{ひくつ}になる必要^{ひつよう}はありません。

□卑近^{ひきん}な例^{れい}と言っても、卑俗^{ひぞく}すぎるのは感じ^{かん}しません。

□卑劣^{ひれつ}な手段^{しゅだん}で人^{ひと}を陥^{おちい}れるようなことはするな。

0729 秘 □しにせのうなぎ屋^やのおいしさの秘^ひけつは秘中^{ひちゅう}の秘^ひのたれにある。

□夏休^{なつやす}みに家族^{かぞく}でアメリカの秘境^{ひきょう}を旅行^{りょこう}しました。

0730 扉 □昔^{むかし}の人^{ひと}が現代^{げんだい}に来たら、店^きや乗り物^{みせ}の扉^のが、自動^{もの}的に開^{とびら}扉^きされるのに驚^{じどうてき}くだろう。^{かいとびら} ^{おどろ}

□王子^{おうじ}は鉄扉^{てつび}をあけて、盗賊^{とうぞく}に閉^とじ込められていた村娘^こを助^{むらむすめ}け出^{たす}しました。^だ

0731 碑 □開拓^{かいたく}の記念碑^{きねんひ}の碑文^{ひぶん}を読^よむと、往時^{おうじ}の人^{ひと}たちの繰^くろうがしのばれます。

□歌人^{かじん}の墓碑^{ぼひ}の碑銘^{ひめい}には歌人^{かじん}の代表^{だいひょう}作^{さく}が彫^ほられている。

□古^{ふる}い石碑^{せきひ}が、学校^{がっこう}に裏^{うら}にある。

0732 罷 □贈賄^{ぞうわい}事件^{じけん}が発覚^{はっかく}し、その中心人物^{ちゅうしんじんぶつ}である大臣^{だいじん}を罷免^{ひめん}した。

□労働組合^{ろうどうくみあい}の要^{よう}求^{きゅう}が、経営者側^{けいえいしやがわ}に聞^きき入^いれられないため、組合員^{くみあいいん}は徹夜^{てつや}の話^{はな}し合^あいの結果^{けっか}、

罷業^{ひぎょう}とに決定^{けつてい}した。

□工場^{こうじょう}で働^{はたら}く人々^{ひとびと}が、ストライキ^{おこな}を行^{ひこう}うことを、罷工^{ひこう}といいます。

0733 避 □学校^{がっこう}で火事^{かじ}が起きた場合^おの、避難^{ばんあい}訓練^{ひなんくんれん}した。

□今年の夏は避暑のために高原へ行きます。

0734 尾 □ぼくは父と、北アルパスを尾根づたいに歩いた。

□ぼくはテレビの刑事ドラマで、私服刑事が容疑者を尾行するシーンに、見入った。

□兄は首尾によく試験に合格し、意気揚々と、スキーに出かけたが、転んで、尾てい骨を打った入院した。

0735 微 □微風が心地よいのか、赤ちゃんは眠ったいるときもかすかに微笑を浮かべることがある。

□微熱があつて体がだるい。

0736 泌 □人間が物を食べることによって、胃の中では胃液が分泌する。さらに、十二指腸で消化液

が分泌されて食べ物を消化して栄養分が体全体に吸収される。

0737 姫 □将軍の姫君がさらわれ、城 中が大変な騒ぎになった。

□亡くなったおばあさんの形見として、母は着物を、わたしは姫鏡台をもらった。

□舞姫は踊りを踊る女の人のことを表す、むかしの優雅な言葉だ。だからバレリーナは言ってみれば現代の舞姫というわけだ。

0738 俵 □村祭りで、米俵を持ち上げる、力自慢コンテストがありました。

□横綱の土俵入りに、盛大な拍手が起こった。

0739 票 □投票による表決を、票決という。

□レストランで食事をしたあとはレジに伝票を持っていき、お金を払う。

0740 評 □いま評判のテレビ番組で、評論が鋭い批評をしていた。

□評議会はいつも小田原評定になる。

□書^{ひょう}評^{ひょう}で、エジソンの評^{ひょう}伝^{でん}を取り^と上^あげた。

0741 漂^{かい} □海^{ただよ}を漂^きってきた木^{えだ}の枝^{かいがん}が、海岸^{ひょうちやく}に漂^{なが}着^{あいだひょうりゆう}した。長^{いる}い間^{かたち}漂^か流^かして、色^{いろ}も形^{かたち}もすか^かかり変^かわっている。

□しみをつけてしまったシャツは漂^{ひょうはく}白^{はく}する。

0742 標^{ことし} □今^{なつやす}年の夏^{もくひょう}休^{はやお}みの目^{いし}標^{あつ}は早^{ひょうほん}起^{つく}きをするこ^{こと}とと、い^いろい^ろろな石^{いし}を集^{あつ}めて標^{ひょうほん}本^{ほん}を作^{つく}ることです。

□交^{こう}通^{つう}安^{あん}全^{ぜん}の標^{ひょうご}語^ごを考^{かん}え^がました。

0743 苗^り □き^かょう、理^{じゆぎょう}科^{すいとう}の授^{なえ}業^うで、水^{なわしろ}稻^{てい}の苗^{みずかげん}を植^{すいおん}えた。苗^{ちようせつ}代^{たい}の手^{たいせつ}入^{たいせつ}れには水^{みず}加^か減^{げん}と水^{すい}温^{おん}の調^{ちよう}節^{せつ}が大切^{たいせつ}だ^だと学^{まな}んだ。

□おじいちゃんの家^{いえ}に、田^た植^うえの手^て伝^だいをし^いに行^いったとき^いに、「イネは命^{いのち}のもとだから、一^{いち}苗^{なえ}

たりとも粗^そ末^{まつ}にしてはいけ^いないと」^{おし}と教^{おし}え^えられた。

□苗^{なわしろ}代^{すい}から水^う田^かに植^{なえ}え替^きえるころのイネの苗^{なえ}を、早^さ苗^{なえ}とい^いいます。

0744 描^{あぶらえきようしつ} □ぼくは油^{せんせい}絵^い教^い室^{あぶらえ}の先^か生^{なんまい}に、一^{そびよう}枚^つの油^{かさ}絵^{かさ}を描^かくた^かめには何^{なん}枚^{まい}もの素^そ描^{びよう}を積^つみ重^{かさ}ねるこ^ことが

大切^{たいせつ}だ^だと教^{おそ}わ^わった。

□ヘミ^{ろうじん}ングウ^{うみ}エイの「老^{じようけい}人^{かん}と海^{けつ}」は情^{びよう}景^{しや}を簡^す潔^ばに描^{ぶん}写^{しょう}した、素^{ぶん}晴^{しょう}ら^{しょう}しい文^か章^{ちやう}だ。

□ぼくは点^{てん}描^{びよう}で、風^{ふう}景^{けい}画^がを描^かいた。

0745 浜^{なつやす} □夏^か休^{ぞく}みに、家^{うみ}族^いで海^いに行^はき、浜^は辺^までバーベ^はキュー^まをした。

□ハ^{すな}マ^はナスは砂^{ぐん}浜^{せい}に群^{かい}生^{ひん}する海^{しよく}浜^{ぶつ}植^{なつ}物^{あか}で、夏^{なつ}に赤^{あか}紫^{むら}色^{さき}の大^{おお}きな花^{はな}が咲^さき、よ^かい香^かりがし

ます。

0746 頻^{でんし} □電^{しやう}子^{ひん}レン^どジは使^{たか}用^{でん}する頻^き度^きの高^ぐい電^{ひと}気^{ひと}器^{ひと}具^{ひと}のつ^{ひと}つです。

□祖^そ母^ぼはわ^わたしに、頻^{ひん}繁^{ばん}に手^て紙^がをく^くれ^れます。

0747 敏 □うちのイヌは音に^{おと}敏感^{びんかん}だ。

□救急病院^{きゅうきゅうびょういん}では医師^いや看護婦^{かんごふ}が機敏^{きびん}に動き、敏速^{うご}にしている。

ふ

0748 扶 □わたしと^{おとうと}弟^ふはお父^ふさんの扶養^{ふよう}家族^{かぞく}です。

□困^{こま}ったことがおきた家^{いえ}には相互^{そうご}扶^ふ助^{じょ}で手^て助^{だす}けをしましょう。

0749 附 □兄^{あに}は大学^{だいがく}の付^ふ属^{ぞく}中^{ちゅう}学^{がく}校^{がっこう}に通^{かよ}っています。

□もととなる規則^{きそく}を補^{おぎな}うために付^つけ加^{くわ}えられる規則^{きそく}が、附^ふ則^{そく}です。この語^ごは法律^{ほうりつ}などの

公^{こう}用^{よう}文^{ぶん}では「附^ふ則^{そく}」の形^{かたち}で書^かき表^{ひょう}されています。

0750 赴 □山^{やま}奥^{おく}の分^{ぶん}校^{こう}に大^{だい}学^{がく}を出^でたばかりの若^{わか}い先^{せん}生^{せい}が赴^ふ任^{にん}してきて、子^こどもた^ちに、兄^{あに}のよう^にに慕^{した}わ^れてい^る。

□父^{ちち}は故^{ふる}郷^{さと}で大^{おお}地^じ震^{しん}が起^おきたとき、赴^{おもむ}援^{えん}のため駆^かけつ^けけたが、途^{とちゅう}中^{ちゅう}で恩^{おん}師^しの死^し去^{きょ}の知^しらせ

を聞^きいて、大^{おお}きな衝^{しょう}撃^{げき}を受^うけたそう^だ。

□母^{はは}はお中^{ちゅう}元^{げん}を持^もって、親^{しん}戚^{せき}の家^{いえ}に赴^{おもむ}いた。

0751 腐 □夏^{なつ}は食^{しょく}物^{もつ}が腐^{くさ}りや^きすい季^せ節^つだ。腐^ふ敗^{はい}した牛^{ぎゅう}乳^{にゅう}を飲^のまないようにし^しよう。

□コ^こーチ^ちはチ^ちーム^むを優^{ゆう}勝^{しょう}させよう^と、腐^ふ心^{しん}してい^る。

0752 敷 □児^じ童^{どう}館^{かん}の敷^{しき}地^ちの中^{なか}に動^{どう}物^{ぶつ}を飼^かっている一^い角^{かく}が^{あり}、イ^いヌ^ぬや鳥^{とり}など^がい^ます。

□通^{つう}学^{がく}路^ろ沿^ぞい^に古^{ふる}い西^{せい}洋^{よう}建^{けん}築^{ちく}の大^{おお}きな屋^{やし}敷^きが^あり^ます。

0753 賦 □天^{てん}から付^ふ与^よされた才^{さい}能^{のう}のこ^とを天^{てん}賦^ふの才^{さい}能^{のう}ともい^う。

□月^げ賦^ふで家^か具^ぐを^かい^か替^かえ^まし^た。

0754 譜 □わ^たし^しはピ^ぴア^あノ^のを^{なら}習^なっ^てい^るの^で、譜^ふ面^{めん}を^みな^くて^も、い^ろろ^ろな^き曲^{きょく}が^ひ弾^ひけ^ます。

□^すぼくは好きな^{かしゆ}歌手の^{しんぷ}新譜のCDを買いました。

0755 侮 □^{ていねい}丁寧に^{けいさん}計算をしている^こ子を、^{けいさん}計算が^{おそ}遅い^こ子だと、^{あなど}侮ってはいけません。

□^{たいせい}大勢の^{ひと}人の^{まえ}前で、その^{ひと}人の^{けってん}欠点を^{してき}指摘すれば、^ひっその^ひ日とを^{ぶじやく}侮辱することになります。

0756 紛 □^{こくさいかん}国際間の^{ふんそう}紛争や^{くに}国の^{ないふん}内紛が、^{せかい}いまでも^お世界のどこか^お起こっている。

□^{いそが}忙しさに^{まぎ}紛れて、^{じゅうよう}重要な^{しよるい}書類を^{ふんしつ}紛失してしまった。

0757 雰 □^{せんせい}先生は^{ちかよ}近寄りがたい^{ふん}雰囲気^{いき}を^{ただよ}漂わせて、^{しごと}ひたすら^う仕事に^こ打ち込んでる。

□「^{ふん}雰」という^じ字は「^{あめ}雨」と「^{ぶん}分」からできていて、^{もともと}元々は^ち散り^{すいじょうき}散りの^{あらわ}水蒸気を^{あらわ}表した^あ字だ。

0758 噴 □^{きゅうしゅう}九州に^{しゅうがくりよう}修学旅行^いに行きました。^{あそさん}阿蘇山^{ふんかこう}の^{ふんえん}噴火口^たからはもうもうと^{のぼ}噴煙が^{のぼ}立ち昇っていました。

□^{ともだち}ぼくは^{えきまえ}友達と、^{ふんすい}駅前^{ひろば}の^ま噴水の^あある^あ広場で^あ待ち合わせました。

□^{ふんむき}お母さんは、^{つか}噴霧器^{じょうず}を使って、^{じょうず}ハンカチやブラウスに、^{じょうず}上手に^{じょうず}アイロンを^{じょうず}かけてくれます。

0759 墳 □^{あに}兄は^{だいがく}大学で、^{こふん}古墳^{はつくつちようさ}の^{はつくつちようさ}発掘調査^{はつくつちようさ}をしています。

□^{じんとくみささぎ}仁徳陵は^{せんぼうこうえんふん}先方後円墳^きで、^き規模が^{きよだい}巨大な^{ゆうめい}ことで有名です。

□^{はかまい}墓参りに^{いなかい}田舎^{ふんぼち}行ったとき、お父さんが、「^{ふんぼち}ここが、おまえたちの^い墳墓地^いだぞ」と言いました。

0760 憤 □^{いもうと}ぼくは^{きんじよ}妹とが^{たいしやう}近所の^みがき^み大将^みに^みいじめ^みられているのを見て、^{ふんがい}憤慨し、^ど怒鳴り^どつけてや

った。
□^{ちち}父が^{おこ}怒ると、^{におう}仁王^{ふんぬ}の^{ぎやうそう}憤怒^{ぎやうそう}の^{ぎやうそう}形相^{ぎやうそう}みたいだ。

□^{ちち}父に^{くちごた}しかられているときに、^{くちごた}ぼくが^{くちごた}口答^{くちごた}えをしたので、^{ちち}父は^{ふんぜん}憤然^{せき}として^{せき}席^たを^た立ち、^で出て^い行きました。

0761 奮 □^{しあい}バレーボールの^{かんせん}試合^{しあい}を^{しあい}観戦^{かんせん}した。^{かんせん}マッチ・ポイント^{かんせん}で、^{おうしゅう}ラリー^{おうしゅう}の^{かんせんせき}応酬^{かんせんせき}になり、^{きやう}観戦席^{きやう}は興

いさむ か
奮 のるつぽと化した。

にゅうがくしけん む ふんぼつ じゅけんべんきょう
□入学試験に向けて、奮発して受験勉強をする。

へ

0762 丙 □戦前の学校は甲乙丙丁の四段階で生徒の成績をつけていました。丙は「ひのえ」のことです。

ひのえうま とし か じ おお としう じよせい おっと いのち ちぢ つち ぞくしん むかし
□丙午の年には火事が多い、この年生まれ的女性は夫の命を縮める、土いう俗信が、昔からあったそうです。

□受験生は丙夜のころもまだ勉強に打ち込んでいます。

0763 併 □余病を併発したおばあさんは四つの薬を併用しています。

なんきよく かっこく き ち へいぞん
□南極には各国の基地が併存しています。

0764 柄 □国柄、家柄、それに人柄と、柄にはいろいろあります。

けいかん おうへい たいど み がら こうそく
□警官は横柄な態度で、身柄を拘束した。

0765 陛 □陛下とは現在の天皇・天皇の母と祖母に対する尊敬した言い方です。

てんのうへいか にほん しょうこく しんぜん ふか かっこく ほうもん
□天皇陛下は日本とヨーロッパ諸国との親善を深めるために、ヨーロッパ各国を訪問される予定です。

0766 塀 □大きな家はみごと白い土塀を周囲に巡らしています。

となり いえ いたべい なか と こ
□ボールが、隣の家板塀の中に飛び込んだ。

0767 幣 □いくら紙だといっても、紙幣は貨幣なので、大切に扱いなさい。

ごへい さけ へいもの も じんじゃ まい い
□御幣や酒などの幣物を持って、わたしたちは神社に参りに行きましょう。

にほん せんぜん きんほんいせい へいせい
□日本でも戦前は金本位制という幣制がとられたこともある。

0768 弊 □悪弊や旧弊は弊害なのだから、やはり改めないといけない。

□こう言^いっては語^ご弊^{へい}があるかもしれないが、わたしたちの中^{なか}で日^ひ々^び弊^{へい}風^{ふう}が育^{そだ}っている。

0769 壁 □部^へ屋^やの壁^か紙^{べがみ}を張^はり替^かえて、壁^{へき}面^{めん}を飾^{かざ}りをした。

□今^{こと}年^{とし}の夏^{なつ}は避^ひ暑^{しょ}のため^に高^{こう}原^{げん}へ行^いきま^すす。

0770 癖 □最^{さい}近^{きん}ぼくは「あ^あ、面^{めん}倒^{どう}だ」が口^{くち}癖^{くせ}になっ^てしまっ^た。怠^{なま}け癖^{くせ}がつい^たか^な。

□母^{はは}は潔^{けつ}癖^{ぺき}で、家^か中^{ちゆう}をいっ^つも清^{せい}潔^{けつ}似^にしていま^す。

0771 偏 □父^{ちち}は偏^{へん}屈^{くつ}ですが、偏^{へん}狭^{きやう}な偏^{へん}見^{けん}にはとら^れていま^{せん}。

0772 遍 □通^{とお}り一^{いつ}遍^{ぺん}の説^{せつ}明^{めい}では祖^そ父^ふの苦^く難^{なん}に満^みちた人^{じん}生^{せい}遍^{へん}歴^{れき}は語^{かた}り尽^つくせま^{せん}。

□日^に本^{ほん}全^{ぜん}国^{こく}に遍^{へん}在^{ざい}するお城^{しろ}を見^みてまわ^{った}。

0773 弁 □弁^{べん}論^{ろん}大^{たい}会^{かい}には弁^{べん}舌^{ぜつ}さわやかな人^{ひと}が何^{なん}人^{にん}も出^{しゅつ}場^{じやう}してい^た、

□五^ご弁^{べん}の花^{はな}にはパ^ンジ^ー、ノ^バラな^どがあ^りま^す。

ほ

0774 保 □保^ほ育^{いく}室^{しつ}で、保^ほ母^ぼさん^と赤^{あか}ち^のゃん^{あそ}が、楽^{たの}しそ^{あそ}うに遊^{あそ}んでいま^{した}。

□電^{でん}話^わを取^とり次^つぐとき^は保^ほ留^{りゅう}にし^ます。

□「保^ほ健^{けん}」は健^{けん}康^{こう}を保^{たも}つとい^うこ^とで、保^ほ健^{けん}体^{たい}育^{いく}と^か保^ほ健^{けん}所^{じょ}と^かに^{つか}いま^す。「保^ほ険^{けん}」は損^{そん}害^{がい}
をつ^づぐな^うこ^の保^ほ証^{しょう}とい^う意^い味^みで、生^{せい}命^{めい}保^ほ険^{けん}、健^{けん}康^{こう}保^ほ険^{けん}な^どと^{つか}いま^す。

0775 浦 □来^{らい}月^{げつ}、友^{とも}達^{だち}が、埼^{さい}玉^{たま}県^{けん}浦^う和^わ市^しに引^{いん}っ越^こすこ^のにな^{った}。

□海^{かい}岸^{がん}の砂^{すな}浜^{はま}で、い^かろ^{かた}い^かろ^かな形^{かたち}の貝^{かい}殻^{がら}や、浦^う波^{なみ}に現^{あら}わ^われ^て丸^{まる}くな^{った}ガ^らス^のか^けら^を拾^{ひろ}い^まし^た。

0776 舗 □家^{いえ}の近^{ちか}く^の砂^じ利^や道^{みち}が、舗^ほ装^{そう}され^まし^た。

□駅^{えき}前^{まえ}に現^{げん}在^{ざい}建^{けん}設^{せつ}され^てい^るマ^んシ^{ょん}は一^{いち}階^{かい}が店^{てん}舗^ぽにな^る予^よ定^{てい}だそ^うで^す。

0777 墓 □お彼岸に墓参りをした。花を供え、墓前にぬかずいた。

□墓地には朽ち果てた墓標もあります。

0778 慕 □母は小学校時代に敬慕していた先生が、年ごとに増していく、と言います。

□ポチはわたしを慕ってどこにでもついてきたがります。

0779 簿 □母は仕事に役立てるため、簿記の勉強をしています。

□友達の電話番号を、小学校の名簿で調べて、電話をかけた。

0780 芳 □姉は芳紀まさに十八歳の女子大学生です。

□お父さんは、ウイスキーの芳じゅんな香りを楽しみながら、飲みます。

0781 邦 □ブラジルのように、日系人や在留邦人の多い国では邦字で書かれた新聞が発行されています。

□邦楽は雅楽・能楽など格調の高い音楽のほか、民間に伝わる民謡も含む。

□邦画の名作には本邦だけでなく、異邦でも高く評価されている作品があります。

0782 奉 □町の奉仕活動に参加し、海辺のごみを片付けました。

□一八六七年、徳川幕府の十五代将軍徳川喜一が、政治の実権を天皇に返したことを、大政奉還という。

0783 泡 □みんなに泡を吹かせようと発明した機械は発泡スチロールがつぶれてこわれ、水泡に帰してしまいました。

□古いガラス瓶には小さな気泡がいくつも入っています。

0784 胞 □植物の細胞は細胞壁で囲まれています。

□魚の浮袋を気胞というが、魚は空気の陵を調節して浮き沈みます。

0785 俸 □一般の会社員は月俸をもらうが、プロ野球選手は年俸をもらっている。

□仕事で失敗をしたある人が、減俸処分になった。

0786 倣 □動物園のオウムは人の模倣よりも、カラスの鳴きまねやウグイスのまねのほうが上手です。

□お兄さんに倣って、体の不自由な人が困っていたら、黙っていない助けてあげよう。

0787 峰 □ヒマラヤの主峰エベレストは世界の最高峰です。

□富士山の剣が峰に立って、南アルプスの連峰を見渡しました。

0788 砲 □運動会に使う鉄砲は空砲です。号砲一発、競技開始です。

□わたしは中学校に入ったら、砲丸投げの選手になろうと思っています。

0789 崩 □山崩れが発生して、森やがけがいたところで崩落しました。

□大地震によって多くの家が崩れた。また、全崩壊したり、半崩壊したりしたビルも、数限りない。

□新装開店のデパートに、人々が雪崩を打つように入った。

0790 飽 □日曜日、勉強に飽きたので、絵をかいたのですが、どこか飽き足りなくて、不満が残る絵でした。

□東京の人口は飽和状態に近いようです。

0791 褒 □家のお手伝いでトイレ掃除をしたあ、お母さんから褒められ、褒美に青いリボンをもらいました。

□おじいさんは黄綬褒章をもらって、たいへん喜んでいました。

□けなされたり、褒められたりすることを「毀誉褒貶」といいます。

0792 縫 □天衣無縫な人柄の彼女は以外に手先が器用で、裁縫が得意です。

□転んだだけなのに、思うのほかけがはひどく、傷口を縫合しなければならなかった。

0793 乏 □人間を含めたほとんどの動物は自分の体内でビタミンを作ることができないので、ビタミンが欠乏すると病気になってしまいます。

□人間は貧乏だからと言って不幸せだとは限らない。

□耐乏生活を経験したおかげで、無駄遣いをしなくなりました。

0794 妨 □道に自転車を止めておくと、交通妨害になります。みんなの通行の妨げにならないよう、自転車は道の端に止めましょう。

□破竹の勢いがあるぼくらのチームの優勝は誰も妨げられない。

0795 房 □夜になって少し肌寒くなってきたから、暖房をつけてください。

□官房長官は首相の女房役だといわれています

0796 肪 □脂肪分をとらないと栄養も偏るし、元気がなくなってしまうです。

□お父さんは、「脂肪がついた」といって、わき腹をつまみました。

0797 某 □そのいたずらの犯人は近所の少年であるらしい。

□某国の国王が旅に出た。秘密の旅だったので、行き先はごく一部の人間以外には某所としか知らされなかった。

0798 冒 □激しい風雨を冒して山に入るような冒険は命のないがしろにする暴挙です。

□冒頭に述べましたが、感冒にかかったらなによりも養生することです。

□ぼくを臆病者と決め付けるのはぼくに対する冒涇以外のなにものでもありません。

0799 剖 □わたしたちは理科の実験でカエルを解剖し、胃や腸を取り出しました。

0800 紡 □この町には大きな紡績工場があります。

□紡織機に取り付けられた紡錘には生糸が巻き付けられている。

0801 傍 □公共の場で、傍若無人に騒ぐな。

□裁判の傍聴席を抽選する人たちが、長蛇の列をつくっていました。

0802 膨 □私立図書館には膨大な数の本があり、大勢の市民が利用している。

□東京という巨大な都市は活力に満ち溢れて、さらに膨張し続けている。

0803 謀 □弁護士が犯罪者の陰謀を暴いた。

□殿様のわがままな振る舞いに耐えられなくなった家来たちはついに謀反を起した。

0804 朴 □旅行のおみやげに、朴直な感じの青年が作った、素朴な味わいの人形をもらった。

□ぼくはおじいちゃんの、朴とつな人柄がとても好きだ。

□用事の純朴さを会いする姉は保母になる勉強をした。

0805 牧 □牧場で、家畜たちが牧草を食べるのを見ました。

□遊牧民は水や牧草のある場所でウシやヒツジを放牧しながら、いろいろな土地を旅して生活します。

□キリスト教のプロテスタント教会で、信者を教導く人を、牧師といいます。

0806 僕 □公務員が公僕といわれるのは彼らが公衆に奉仕するしもべだという意味からです。

□昔の大きな屋敷では多くの人を雇い入れて働かせましたが、男の人は下僕と呼ばれていたそうだ。

□戦前に書かれた小説を読むと、主人公の少年の面倒を見る「じいや」と呼ばれる老僕出てくる。

0807 墨 □書道の先生が墨汁をたっぷり含ませた筆で、墨痕鮮やかなお手本を書き上げてくれた。

□墨絵を眺めていると心^{こころ}が落ち着^おいてくる。

0808 撲 □伝^{でん}染^{せん}病^{びょう}を撲滅^{ぼくめつ}しようと、多^{おほ}くの医^い師^しが研^{けん}究^{きゅう}しているが、伝^{でん}染^{せん}病^{びょう}は決^{けつ}して撲滅^{ぼくめつ}できない
だろう。

□犬^{いぬ}を棒^{ぼう}で打^うってはいけません。打^うち方^{かた}を間^{まち}違^がえると、犬^{いぬ}を撲殺^{ぼくきつ}しています。

□友^{とも}達^{だち}と、相撲^{すもう}を取^とって、兄^{あに}を強^だく打撲^{ぼく}してしまった。

0809 没 □読^{どく}書^{しょ}に没頭^{ぼつとう}していたら、いつの間^まにか夕^{ゆう}日^ひが没^{ぼつ}する時^じ刻^{こく}になっていた。

□近^{ちか}ごろ、う^{きん}ちの近所^{じよ}に空^あき巣^すが出^{しゅつ}没^{ぼつ}している。

0810 堀 □城^{しろ}の堀端^{ほりばた}がサクラ並木^{なみき}になっているので、わたしたちは毎^{まい}年^{とし}そ^こで花^は見^{なみ}をします。

□弟^{おとうと}は釣^つり堀^{ほり}で釣^つってきたフナ^{ふな}を、大^{たい}切^{せつ}に飼^かっている。

0811 奔 □大^{おお}雨^{あめ}で川^{かわ}の水^{すい}量^{りやう}が増^まし、本^{ほん}流^{りゅう}が押^おし寄^よせて、堤防^{ていぼう}が崩^{くず}れた。

□「最^{さい}近^{きん}は自^じ由^{ゆう}奔^{ほん}放^{ぼう}に生^いきる女^{じょ}性^{せい}がもてはや^{ちち}されてい^みるね」と、父^{ちち}が、ド^らマ^まを見^みながら、
兄^{あに}と話^{はな}している。

□姉^{あね}はチャリティー・コンサート^{もよお}を催^{とも}そうと、友^{とも}だちと奔^{ほん}走^{そう}している。

0812 翻 □五^ご月^{げつ}晴^はれ^れの空^{そら}の下^{した}に、こ^きいのぼ^もりが気^き持^もちよ^{ひる}さ^{がえ}そうに、翻^{ひる}っています。

□伯^お父^じさん^{えいご}は英^{ほん}語^ごの本^{ほん}を翻^{ほん}訳^{やく}を^している。

0813 凡 □作^{さつ}家^かは非^ひ凡^{ぼん}な才^{さい}能^{のう}に恵^{めぐ}まれながら、凡^{ぼん}庸^{よう}な凡^{ぼん}作^{さく}を書^かいてしまいました。

□四^よ番^{ばん}打^だ者^{しゃ}が絶^{ぜつ}好^{こう}のチ^{こう}ャンス^{きゅう}に、好^{ぼん}球^だを凡^{ぼん}打^{たい}して凡^{ぼん}退^{たい}した。

□毎^{にち}日^{まい}毎^{にち}日^{まい}、平^{へい}々^{へい}凡^{へい}々^{へい}と暮^くらすのが一^{いち}番^{ばん}と、お^いばあ^いさん^いは言^いいます。

0814 盆 □わ^{まち}た^{ぼん}し^{ぼん}の町^{おこな}ではう^らら盆^{ぼん}に盆踊^{ぼんおど}り^{おこな}を^{おこな}行^{おこな}います。

□お^{たん}じ^{せい}い^こさんは丹^{まつ}精^{ぼん}込^{さい}めて松^{はち}の盆^{そだ}栽^{さい}を^{そだ}いく鉢^{はち}を^{そだ}育^{そだ}てて^{そだ}います。

しほう やま かこ ぼんち たいよう はや しず
□四方を山に囲まれた盆地では太陽が早く沈んだ。

ま

0815 麻 □抜歯するとき、麻酔を打たれたら、唇まで麻痺してしまった。

ちち あま つく あざぶで なつよう すず す つ
□父は亜麻から作った麻布出、夏用の涼しそうなスーツを新調しました。

かいとうらんま た かつやく きょうてき やぶ
□エースの快刀乱麻を断つ活躍で、強敵を破りました。

じめん あいだ お まさつ た い や まさつ まもう
0816 摩 □地面との間に起こる摩擦によって、タイヤがかなり摩擦し、摩耗した。

しんじゅくふくとしん まてんろう よる しょうめい うつく
□新宿副都心の摩天楼は夜の照明が美しい。

あくま にんげん まりよく
0817 魔 □悪魔が、人間を魔力でたぶらかす。

とつぜん すいま べんきょう じゃま
□突然に睡魔がおそってきて、勉強が邪魔されてしまった。

ばくまつ いちはちごさんねん ひき くらふね き ばくふ うえ した おおさわ
0818 幕 □幕末の一八五三年に、ペリーが率いる黒船が来て、幕府は上を下への大騒ぎとなった。

やきゅう かいまく
□プロ野球が開幕した。

にんげん からだ ひ ふ しょうかきかん ぞうき ねんまく ほ ご
0819 膜 □人間の体は皮膚でおおわれ、消化器官などの臓器は粘膜で保護されている。

おうかくまく うえ まく まく
□横隔膜の上にある膜を、ろく膜という。

にほん はは ゆうじん かえ きゅうこう はは ひと また ひ
0820 又 □日本に来ていた母の友人がアメリカへ帰ることになった。九項で、母とその人は「又の日

あ わか
に会いましょう」といって別れを惜しんでいた。

ともだち か またか
□友達から借りたものを、又貸してはいけない。

またぎ はなし ほんとう
□これは又聞きの話だから本当のことなのかどうかはわからないよ。

0821 抹 □おばあちゃんに、抹茶を立ててもらった。

りょうしん ひとりたび ゆる いちまつ ふあん かく
□両親はぼくに一人旅を許してくれたが、一抹の不安は隠せないようすで、あれこれと、

まいにち　ちゅうい
毎日、注意ばかりです。

0822 慢 □自慢だった成績も下がりました。

□母は慢性の腰痛に悩まされていて、痛みをガンマンして働いています。

0823 漫 □毎日を漫然と過ごしていたら、頭の中が散漫になった気がする。

□叔父さんの得意な漫談を聞きながら、散歩しました。

み

0824 魅 □友達が「きみのお姉さんは、魅力的だね」と言った。

□姉のピアノの演奏に、わたしはすっかり魅了された。

0825 岬 □日本で一番北の岬は宗谷岬で、西の岬は与那国島の西崎です。

□佐田岬はくちばしのように豊後水道に突き出た、佐田岬半島の突端にある岬です。

□紀伊半島の先端に、いぼのように膨らんだ串本の潮岬は本州最南端の土です。

0826 密 □人口密度の高い都市では麻薬の密売など、犯罪が多い。

□この食品は密閉容器に入れてください。

0827 脈 □小遣いが欲しいと母に頼んだら、だめだった。でも、脈がありそうだから、再度頼もう。

□動脈は血液を心臓から体の各部へ送り出す血管だ。一方、血液を体の各部から心臓へ運

ぶ血管を静脈という。

□文脈が整っていないと、脈絡のない文章になってしまった。

0828 妙 □ふと浮かんだ妙案から指した一手が、意外な妙手で、相手は神妙に投了した。

□少女はお客様に、当意即妙に対応します。

む

0829 矛 □両親から小言を言われるとぼくは黙ってしまうが、兄はいつも小言の矛先をうまくかわす。

□「矛を収める」という慣用句は武器である矛をしまうということから、戦いを止めることを意味する。

□甘いものを食べると、太るといいながらいつもケーキを食べている姉の言葉と行動は矛盾している。

0830 霧 □霧雨の向うに、山がかすんで見えました。

□濃霧の日は港に霧笛が響き渡ります。

め

0831 盟 □ぼくらのチームは市の少年野球連盟に加盟しました。

□グループで盟約を結んだ。

0832 銘 □感銘を受けた科学者の言葉を、銘記しておこう。

□名だたる銘柄の銘菓をいただいたお礼に、銘酒を贈りました。

□父の座右の銘を、わたしも肝に銘じました。

0833 滅 □横断歩道を歩いている途中で青信号が点滅し始めた。

□世界各地に、絶滅の危機に瀕している生物がいる。

0834 免 □はしかは一度かかると、免疫ができて二度とかからないそうだ。

□お兄さんは、「学科試験が免除されないかな」と言いながら、運転免許の試験に出かけた。

□手術によって、危うく市を免れた。

0835 茂 ☐ 雑木林の茂みの中に、わたしたちがいつも遊ぶ秘密の場所がある。

☐ ぼくたちの通っている小学校の校庭では春、サクラが散ってしばらくすると、カエデやケヤキ、イチヨウなどの青葉が、大変な勢いで茂ってきます。

☐ 夏になると庭に雑草が繁茂するので、それを抜くのが、わたしたち兄弟の仕事になります。

0836 模 ☐ 鉄棒で、先生の模範を模倣したが、逆上がりはできなかった。

☐ 美術の時間に、精巧な飛行機の模型を模写した。

0837 妄 ☐ 妄想に駆られた心を、座禅を組んで静めます。

☐ 妄言に惑わされる心はすでに迷妄のふちに沈んでいます。

0838 盲 ☐ 盲導犬はつねに盲目の主人に付き添って主人の安全を守ります。

☐ 人に盲従しているばかりではいけません。

0839 耗 ☐ 父は体力が消耗しやすいからと、よく、栄養ドリンクを飲んでいます。

☐ 母はトイレットペーパーや洗剤などのなくなる困る消耗品はいつも、買い置きしています。

☐ 伯母さんは子どもを事故で亡くしてから、心神耗弱になっています。

0840 猛 ☐ 勇猛な猛兽使いが、トラとライオンに芸を教えています。

☐ この猛烈な暑さ、今年の猛暑は特別にひどいようです。

☐ 猛練習の成果を発揮して、九回裏に猛攻をかけて逆転に成功しました。

0841 網 ☐ 網元の家に行って、魚網の網目の修繕を手伝いました。

□^{くわ}詳しい^ち地図^ずには^{こうつうもう}交通網^{もうら}がすべて網羅されています。

□^{てつじょうもう}鉄条網^{もうまく}がいきなり網膜^とに飛び込んできた。

0842 黙 □^{はん}犯人^{にん}は^{もくひけん}黙秘権^{こうし}を行使して、^{ちんもく}沈黙^{つづ}を続けていた。

□^{げこうちゅう}下校中^{ともだち}、友達^あのお母さん^{もくれい}に会って目礼した。

0843 紋 □^{はは}母^{よめい}はお嫁入り^{かもん}のとき、家紋^{もんぶく}をつけた紋服^もを持ってきたそうです。

□^{にほんじん}サクラは日本人^{あい}に愛^{でんとうこうげいひん}されていて、伝統工芸品^{もよう}の模様^{つか}にもよく使われている。

□^こ湖^{きしべ}の岸辺^{こい}で恋^なしを投^{しず}げたら、静かな湖面^{こめん}にいくつの波紋^{はもん}ができました。

0844 匁 □^{もんめ}匁^{むかし}とは昔^{おも}の重さ^{たんい}の単位^{ひと}の一つで、一匁^{いちもんめ}は約三・七五^{やくさん}グラムの重さ^{しちごぐらむ}を表^{おも}します。

□^{えどじだい}江戸時代^{もんめ}には匁^{かね}というお金^{たんい}の単位^{いちもんめ}がありました。一匁^{いちりょう}は一両^{ろくじゅうぶん}の六十分^{いち}の一^{いち}にあたるそうです。

□お母さん^この子ども^{はないちもんめ}のころには「花一匁^{あそ}」という遊び歌^{うた}があり、「勝手^{かって}うれしい、花一匁^{はないちもんめ}、
負^まけてくやしい、花一匁^{はないちもんめ}…」と歌^{うた}いながら、遊^{あそ}んだものです。

や

0845 厄 □^{むかし}昔^{かぞ}から、数え年^{どし}で男^{おとこ}は二十五^{にじゅうご}、四十二^{よんじゅうに}、六十歳^{ろくじゅうさい}、女^{おんな}は十九^{じゅうきゅう}、三十三^{さんじゅうさん}、が厄年^{やくどし}だとい
われ、厄落^{やくおち}としをする風習^{ふうしゅう}がある。

□^{ちち}父^{やっかい}は厄介^{もんだい}な問題^{かか}を抱^{かお}えて、うかぬ顔^{かお}をしている。

□^{いし}石^{たお}につまずいて倒^{しゅんかん}れた瞬間^てに、手^{からだ}で体^{こっせつ}をかばおうとして骨折^{さいやく}した。とんだ災厄^{さいやく}だった。

0846 訳 □^{こうこうせい}高校生の姉^{あね}は英語^{えいご}の詩^しや小説^{しょうせつ}を、原文^{げんぶん}と訳文^{やくぶん}の両方^{りょうほう}で読^よんでいる。

□^{つか}使^{こづか}った小遣^{うちわけ}いの内訳^かをノート^かに書^かいた。

ゆ

0847 愉 □愉快に毎日を送れるよう、朝早く起きて体操をします。

□家族全員で温泉に行って、愉悦のときを過ごしてきました。

0848 諭 □授業中いたずらをした生徒に、教諭はこんこんと諭し、説諭した。

□義務教育が終わった高校では規律や規則に反した生徒を諭旨退学処分に付することがあります。

□日本には戦前、軍人勅諭というものがありました。

0849 癒 □風邪で寝込みましたが、ようやく治癒しましたので、明日から学校へ行きます。

□おじいちゃんの骨折の快癒祝いを、家族みんなでしました。

0850 唯 □彼は上司にどんなことを命じられても、唯々諾々として従う。

□父の唯一の趣味は釣りです。

0851 幽 □日本の幽霊はなぜか足のない姿で絵かれることが多い。

□江戸時代には一家の主人が罪が犯すと家族まで幽閉されることがあった。

0852 悠 □地震だというのに、お父さんは悠揚迫らぬ態度で、悠然として座っています。

□出発の時刻が迫ってきても、姉は悠長に編み物をしています。

□ランナーはホームに悠々生還しました。

0853 猶 □絵を仕上げるために、先生から一日の猶予をもらいましたが、もう一刻の猶予もできない

事態に立ち至ります。

0854 裕 □試験の前日にファミコンをするなんて、きみはずいぶん余裕があるだな。

□裕福な家庭に生まれたからって、幸せとは限らない。

0855 雄 □カボチャ、キュウリ、イチョウ、マツなどの花には、雄しべだけを持つ雄花と、雌しべだけ

を持つ雌花との二種類があります。

□山の頂上に立ってみると、あたりに雄大な景色が広がっていました。

□最近、海外に雄飛するプロ選手が増えてきました。

0856 誘 □母は、いま、保険の勧誘に来た人の話を聞いています。

□朝刊に、幼女誘拐事件の記事がのっていました。

0857 憂 □ある学者が、人類の未来を憂える発言をしていた。

□球場の観客たちは一喜一憂しながら試合の成り行きを見守っている。

0858 融 □お店を改装するために、金融機関から融資を受けました。

□意見が違っても、互いに意見を融合させよう。

よ

0859 誉 □今回は負けたが、次の試合ではチームの名誉ばん回のために全力を尽くそう。

□オリンピックの水泳競技で、日本代表が金メダルの栄誉に輝いた。

0860 羊 □羊飼いの少年は毎日、子羊の世話をします。

□「毛糸って何から作られているの」と弟に聞かれたので、「羊毛だよ」と教えてやった。

□昔、中国で、ある肉屋が羊の頭の看板を出しているのに、本当はイヌの肉を売ってご

まかしていたという話から、見かけだけよくて中身がよくないことのたとえを羊頭狗肉
といいます。

0861 庸 □叔父は凡庸な人間を自認しているが、会社で重要な地位に登庸された。

□討論会の議長には中庸を得た人が適任だと思います。

□大化の改新で、日本にも唐の租庸調という税制が取り入れられました。

0862 揚 □たこを高く揚げて意気揚々としていたら、風がないで池に落ち、挙げ句の果てに敗れてしまった。

□貨物の荷揚げ作業をしました。

0863 揺 □大地を揺り動かす大地震にぼくはすっかり動揺してしまい、家から飛び出した。

□今や揺るぎない地位を占めているコンピューターも、揺らん期にはいろいろな転変があった。

□お父さんが巨大を揺すらせて歩くと、家が揺らぎます。ぼくが暴れても、家は揺れません。

0864 窯 □米や水を加熱するかまは釜、かわらや陶器を焼くためのかまは窯という字を使うんだよ。

□わたしは佐賀県の有田町にある窯元を訪ねました。

0865 養 □毎日、運動をして体力を養いながら、本を読み勉強して、教養を高めよう。

□叔父夫婦は友人の子どもを養子にして、養父母になりました。

□わたしたちの町はウナギの養殖が盛んです。

0866 擁 □ナポレオンは兵隊を擁して、エジプト遠征に出発した。

□教会の捨てられていた赤ん坊の母親が訪れ、その子を抱擁し、泣きぐれた。

0867 謡 □歌謡曲だけでなく、民謡にももっと親しみたい。

□祖父は書齋で熱心に謡曲の謡を練習しています。今度、謡吟の会が開かれるのです。

□幼稚園で、童謡をたくさん教えてもらいました。

0868 抑 □怒りを抑え、感情を抑制して話を注意深く聞いて、冷静な判断を下そう。

□本を音読するときは抑揚をつけて読む。

0869 翼 □部屋から出たことのないネコを外に連れ出したら、小心翼翼のありさまでした。

かわた
□川田くんはリレーで活躍し、優勝の一翼を担いました。

ら

0870 裸 □親戚の叔父さんが、「火事で家が焼けしまい、丸裸になってしまった」と手紙をよこしました。

□イチョウ夜スギ、マツなどのように、種で増える植物で、種になる部分がむき出しで裸の状態のものを、裸子植物といいます。

□お姉さんはある作家の赤裸々な一生を描いた映画を観て、感激していました。

0871 羅 □百科事典には森羅万象が羅列して、網羅されています。

□船員がのびのびと甲羅干しをしている。

0872 雷 □稲光が雷雲を鋭く走って雷鳴がとどろき、激しい雷雨になった。

□遠雷だと思っていたら、春雷特有の寒冷前線の移動で、近くに落雷した。

□なにごととも付和雷同するのはよくありません。

0873 酪 □ぼくのお父さんは酪農を営んでいます。

□牛乳などを加工してつくった脂肪分の多い食べ物を、乳酪と呼びます。

0874 覧 □学級会で、係りの一覧を作りました。

□現代絵画の展覧会に行きました。

0875 濫 □今年の梅雨は大雨が続き、日本の各地で川のはん濫が起きた。

□ぼくは読書が好きで、今は推理小説を乱読している。

0876 欄 □新聞の投書欄に、母の投書がのった。

□おじいちゃんの家部屋の欄間はみごとな透かし彫りです。

0877 吏 □新聞では連日のように管理の汚職事件が報じられています。

□ひいおじいちゃんが起して品物を調べていたら、「事務吏員」という肩書がある証明書が出てきた。

□叔父さんが市役所に就職することになりました。叔父さんは「能吏になりたい」と言っています。

0878 里 □人里離れた山を歩くと、心が洗われるようだ。

□わたしは伯母の家の里子だが、生みの親からも里親からも大切にされ、幸せだ。

□海里は海上での距離を表す単位で、一海里は約一八五二メートルです。

0879 痢 □ぼくは冷たい牛乳を飲みすぎて、下痢になりました。

□赤痢は赤痢菌が原因で、大腸に起こる病気で、法定伝染病の一つに定められています。

0880 履 □教育実習を履修している姉は履歴書の資格欄似教員と書いています。

□履物の中では草履やげたなどが苦手です。

0881 離 □きみたちは授業中によくおしゃべりをするので、机を離すぞ。

□父は離島で教師をしていたが、離職することになった。島から離れる日、生徒たちは離別を惜しんで泣いたそうだ。

□飛行機が離陸したあと、パイロットは長距離フランの疲れをいやすために、ホテルで十分睡眠をとった。

0882 柳 □おばあちゃんは荷物を整理しながら、「昔は柳行李に入れて運んだものだよ」と言いました。

□ぼくたちを廊下に並べて、先生は柳びを逆立て怒っています。

□川柳は江戸時代に、「柳多留」を著した柄井川柳に由来する。

0883 竜 □竜巻は地上のものや海水などを空高く巻き上げる、激しい空気の渦巻きだ。

□竜宮は乙姫や竜の姿をした竜神が住むという御殿で、「浦島太郎」の伝説にも登場します。

□計画を竜頭蛇尾に終わらせないように、頑張ろう。

0884 隆 □大きな地震が起きると、地盤が隆起して地形が変わることがあります。

□人気商品を開発した会社はばく大な利益が上がり、隆盛を極めていきます。

□筋骨隆々のプロレスラーがリングの上に登場し、客席からどよめくような歓声が上がりました。

0885 硫 □箱根の温泉は硫黄のにおいがする、硫黄泉です。

□硫酸は色にもおいもしませんが、粘りのある物質です。水に混ぜると高い熱を出します。

0886 虜 □アンネ・フランクは第二次世界大戦中、ナチスの捕虜にされた。

□虜囚に親切に接した兵士は戦争が終わって、かつての虜囚と友達になった。

0887 慮 □遠慮せずに、率直に語ろう。

□修学旅行中に不慮の事故が起きないように、先生たちはいろいろな配慮をします。

0888 猟 □漁期になると、裏山に猟犬を連れたハンターが、押し寄せる。

□このあたりの山林は禁猟区域です。

□アメリカに留学した兄の手紙には「暇さえあれば、図書館で文学書を渉猟している」と書かれていた。

0889 僚 □国会で官 僚が質問を受け、官 僚や僚 友の大臣と相談したうえで、答弁した。

□叔父さんは仕事のあと、同 僚とよく飲みに行くそうだ。

□アクロバット飛行をする飛行機は僚機と息がぴったら合わないとうまくいかない。

0890 寮 □姉の学生寮の寮母さんは厳しいけれど優しく、寮 生を娘のように見守っている。

□祖父は旧制高校の寮 生だった友達と飲むと、大声で寮歌を歌う。

□叔父は社員寮の寮 舎を管理しています。

0891 糧 □おじいちゃんの少年時代は戦時中で食 糧 事 情が悪く、いつもおなかをすかせていてそうです。

□戦国時代は兵糧攻めという方法がよく使われた。

□人間が生きていくのに、糧 食はもちろん重要だが、心の糧も欠かせない。

0892 厘 □お金の単位の厘は一万円の千分の一で、一八七一年から一九五三年まで使われていたそうです。

□割合の単位には割、分、厘などがあり、割は一の十分の一、分は一の百分の一、厘は一の千分の一を表す。

0893 倫 □人倫にもとる行為をしないように、倫理を学びます。

□不倫は反道徳的な行為です。

0894 隣 □友達と騒いでいたら、隣 近所の迷惑になるから静かにしなさいと、母に注意された。

□わたしたちの小学校の体育館は校舎に隣接して立っています。

0895 臨 □用意万端整えて、試験に臨んだ。

□臨時列車に乗って、臨海学校へ行った。

□あの人は機転が利くので、いつも臨機応変の対応ができる。

る

0896 累 ☐ 累積した赤字を累計すると、膨大な額に累増していることがわかった。

☐ 累代の係累が一堂に会すと、累々とした思い出がよみがえってくる。

☐ いたずらをして、友達に累を及ぼした。

0897 罌 ☐ 一罌に出罌した。すぐに盗罌したら、罌審にアウトを宣告された。

☐ 離れ島の孤罌を見物に行きましたが、罌壁が崩れていて、見る影もありませんでした。

れ

0898 励 ☐ ぼくたち野球部員はお互いに励まし合い、練習に励んだ。

☐ ピアノの発表会の当日、おばあちゃんから、激励の電報が送られ、感激しました。

☐ 町民にスポーツを奨励する町長は公営のテニス場や公園のクリケット場などのスポーツ設備の充実に力を入れている。

0899 鈴 ☐ 予鈴がなると、みんな一斉に走って席につきます。

☐ お店の中に入ると、呼び鈴が自動的に鳴ってお店の人が奥から出てきました。

0900 霊 ☐ 霊場の霊域に立ち入ると、霊気に打たれる。

☐ 母は祖母の霊前にぬかずき、死者の霊魂を慰霊に努めました。

☐ 霊妙な音楽の調べに、靈感を受けた。

0901 隸 ☐ 一八六三年、アメリカの大統領リンカーンは奴隷解放宣言をした。

☐ 歴史の本を読むと、弱い国が、大国に隸属した話ができます。

0902 麗 ☐ カニングの現状を発見した先生は「きみたちの麗しい友情には感動の涙が出るよ」

い 　くしょう
と言って、苦笑した。

□美辞麗句を並べ立てた文章よりも、稚拙でも心のもった文章のほうが、人の心をゆさぶる。

□踊り子は麗々しい衣装で、華麗なダンスを披露した。

0903 暦 □現在のカレンダーには太陽暦が用いられていますが、日本では昔は太陰暦を使用していました。

0904 劣 □人と優劣を競おうとするから、劣等感にさいなまれるんだ。

□圧倒的な劣勢を挽回して勝った。

0905 烈 □球場の観客たちは応援するチームに熱烈な声援を送った。

□烈震はがけが崩れ、家が壊れ、地割れが起きるくらいの強い地震のことで、震度六に当たります。

0906 裂 □目の前で風船が破裂したので、わたしは驚いて思わず叫び声をあげてしまった。

□鉄棒から落ちて、脚に裂傷を負った。

0907 廉 □母は家具の在庫処分センターで、在庫品を廉売していたので、応接セットを廉価で買った。

□ぼくは政治家は贈賄など破廉恥な行いをしないで、清廉潔白な政治を目差してほしいとおもう。

□彼は廉直な人柄が買われて、学級委員に推薦されました。

0908 鍊 □鍊金術は近世初期までヨーロッパで盛んでした。

□わたしたちは鉾山のふもとの製鍊所を見学しました。

ろ

0909 炉 □いろりのある古い家を訪ね、炉端でご飯を食べました。

□きょうはとても寒さむかったので、使い捨つかすての懐炉かいろうを持もって学校がっこうへ行いきました。

0910 露 □早起はやおきをして散歩さんぽした。朝顔あさがおにぬれた草花くさばながとてもきれいでした。

□ぼくの家ではいつも、近くで採ちかれる露地栽培とろじさいばいの野菜やさいを食たべています。

0911 郎 □式場しきじょうに、白しろいタキシードの新郎しんろうとウエディングドレスの新婦しんぶとが初々しゅじゅしく入場にゅうじょうしてき
ました。

□叔父おじはことの数かずを聞きかれると、「野郎やろうばかり三人さんにんもいるんだよ」と笑わらって答こたえる。

0912 朗 □明朗めいろうな彼女かのじょは朗読ろうどくがととても得意とくいです。

□ぼくはいとこが泊とまりに来くるといいう朗報ろうほうを聞きいて、うれしくななった。

□カルタを取とりで、読よみ手ての祖父そふが朗々ろうろうと百人一首ひやくにんいっしゅを朗詠ろうえいした。

0913 楼 □ニュー YORK に行おこなったら、なんといいっても摩天楼まてんろうにのぼのってみたいたいです。

□参道さんどうの奥おくの楼門ろうもんをくぐると、ふるい大おおきな楼閣ろうかくが立たっていました。

0914 漏 □漏斗ろうとに穴あながああいていて、そこそこから漏水ろうすいしてしましまった。

□遺漏いろうのないようにサクラ名簿めいぼを作さくせい成せいしましたが、肝心かんじんの先生せんせいが脱漏だつろうしてしましいました。

□火事かじの原因げんいんは漏電ろうでんだだったと、町会まちかい長ちやうが漏もらしましました。

わ

0915 賄 □高校こうこう生せいの兄あには賄まかないつきの寮りやうで生活せいかつしている。

□賄賂わいろを送おくることは贈賄ぞうわい、受うけ取とることは収賄しゅうわいと呼ばよれ、どちらも罪つみになる。

0916 惑 □一匹いっぴきの飼かい犬いぬが逃にげ出だし、近所きんじょの人ひとたちは迷惑めいわくしたそうさうだ。

□初はじめて行おこなった街まちで道みちに迷まよい、ぼくは当惑とうわくしてしましいました。

0917 枠 □P T A の会則かいそくの枠内わくないで活動計画かつどうけいかくを立たて、予算よさんの枠組わくぐみを作つくってみた。

みずいろ かべ しろ まどわく
□水色の壁に白い窓枠のレストランが、遠くに見えてきた。